

43035

教科書文庫

4

230

42-1932

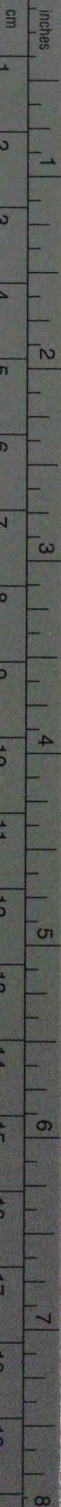
20000
63448

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

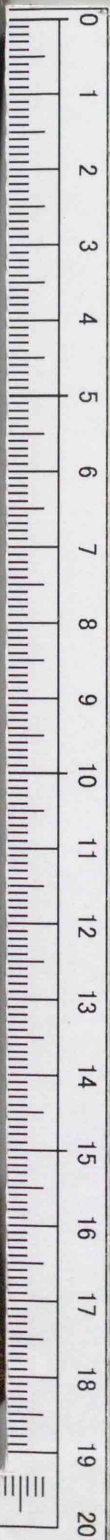
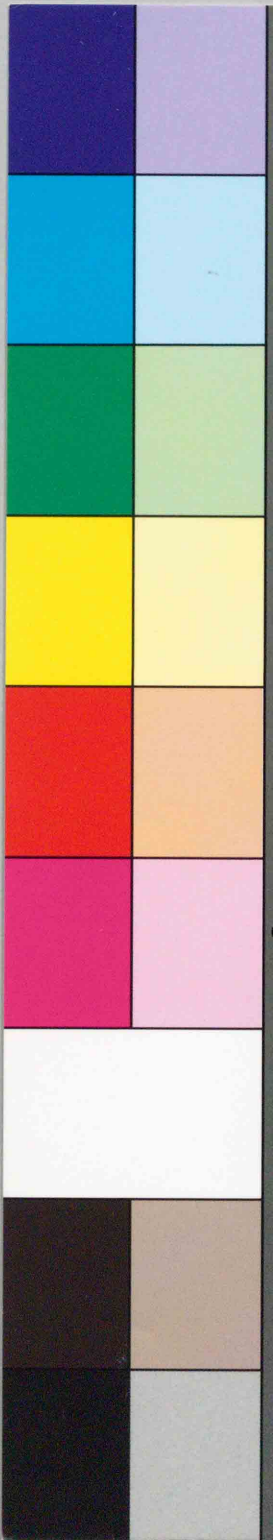
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

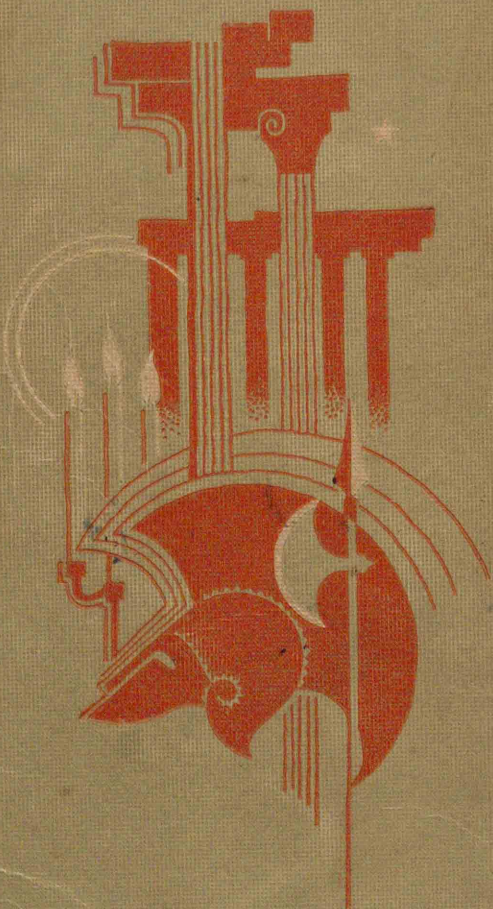
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



375.9
Or.21
資料室

史洋西新子女

著作類大士博學文



資料室

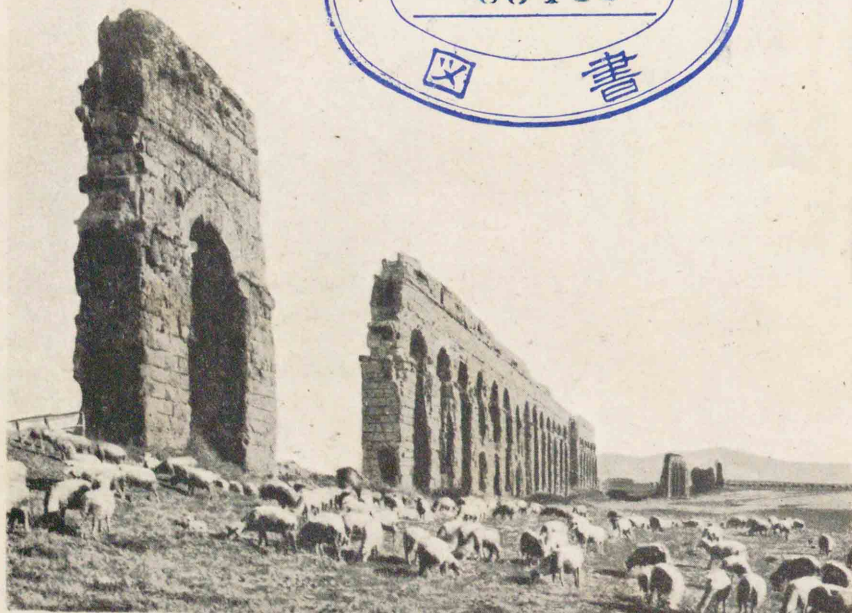
濟定檢省部文

用科史歷校學女等高 日七十二月二十年七和昭

史洋西新子女

授教學大國帝北東

著伸類大士博學文



墟廢の道水古外郊マ-ロ

375.9
Or 21

緒言

西洋五千年の歴史の大勢を出來得る限り簡明に叙述すること、これが本書編纂の主要目的であつた。従つて教官諸氏も、その意味に於て本書を使用されんことを望んで已まない。

いふまでもなく本書は女學校用の西洋歴史教科書として最善を期したものであるから、單なる史實の記載のみに満足せず、更に進んで一般女子としての教養に資するところがあらしめるやう、幾多の趣味ある説話・圖畫の類を挿入するやうに努めた。なほ現代世界の形勢の頗る重大なるものがあるのに鑑み、最近史に對しては、特に深い注意を拂つた。本書を使用される諸氏は、十分にこの點に留意さ

れんことを切望する。

昭和七年六月

著者 識す

目次

第一篇 上古

- 第一章 古代東方諸國 一
- 第二章 ギリシヤ 五
- 第三章 ローマ 一〇
- 第四章 ギリシヤ・ローマの文明 一六

第二篇 中世

- 第一章 ゲルマン人の移動 サラセンの興起 二二
- 第二章 ローマ教會 チャールス大帝 二六
- 第三章 十字軍 東方民族の侵入 三二
- 第四章 中世の社會 封建制度 三六

第五章 中世に於ける西ヨーロッパ諸國の狀勢……………三七

第三篇 近世(上)

第一章 文藝復興 地理上の發見……………四三

第二章 宗教改革とその影響……………四六

第三章 諸國の宗教戰爭……………四九

第四章 イギリス及びフランスの發展……………五三

第五章 ロシヤ及びプロシヤの興起……………五九

第六章 イギリス・フランスの植民政策の衝突……………六三

第七章 アメリカ合衆國の獨立……………六六

近世の文明……………六七

第四篇 近世(下)

第一章 フランス革命……………七三

第二章 ナポレオンの偉業……………七七

第三章 反動主義と自由主義……………八四

第四章 イギリス及びフランスの發展……………八七

第五章 アメリカ合衆國の發展と南北戰爭……………九三

第六章 イタリヤ及びドイツの統一……………九六

第七章 ロシヤの發展とロシヤ・トルコ戰役……………一〇三

第八章 列強のアフリカ・アジア及び太平洋經營……………一〇五

第九章 近世の文明……………一一四

第五篇 最近世

第一章 ベルリン會議後の列強の形勢と關係……………一二二

第二章 世界大戰……………一三六

第三章 大戰後の世界の形勢……………一四三

第四章 現代文化の傾向と我が國の地位……………一四三

附録年表……………一四五

挿畫目次

古代エジプト人の生活……………二一三
 ローマ時代の婦人風俗……………二一三
 古代の彫刻……………一八一
 中世ゴシック建築の偉觀……………三四一
 フランスブルグの歌合戦……………三六一
 十六世紀農民の風俗……………四八一
 近世初期の都市……………七二七
 パリの籠城……………一〇〇一
 現代の大工場……………三四一
 近代工藝品の變遷……………四二一

女子新西洋史

第一篇 上古

第一章 古代東方諸國

西洋文明の二大源泉

A エジプト
 B 古バビロニア

エジプト

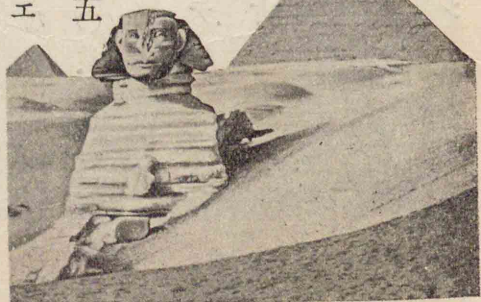
A 隆盛の原因

① 氣候温暖
 ② 地味肥沃

B 文明の特色

① 多神教崇拜
 ② 死體をミイラとしたこと

西洋文明の起源 西洋文明の最初の光は、約五千年の昔にナイル河畔のエジプトと、チグリス・エ



スクンイフスとドゥミラビ

ウフラテス兩河沿岸の古バビロニアとから發した。

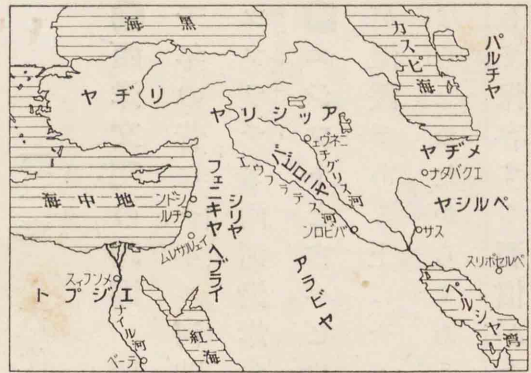
エジプトと古バビロニア エジプトがかく早く開けたのは、氣候が温暖である上に、ナイル河が毎年定期に氾濫して、その流域を肥沃ならしめたからである。國人は多神教を奉じ、且つ死體を木乃伊として保存する習慣があつた。また太陽曆象形文字を發明し、ピラミッド

- ③ ピラミッドの建設
- ④ 象形文字の使用

物に象つてつくられ、各字は音を表はしてゐる。

古バビロニヤ

- A 隆盛の原因
 - ① 氣候温暖
 - ② 地味肥沃
- B 文明の特色
 - ① 天文に長じたこと
 - ② 楔形文字の使用
 - ③ 工業の發達



古代東方諸國地圖

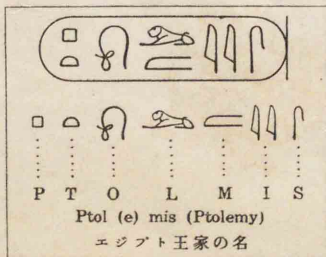
ド・スフィンクスを建設し、測量術・天文・數學等をも進歩せしめた。

ピラミッドは古代エジプトの帝王及び貴人の墳墓で、巨大な切石を方錐形に積あげて造つたものである。さうして遺骸を安置する室と寶物を藏する室とは坑道によつて連絡されてゐる。現存するものうち最も大きなのは、底邊の長さ二三〇米、側斜面の長さ約一八〇米、高さ一三七米である。

チギリス・エウフラテ

ス兩河の沿岸にも、エジプトと時を同じうして古バビロニヤ王國が起つた。國人は早くから天文

の知識を有し、彫刻、建築、數學にも長じ、楔形文字を使用してゐた。また工業も發達し、特にバビロン



例一の字文形象



古代五洲の生活

古代エジプト人の生活

古代エジプトの第十八王朝は、紀元前十五・六世紀の頃であつて、エジプトの國勢の最も盛んな時代であつた。その時代の遺物は帝王貴紳の宮殿・墳墓を始め、工藝品や繪畫彫刻などが少からず残つてゐる。この圖は上エジプト、テーベ附近に發見された第十八王朝時代の或る墳墓の壁に描かれた畫の一部分で、當時のエジプト人の日常生活や、勞働状態を知ることが出来る。上圖は網で水禽を捕へて、それを料理しつゝある光景で、下圖は葡萄を栽培し、その實を搾つて葡萄酒を製造する光景である。葡萄酒は裸體の職工が跣足で葡萄の果實を踏みながら汁を搾つて製した。なほ上圖に見るが如く、エジプト人は平面的の事物を、そのまま立面的に描いてゐた。右方の方形は池であつて、その水面は立面的に描かれてゐるのである。

ヘブライの特色
一 神教崇拜

楔形文字は象形文字から起つたものでヒエログリフと稱する。圖はベルシヤの楔形文字。



例一の字文形楔

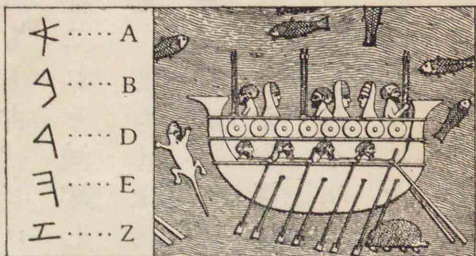
織は有名であつた。

ヘブライとフェニキヤ エジプト・古バビロニヤ
について早く發達したものはヘブライとフェニキヤである。ヘブライ人は長い間流浪した後、シリヤの南部のPalestineに建國し、固く一神教を信じ自ら神の優良なる選民として誇つてゐた。後世のキリスト教は、この宗教から發達したものである。

アッシリヤの國都ニネヴェ附近の宮殿内壁面の彫刻で、軍艦の中央に並ぶ丸形のものに楯である。

フェニキヤの特色
A 商業に長じたこと
B 東方文明を傳へたこと
C 音標文字をつくつたこと

地中海の東岸に起つたフェニキヤは、専ら商業貿易に従事し、航海に秀で、古代西洋における商業國民として名高い。またエジプト・古バビロニヤ等の東方文明を西方に傳へた上、自ら簡單なる音標文字をつくつて、西洋文明の基を開いた。



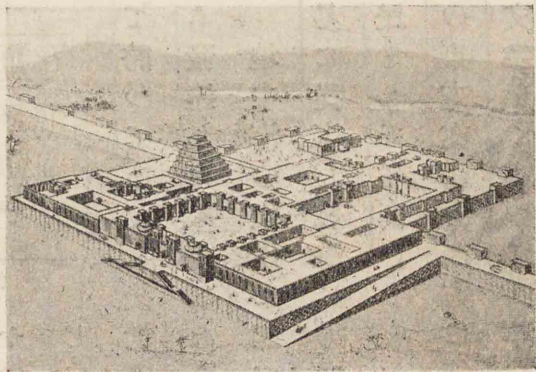
字文標音と艦軍のヤキニエフ

大英博物館で研究されたアッシリア宮殿の復原図で、チグリス河の東岸にあつてカラの王宮とも稱せられる。中央に星を祀る方錐臺が聳えてゐる。

ベルシヤ

A 征服地

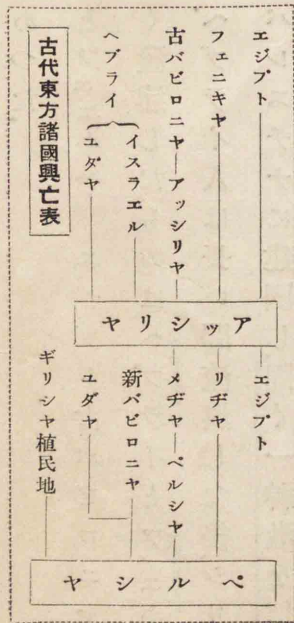
- ①メヂヤ
 - ②ギリシヤ植民地
 - ③新バビロニア
 - ④エジプト等
- B 最大領土
東境=インド
西境=バルカン半島
C ダリウス一世



殿宮ヤリシッア

四 アッシリヤ Assyria
アッシリヤはもと古バビロニアの植民地であつたが、後これを滅ぼして一大統一帝國を建設した。しかし、まもなく衰へてベルシヤに統一された。

五 ヘルシヤ Persia
ヘルシヤは、メヂヤの屬地であつたが、後メヂヤを滅ぼし、更に小アジア沿岸のギリシヤ植民地、新バビロニア、エジプト等を服して一大國家をつくつた(前五三)。



してダリウス一世の時にはその領域が最も廣く、東はインダス河から西はバルカン半島にまで及び、國內もよく治つた。

第二章 ギリシヤ

圖説

右は四人の女が、左方に立つて、婦人の髪を洗つて、粉を練つて、麵粉を合せて、左にグルアと形は、右にグルアと呼ぶ外套を纏うてゐる。グルア風俗を表はしたものである。ルーヴル博物館蔵。

スパルタ

A 隆盛の原因
國家主義によるスパルタ武士の養成

B 特徴
貴族・平民・奴隸三階級の分立



屋地麵のヤシリギ

一 西洋文明の源泉
ギリシヤはヨーロッパ最初の文明國で、その文明は實に西洋文明の源泉となつてゐる。

二 スパルタとアテネ
ギリシヤは數多の小地方に分れてゐたが、そのうちスパルタとアテネとが最も有名であつた。



人婦ヤシリギ

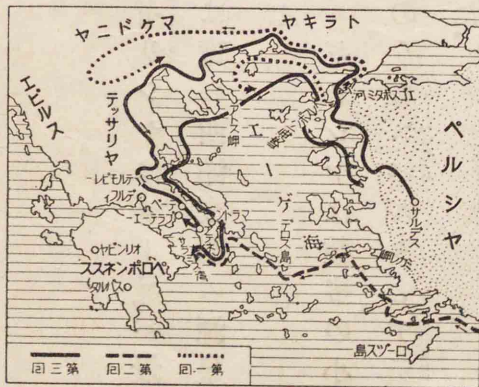
スパルタはドリリヤ人の建設した國で、國民は貴族・平民・奴隸の三階級からなり、政權は専ら貴族に屬してゐた。貴族は極端な國家主義の教育を實施し、剛健な武士と強壯な婦人とを養成して、遂にペロポネ

ネスス半島を統一した(前六世紀)。

スパルタでは、男子は七歳になれば國家の共同教育所に入れて嚴格なる教育を施し、勇敢にして愛國の念に富む少年たらしめ、二十歳に達すれば合宿所に入れて所謂スパルタ武士をつくり上げた。質實剛健はスパルタ武士の特色で、浮華文弱を何よりも輕蔑した。随つてスパルタの女子もまたこの風をうけ、わが子が出陣せんとするや、この楯を持つて歸れ、しからざればこの楯に載つて歸れと戒めたといふ。

アテネはイオニア人の建設した國で、君主專制貴族政治を経て民主政治となつた。アテネ人は文事に長じたばかりでなく、スパルタの陸軍に對し、自ら海軍を以て長所としてゐた。

三 ペルシヤ戰役 小アジア沿岸のギリシヤ植民地が、ペルシヤの支配から脱せんと



圖地要役戰ヤシルベ

ペルシヤ戰役
A原因
ギリシヤ植民地の反抗

アテネ
A 隆盛の原因
民主政治
B 特徴
① 文事に長じたこと
② 海軍に秀でたこと

B 戰況
前後三回
C 結果
ギリシヤの勝利

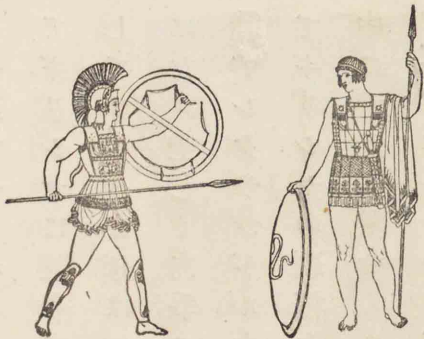
ギリシヤの輕裝歩兵である。

サラミス海戦
支那孔子の頃

○は西洋の事蹟
●は日本・東洋に於ける同時代の事蹟を對照したもの。

ギリシヤの盛衰

A アテネ
① ペリクレス出現
② 文化の隆盛
③ スパルタに破る
B スパルタ
① アテネを破る
② テーベに滅ぼさる



ギリシヤの兵士

して、アテネに援助を求めたことからペルシヤ戰役となり(前四九三)、ペルシヤは前後三回に互つてギリシヤに侵入を企てた。しかし、ギリシヤ諸邦はアテネと同盟してこれに當り、テルモピレの戦には敗れたが、サラミス灣の海戦には大勝を得、終にペルシヤをして和を請ふに至らしめた。

四 ギリシヤの盛衰 ペルシヤ戰役中アテネ

Condemner of Deios

Pericles

は次第に勢を得遂にデロス同盟の盟主として諸邦に號令するに至つた。更に内にあつては、大政治家ペリクレスが出て民権は大いに伸び、商業は發達し、文藝・美術もまた盛となり、アテネの名聲は燦然と輝いた。後世この時代をペリクレス時代といひ、ギリシヤ文化の黄金時代とする。

C テーベ
 ① スバルタを破る
 ② マケドニヤに滅ぼさる

大英博物館蔵。ヘルメット形の兜は當時の武將を示したものである。



スレクリベ

ペリクレスはデロス同盟の共有資金を以て、ピレウス港とアテネとを結ぶ城壁を完成し、なほアテネ市を美しく飾つた。また文藝美術を保護奨励し、海軍の隆盛をはかり、アテネの全盛時代を現出せしめた。しかしまもなく疫病のために斃れたのは、アテネのみでなく、ギリシヤ全土にとつても大なる損失であつたであらう。

やがてペロポネソス戦役が起り(前三三)、スバルタがアテネに代つ

てギリシヤに號令することとなつたが、その覇權も僅かに三十年にして

してテーベに奪はれた。しかしテーベもまた振はず、ギリシヤ諸邦

はたゞ空しく内争に疲弊するばかりであつた。

五 アレクサンドル大王 この時起つたマケドニヤ王フィリップはやが

てギリシヤの覇權を握り、ついでペルシヤ遠征を企てたが、その準備

中に近臣に弑せられた。その子アレクサンドル大王はその志を繼

ぎ、先づペルシヤを征服し、シリヤ・エジプトを従へ、更に中央アジアを

アレクサンドル大王

- A 外征
 - ① ギリシヤ征服
 - ② 小アジア・中央アジア・エジプト等
- B 内治
 - ① 東西文化の融合

- ② アレクサンドリア市の建設
 - ③ 學問の奨励
- 大英博物館蔵。パリーのルーヴル博物館蔵。



王大レンドンサクレア

取り、遠くインドの西北部を略してバビロンに凱旋した(前三四)。

爾來大王は東西文化の融合を企て、人種

及び宗教の統合を計

畫し、また多くのアレ

クサンドリア市を各地に創設し、そこにギリシヤ人を移住せしめて、ギリシヤの學問・美術・工藝

風俗等を傳へ、一方東洋文明の保存にも力を用

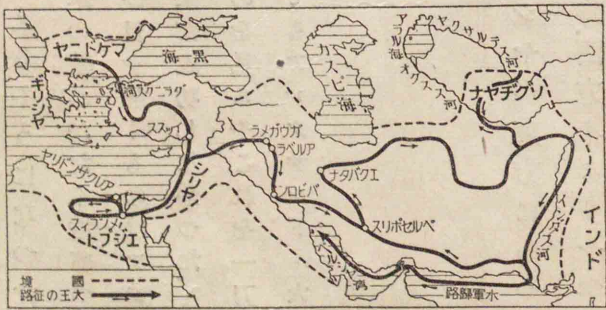
ひた。かくて大王の統一事業は着々として進

んだが、僅か三十三歳でバビロンで歿した。そ

の後領土はエジプト・シリヤ・マケドニヤ等の數

國に分裂したが、大王の輸入した文化は東方各

地に傳はり、その地固有の文化と融合し、エジブ



路征のそび及土領の王大レンドンサクレア

トの首府アレクサンドリヤ等を中心として榮えるやうになつた。小アジアのゴルヂウムにある或る神殿の柱には、戦車の轆ナガエがかたく結びつけられてゐて容易に解くことが出来なかつた。この結び目を解くものはアジヤの王となるとの傳説から、多くのものが度々試みたが未だ成功しなかつた。アレクサンドル大王は、その容易に解くことの出来ないのを見るや、これを一刀のもとに切り離してしまつたといふ。この小話によつてもアレクサンドル大王の果斷と機智とを知ることが出来る。

第三章 ローマ



ルバニンハ

ローマの發達 ギリシヤが東方にあつて、その活躍を續けてゐる時、西方イタリヤ半島にはローマが起つた。ローマはラテン人の建設した國で、ローマ市に據つてゐたが、有爲の氣象に富むこの國民はまもなくイタリヤ

ローマの發達

ナポリ博物館藏 大理石半身像。

A原因

國民が有爲の氣象に富むこと

B發達の經路

①イタリヤ征

服

②カルタゴ征

服(ポエニ

戰役)

③東方經略

半島の大部を征服した(前二三)。

ローマがイタリヤを平定して地中海の大勢力となるや、その對岸のカルタゴと前後三回百餘年に互つて相争ふこととなつた。

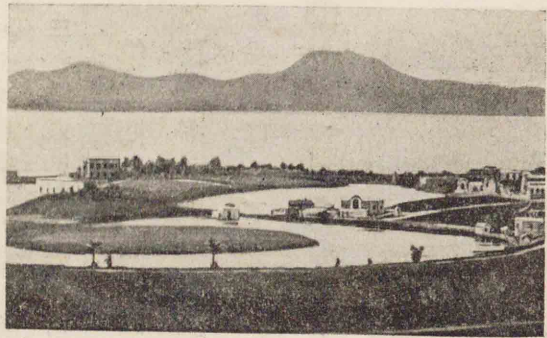
これ所謂ポエニ戰役 Punic War である。

第二回ポエニ戰役(前)

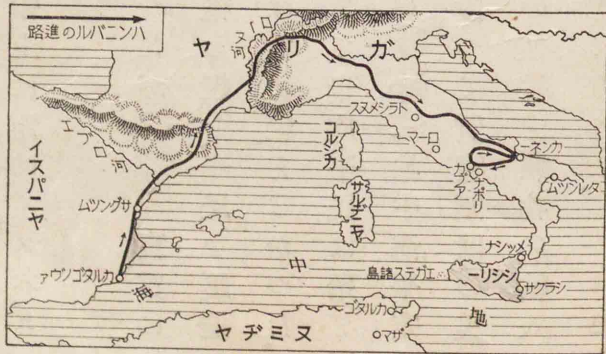
二回には、カルタゴの名將ハンニバルがカンネーの野でローマの大軍を粉砕したので、ローマの

運命は一時危かつた。しかしローマの將スキピオがカルタゴの本國を攻め、ハンニバルはカルタゴに召還され、ザマでスキピオと會戦して大敗したので、

圖中河のやうに灣入してゐるところは即ち昔のカルタゴ港の跡である。



墟廢のゴタルカ



圖地役戰ニエボ

ローマは救はれた。第三回ポエニ戦役(前四世紀)にはカルタゴ人は孤城を守ること三年、婦人は頭の髪を切つて弓の弦をつくり奮戦したが及ばず遂に屈した。

第二回ポエニ戦役後ローマは小アジアを征服し、ついでマケドニヤ及びギリシヤを略した。かくてローマの領土は西はイスパニヤから東は小アジアにまで及ぶこととなつた。

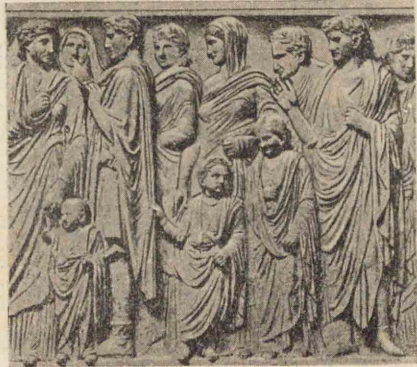
ローマの内争 ローマは早く共和政となつたが(前六世紀末)、實質に於

ローマ時代の彫刻で、ローマの貴族が平和の神の祭に從ふ行列である。貴族は皆「トガ」といふ特有の上衣を着けてゐる。

ローマの内争

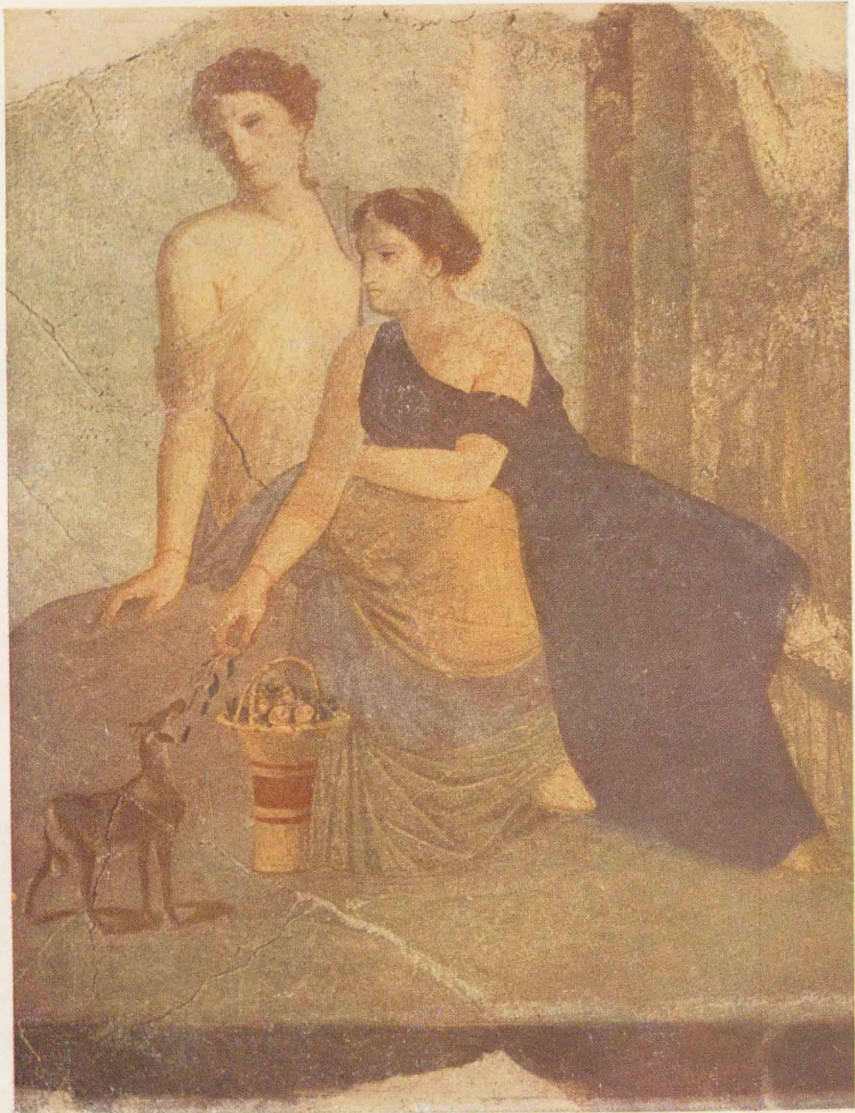
A原因 貴族の特權獨占

B經過 ①貴族の平民壓迫 ②貴族・平民の對等 ③富者對貧者の對立 ④グラックスの出現とその失敗



俗風の族貴マ-ロ

ては貴族のみが特權を握り、平民を壓迫したので、兩階級の争は常に絶えなかつた。後民權は次第に伸びて貴族・平民は殆ど同等の地位となつたが(前四世紀の中頃)、地中海平定後は、東方奢侈の風に倣つて質實剛健の美風を失ひ、その上奴隸の使役と穀物の輸入とで貧富の差は益甚しくなつた。かゝる弊

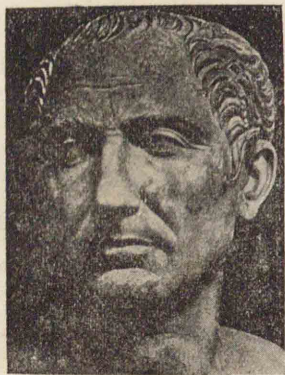


俗風人婦の代時マ-ロ

ローマ時代の婦人風俗

南イタリア、ナポリ近郊のポンペイは紀元七九年（ローマ帝政時代）にヴェスヴィヤスの大噴火のため、熔岩と灰の下に埋れてしまったが、十八世紀中頃から十九世紀にかけて漸次発掘された。當時の市街の有様は廢墟ではあるが、今日からなほ目撃されるのである。その中でも大きな邸宅の構造などは明かに知ることが出来る。その壁には立派な壁畫が多く描かれてある。この畫はその壁畫の一つで、暖い南歐の日光の下に悠遊する婦人の風俗である。ローマ時代の婦人は大體はギリシヤ婦人の服装を模倣してゐた。ギリシヤもローマも南方暖國の地方であるから、その服装は寛濶を貴び、北方の服装に比して、多く肢體を露出してゐる。男女ともに下衣の上には廣い大きな布（外套の如きもの）を纏つてゐるが、婦人はそれで頭部までも包む場合もあつた。ともかくローマが大領土を統一したため、ローマ人の風俗は自ら各地に流行して、後世の服装に少なからぬ影響を及ぼしたのである。

- ケイザル
- A 外征
 - ① ガリヤ
 - ② ブリタニヤ
 - ③ エジプト・シリヤ・イスパニヤ
 - B 内治
 - ① 三頭政治の創立
 - ② 諸事業の完成
 - C 暗殺さる
- ナポリ博物館藏。



ルザーケ

風の矯正を叫んで起つたものはグラックス兄弟であつた。彼等は護民官となつてその理想の實現に努めたが、貴族に妨げられて共に失敗に終つた（前一三三及一三二）。その後貧富兩派の反目は益激しく、内は武將が跋扈し、外は外夷に苦しめられてローマは愈々衰へるやうになつた。

ケイザルとアウグスツス この難局を救つたものはケイザルであつた。彼はポンペイウス・クラッスと共に前六〇年所謂三頭政治を行ひ、ガリヤを征服してこゝにギリシヤ・ローマの文化を移し、またブリタニヤをも征した。やがてローマに歸り、自己を除かうとしたポンペイウスを追ひ、ついでエジプト・シリヤ・アフリカ北岸及びイスパニヤを征服して大いにローマの領土を廣めた（前四五）。

ケイザルは天下一統の後多くの要職を一身にかね、恰も帝王の觀があつた。彼は

○ケーザル
●崇神天皇の頃

武將としてのみでなく、政治家としても秀で、軍備の充實、弊政の改革、貧民の救済、曆法の改正にも大いに努力したが、彼に反対する人々によつて暗殺された(前四)。

ポンペイウスはガリヤ、ブリタニヤ方面に於けるケーザルの勳功を嫉み、元老院を動かして任地にあるケーザルの職を免せしめんとした。このことを知つたケーザルは直ちに手兵を率ゐてアルプスを越え、南下してルビコン河に至つた。この河を渡れば元老院の直轄の地なる敵地である。この時ケーザルの本



スツスグウア

隊はまだこゝに到着してゐなかつたが、一刻も猶豫すべき時でないから、ケーザルは意を決し、骰子は投げられたと叫んで僅かの兵を率ゐてルビコン河を渡り、疾風の如くローマに入り、ポンペイウスを追ひ、その覇権を確立することが出来た。

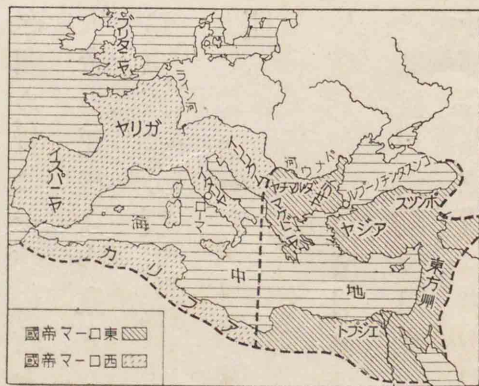
ケーザルの死後、その養子オクタヴィウス Octavianus

美しく彩色した浮模様の鎧、胸甲を着し、寛裕な上衣を腰の邊まで脱ぎ、その一部を腕に巻いてゐる。左手に持つ棒は支配を意味するものである。ヴァチカン博物館蔵。

オクタヴィヤヌスの内治

A アウグスツスの尊號を得たこと
B 文藝の保護

ヤヌスはアウグスツスの尊號を得て帝政を行ひ、共和政は名のみとなつたので、史家はこの後を帝政時代といふ。彼は在位四十餘年、弊政を改め、國防を厳にし、帝都を飾り、また大いに文藝を保護したので、學者文人が輩出してローマ文化の極盛時代を現出した。



圖裂分國帝マ-ロ

四キリスト教とローマ帝政の盛衰
アウ

グスツスの時、ユダヤにイエスキリストが生れ、ユダヤ教の教義を改善し、愛に基くキリスト教を説いた。その後高弟たちの布



徒教トスリキの期初

初期キリスト教徒禮拜の式、両手を挙げたるは感謝の意を示したもので、羊はキリスト信者の表象である。
キリスト教
A 創始者
B 弘通の原因
①使徒の努力
②コンスタンチヌス帝の公認

教によつてその教は次第に廣まり、遂にローマにまで達した。この教は最初ローマ皇帝に迫害されたが、後コンスタンチヌス大帝に公認(三三三)されてよりローマの國教となつて天下を風靡した。

アウグスツス以後、帝政は暫く隆盛を極めたが、二世紀から三世紀に互つて、上は良君が出ず、下は軍隊が跋扈して國力は次第に衰へた。その後コンスタンチヌス大帝が出て内亂を鎮め、新に一統の政を行つたので、國力はやゝ盛になつた。しかし大帝の死後は内亂とゲルマン人の侵入とのため、三九五年以來帝國は東西に分裂した。

第四章 ギリシヤ・ローマの文明

ギリシヤの文明 古代に於てギリシヤ人がすぐれた文明をつくり得たのは、彼等の素質がすぐれてゐた上に、氣候が溫暖で、風光明媚なこと、地理上諸國の文明を攝取するに好都合な位置にあつたこと、自由の氣風に富んでゐたこと、多數の奴隸に一切の勞役を任じ、自身は政治學問藝術に専心従事し得たことなどであらう。

ギリシヤ美術の特色は、調和と均齊とがよく保たれてゐた點である。さうして彫刻には、*Praxias*、*Pheidias*、*Lechias* 等の大家が出て、その作品は永く後世の模範と仰がれた。

ギリシヤ建築の代表とされるアテネのバルテノン殿堂は、ペリクレス時代にアテネのアクロポリスの上の丘の上に建てられ、アテネ市の守護神ミネルヴァに捧げられたもので、その建築はイクチヌスにより、その中にある數多の彫刻は、*Phidias* によつてつくられたものである。



殿神ノテルパ

有名なる文學者及び學者

A 文學 ホーマ

1

アプロボリス丘上の復舊圖である。中央にある巨像がミネルヴァ神、その右がバルテノン神殿で、大理石のドリア式建築である。この丘は城砦としても利用された。

有名なる藝術家

A 彫刻 *Phidias*
B 建築 *Iktinos*
C ヤス
D イクチヌス

ギリシヤ文明隆盛の原因

A 素質の優秀
B 氣候溫暖
C 風光明媚
D 位置良好
E 學問・藝術に携はる餘裕にあつたこと

ローマ帝政衰亡の原因

A 皇帝の暗愚
B 軍隊の跋扈

文學には有名なるホーマーが出て後世の模範となり、哲學にはソク

刻彫の代古



スヌエウ神女の愛



神女の運幸

B 哲学 ソクラテス・プラト
 I・アリスト
 トトル
 C 史学 ヘロド
 ツス
 ローマ、カピ
 トル博物館大
 理
 石半身像。

バルテノン神
 殿の梁間の彫
 刻で、オリン
 プスの神々が
 集つてゐる
 ところ。左
 端はゼウス
 神である。

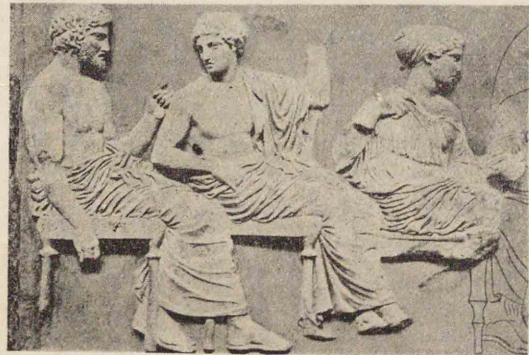


— マ — ホ

ラテス・プラト・アリスト
 Socrates Plato Aristotle
 が出て西洋哲学の基礎を
 据え、歴史にはヘ
 ロドツスが出て歴史学
 Herodotus
 の祖となつた。
 ホーマーの二大詩イリヤ
 Homers Iliad
 ド・オデッセイは不朽
 Odyssey
 の傑作で、共にトロヤ
 戦争

役を諺つたものである。

ギリシヤ人は多神教を信じ、天地間幾多の自然現象を神として崇拜し、オリンピヤには祠を立てて最上の神ゼウスを祀り、四年毎に國民大祭を行つた。オリンピヤの大祭は五日間続き、その間ギリシヤの諸市から集つた選手は徒歩競争、槍投、角力、馬車競争、平圓板抛等の競技を行ひ、優勝者は月桂冠を授けられた。この月桂冠は兩親共に生きてゐる子供が金の庖丁で枝を切つてつくつたものにすぎないが、受



像神ヤシリギ

古代の彫刻

古代ギリシヤ人は彫刻に於て最も勝れた藝術品を後世に残した。左圖のヴェヌス神は美と愛との女神で、ギリシヤ末期の作品であるが、その崇高な理想的の美を發揮した點に於て古今に獨歩するの趣がある。この像は小アツヤのミロ(Miio)地方で、一八二〇年地中から發掘されたもので、兩手その他が破損してゐたが、ミロのヴェヌスと呼ばれて有名である。今はパリ、ルーヴル博物館を飾る至寶として珍重されてゐる。またローマ人はギリシヤの藝術を學んで、更にそれに種々多様の趣を加へた。ギリシヤ藝術のもつ高雅な生命は失はれたが、人間的な趣味と、外形的な美とは益々發揮された感がある。右圖の幸運の女神はローマ時代の彫刻で、藝術的價値に於てミロのヴェヌスに劣るけれども、ローマ彫刻中の美しいものゝ代表である。この神は人間に幸運を齎らす神で、右手に運命の舵を曳き、左手に豊饒の角を持つてゐる。

高さ一・六七米の大理石像、ローマ、ヴァチカン博物館蔵。

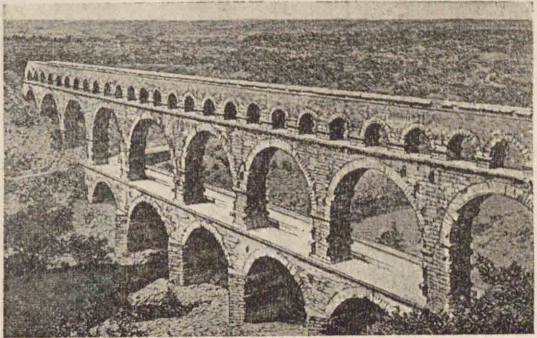


手選人婦の技競ヤピンリオ

賞者の名譽は非常なもので、紫衣をつけて四頭立ての馬車に乗り、郷人に護られて歸る時は盛大な凱旋式を以て歓迎され、またその肖像は有名な美術家によつて彫刻せられて後世に傳へられた。近時世に行はれるオリンピックゲームはこのオリンピック祭の競技から起つたものである。

ローマ文明の特色
A 實用的なこと
(法律制度の發達)
B 雄大と堅牢
(土木工事)

ローマの文明
ギリシヤ人が文學・美術に長じてゐたのに反して、ローマ人は實用的なことに秀でてゐたから、先づ法律制度を發達せしめ後世の模範となつた。なほ建築・土木に長じ、雄大と堅牢とを以てすぐれた圓形競技場・大浴場・宮殿・公會堂・劇場・凱旋門・水道等多くの實用的土木工事を起した。またローマの廣大な版圖はギリシヤから學んだ文明を傳播し、且つキリスト教を普及せしむるに便であつた。



橋ルガ

た。要するに古代諸國の文明はローマに集中し、そして世界的發展を遂げることが出来たのである。

ローマは廣く開けた平野をひかへ、交通には便であつたが、良水に乏しかつたので、古代のローマ人は遠く離れた丘陵地方から水道を引いて飲用その他の用に供した。最も長いものは八九浬もあつた。水道は煉瓦でつくつたアーチ形で、その上に溝渠を穿つて水を流したものである。今日南フランスのニーム附近に残存するガール橋はアウグスツス時代の水道で、高さ約五〇米、長さ二五五米もある。

ローマの文學は、アウグスツス時代にその頂點に達し、ヴァーギル等の大家が輩出して、所謂ラテン文學の黄金時代を現出した。

Virgil

第二篇 中世

第一章 ゲルマン人の移動 サラセンの興起

移動の原因

- A フン族の西進
- B 西ゴートの移動

ローマ皇帝トラヤヌスの戦勝紀念柱の彫刻で、ローマの軍人に比して服装が極めて原始的である。

移動の始め

Germanus

ゲルマン人はもとローマ帝國の東北一帯の地に住んでゐた勇武粗朴な蠻族で、帝政時代から既に屢、ローマの邊境を侵してゐた。ところが四世紀の中頃にフン族がゲルマンの一派たる東ゴート族を降し、更に西ゴート族に迫つてきたので、こゝに所謂ゲルマン人の移動が始まつた。

Ostrogoths

ゲルマン諸族の建國

ゲルマン諸族の建國の主なものは次の如くである。

- フランク族 Frank
- ブルグンド族 Burgundians
- ガリヤの北部にフランク王國を建てた。
- ガリヤの中部に移つた。

第一章 ゲルマン人の移動 サラセンの興起



士軍ンマルゲ

ヴァンダル族 アフリカの北岸に國を建てた。
 西ゴート族 先づイタリアに侵入し、ついでイスパニヤに國を建てた。
 東ゴート族 イタリアに東ゴート王國を建てた。
 アンゴロサクソン Anglo-Saxons 北ドイツからブリタニヤに移つた。

西ローマ帝國滅亡の原因
 A 外族の侵入
 B 内亂
 ○西ローマ帝國の滅亡
 ● 雄略天皇の頃

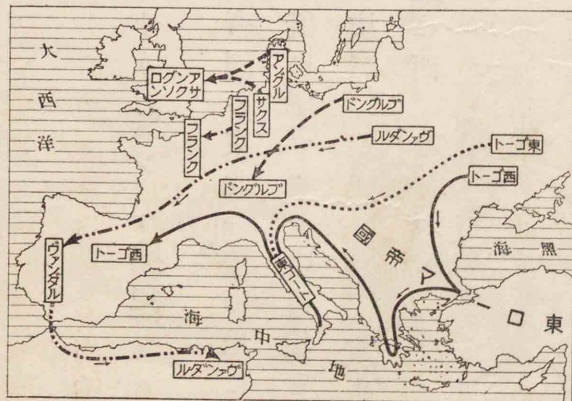
三 西ローマ帝國の滅亡 分裂後の西ローマ帝國は、ゲルマン人及びフン族の侵入と内亂とのため國勢振はず、終にゲルマン傭兵のため滅ぼされた(四七六)。

東ローマ帝國

A 一時隆盛した原因

近代ヨーロッパ諸國の多くは、ローマ帝國の土臺の上に築かれたゲルマン諸族の國家といふことが出来る。さうして近代ヨーロッパの文明は古代文明とゲルマン文明との融合から發達したものである。

四 東ローマ帝國の盛衰 東ローマ帝國で



圖地動移ンマルゲ

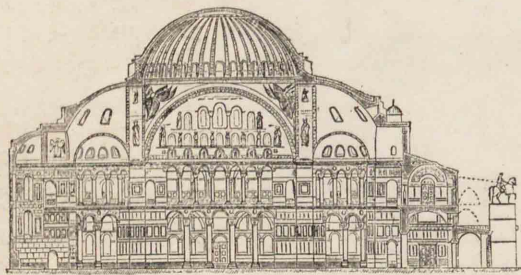
ユスチニヤヌス帝の出現
 B 衰微の原因
 ① 皇帝の暗愚
 ② 新ペルシヤとの鬭争

は、六世紀の頃有名なユスチニヤヌス帝が出て、殆どローマ帝國の舊領を回復し、またローマ法典を編纂し、宗教上の紛議を鎮めて内治の上にも大なる功績を遺した。しかし帝の後はその雄圖を繼ぐものなく、且つ東方の新ペルシヤと争つて共に衰へ、終に新興サラセンに

征服された。

セントソフィヤ大寺院の縦断面圖で、建築はすべて集中式になつてゐる。内部の裝飾はモザイクである。

サラセン
 A 隆盛の原因
 ① マホメットの努力
 ② 歴代カリフの努力



院寺大ヤソフソトンセ

セントソフィヤ大寺院は中央に大圓蓋を頂いたビザンチン式建築の模範で、ユスチニヤヌス帝がソロモン王の宮殿を凌ぐと誇つたものであつたが、トルコ人の手に移つてからは、サラセンの様式が加へられて原形がよほど變化した。

五 サラセンの強大 サラセン人はアラビヤの住民で、遊牧と隊商とを業とし、その性質は勇敢で熱情に富んでゐた。七世紀の初めマホメット

B 領土
アジヤ・ア
リカ・ヨーロ
パ三洲に及ぶ

が出て、イスラム教を創めたが、國人に迫害せられて、メヂナに走つた
Israhim (六三)。 ついで彼は武力を以て生地メッカを取返し、アラビヤの大半を
Mecca 征服してその教を弘めた。

○その後マホメットの後継者カリフは領土の擴張に努力し、西はエジ

Carthage

プト・アフリカの北岸、イスパニヤを征し、東は
ベルシヤ・インド、唐の西境まで従へた。しか
し、その後東ローマ及びフランク王國に破ら
れ、この廣大な版圖はやがて東カリフと西カ
リフとに二分された。

マホメットは五七一年メッカに生れたが、四十歳の頃
在來の宗教に満足出來ないでヒラ山中にかくれ、斷
食冥想し、その結果遂にマホメット教を始めるやうに
なつた。教へていふ「我はアラアの神の使である。」
Allah



拜禮の徒教ムラスイ

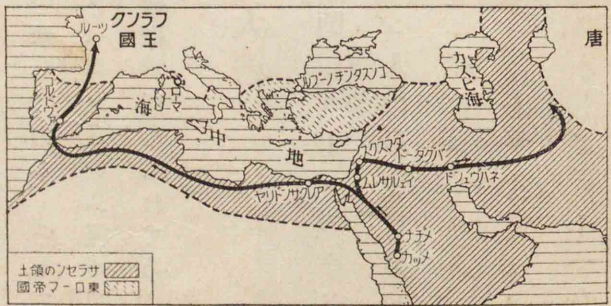
イスラム教徒は
必ず朝夕二回メ
ッカに向つて禮
拜する。白衣を
着た大群の禮拜
する様は崇高の
極みである。

モーゼ・キリストも共にアラアの使であつたが、我は彼
等よりすぐれてゐる。百般の事物はアラアの神意に
よつて成り、人力では動かすことが出來ない。たゞア
ラーと豫言者なる我を信するもののみが、死後天國
に上つて無限の幸福を受けることが出来る」と。

○**サラセンの文化** 東西兩カリフ國は八世紀

の後半から九世紀に互つてその全盛時代を現
出し、ギリシヤ・ペルシヤの文化は、こゝに集中し、
その文化の隆盛なことは當時の西ヨーロッパ諸
國を凌いだ。特にその數學、理化學、地理學、醫學
等は後世に感化を及ぼしたことが著しい。またギリシヤの學問も
多く彼等の手によつて西ヨーロッパに傳へられた。

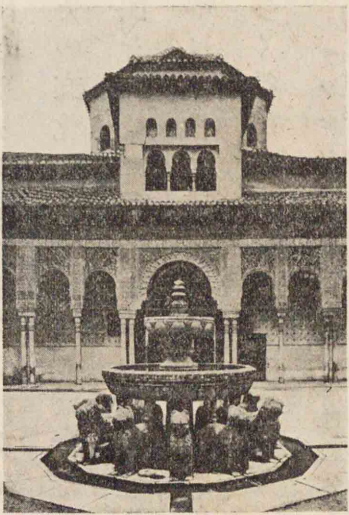
サラセンの建築は東方趣味に富んだ建築で、形式の優美と色彩の絢爛と、空想



土領のンセラサ

サラセン文化の特
色
A ギリシヤ・ペ
ルシヤの文化
を融合
B ギリシヤ文化
を西ヨーロッ
パに傳播

獅子の廣庭の正面圖で、庭の中央に數匹の大理石獅子像によつて支へられた大噴水盤がある。



殿宮ラブンハルア

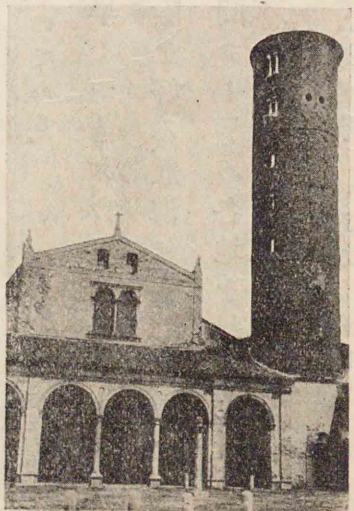
的な線の配合とによつて傑出してゐる。イスパニヤのグラナダにあるアルハンブラ宮殿は、十三世紀に着手され、十四世紀に大成されたもので、最もよくサラセン建築の特色を示してゐる。そしてその柱頭にはアラベスクといふ極めて複雑な幾何學的紋様が用ひられてゐる。

第二章 ローマ教會と法王

ローマ教會隆盛の原因
A 教化に努力したこと
B フランク王國との操手

ローマ教會と法王
ゲルマンの移動の混亂期に、ローマのキリスト教會の長老は人心に慰安を與へ、またゲルマン人の教化に努めて次第に西ヨーロッパに勢力を振ふやうになつた。時にコンスタンチノーブルのキリスト教會はローマ教會と意見が合はず、教會は終にギリシヤ正教とローマ正教とに二分された。さうしてローマ教會

北イタリヤのラヴエンナにある寺院で、本堂の側に高い鐘樓がある。初期のキリスト教寺院の外観は極めて素朴であつた。



院寺教トスリキの期初

の長老は法王として尊ばれ、精神界の帝王の如き觀を呈した。また法王は當時盛であつたフランク王國と結んで愈、自己の地位を高めた。

ローマ教會の長老たちは世人から「父(Papa バーバ)」と呼ばれてゐたが後にこのバーバから法王(Pope)なる言葉が出来たのである。

チャールス大帝の治績

- A 西ローマ帝國を復活
- B 内治に努力
- C 學問の保護

パリのカルナバル博物館にあり、左手の球は寶座で、右は支配の劍である。



帝大スルーヤチ

フランク王國では八世紀の中頃に宮宰ピピンが王を廢して自らこれに代つた。ピピンの子チャールスは四方を征服し、キリスト教を廣め、八〇〇年に法王から帝冠を受けてローマ皇帝となり、西ローマ帝國を復活した。帝は制度を改正し、産業を起

○チャールス大
帝
●桓武天皇の頃

し、また學問の興隆を圖つたので、文明は再び光を放つやうになつた。しかしその歿後内亂が起つて領土は三分された。そのうち東西兩フランク王國は後世のドイツ・フランス兩國の基となつた。

チャールスの甥のローランドは角笛を以て有名であつた。かつてチャールス大帝がサラセンを破つて凱旋の途中、敵は卑怯にも殿しんがりのローランドに不意に攻めよせたので、ローランドは有名な角笛を吹いてチャールスに援を求めながら奮戦した。ローランドの笛の音を聞いた敵は恐れて近づくものがなかつたが、やがて衆寡敵せずしてローランドは名譽の戦死をこげた。ヨーロッパの少年少女の愛誦する「ローランドの歌」は彼を歌つたものである。

●ノルマン人の活動

Normans

Scandinavia

ノルマン地方に居り、資性勇敢で冒險を好み、航海に長じてゐた。後海賊となつて、九世紀から約三百年間ヨーロッパ各地を劫掠した。

西フランクを侵したノルマンの酋長ロロは、ノルマンディー公に封せられて和睦した。フランスのノルマンディー半島はその名残りである。またデンマルク

ノルマン人
A 航海に長じたこと
B 三百年間各地を劫掠

のノルマンはイギリスに寇し、スウェーデンのノルマンはロシアを創建した。ノルマンはなほ地中海・大西洋にも活躍し、北アメリカの東岸にまで達した。

●神聖ローマ帝國

東フランク王國では十世紀

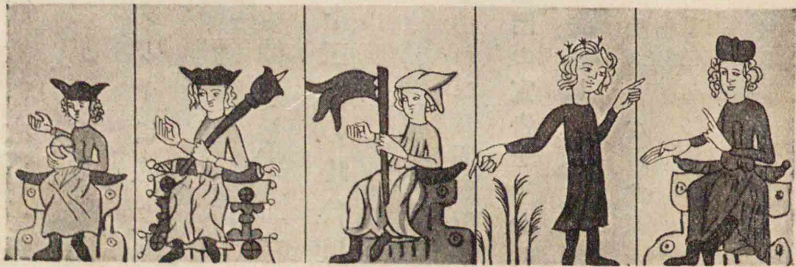
神聖ローマ帝國の成立
オットー一世の努力

の頃オットー一世Ottoが帝が出て、諸侯を壓迫して

王權を高め、また法王を助けてイタリヤを平定した。そこで法王はこれを徳とし、九六二年王に帝冠を授けて神聖ローマ皇帝とした。これから後のドイツ王は皆神聖ローマ皇帝と稱し、ローマ帝國の傳統たる世界統一を理想とした。

●法王對皇帝の紛争

十一世紀の中頃ローマ法王グレゴリー七世は、先づ教會の弊風を改め、ついで僧官任命權を皇帝の手から奪はうとした。ド



俗風紀世中

圖は中世紀に描かれたもので、左より皇帝・王公・領主・領主附判官。

法王權隆盛の原因
A グレゴリー七世の努力
B インノセント三世の努力

一八八四年にカールヘルマンが、法王に關する材料を蒐集して描いたものである。



法王ゴレグリー七世

イツ皇帝ヘンリー四世は大いに怒り、法王を廢せんとしたが却つて破門せられたので、自らイタリアに入り、罪を法王に謝して漸く破門を免れた。この後法王權は次第に伸張し、十二三世の交、インノセント三世の時代には

その頂點に達した。

ヘンリー四世はイタリアのカノッサにグレゴリー七世を訪ね、三日間粗服一枚で一月の寒風に吹かれながら、深くその罪を謝し、纔かに破門の宣告をよこされた。後王はドイツの僧と共にグレゴリー七世を廢することを決議し、自らイタリアに侵入して法王をローマより放逐した。やがて法王は南イタリアのサレルノで病を得、余は正義を愛した故に不幸のうちに死すといつて死んだといふことである。

第三章 十字軍 東方民族の侵入

十字軍の原因

十字軍の原因
A トルコのキリスト教徒迫害
B 東ローマ皇帝の求援

○十字軍の起り
・白河法皇の頃

鎮甲冑を着けた武士が勇ましく出征する光景で、中に僧侶も交つてゐる(十字架の前に見えるもの)。



十字軍の發出

十一世紀の初めセルジュック^{Seljuk Turks}トルコ族が、聖地を巡禮するキリスト教徒を非常に迫害したので、西ヨーロッパ人は聖地回復を願ふに至つた。折しも東ローマ皇帝はトルコの壓迫に苦しみ、援助を法王に求めたので、遂に法王は諸國の僧侶、武士を集めて東方遠征を決議せしめた(一〇九五年)。

フランス、アミアンの僧ベートルはイエルサレムに巡禮し、トルコ人の虐待をつぶさに味はつて歸つて來た。さうして法王ウルバン二世に、トルコ人が如何に巡禮者を虐待するかを語り、法王の許可を得てイタリア・フランスの各地を巡禮しつゝ、その體驗を傳へた。驢馬に跨り、右手に十字架を握る彼の姿が現はれるや、忽ち感激してこ

十字軍の経過

- A 一〇九六年第一回
- B 百七十年間起されたが多く失敗

十字軍の結果

- A 封建制度の破壊
- B 都市の勃興
- C 法王権の失墜

れを迎へ、その話を聞くものは皆聖地回復を誓ふのであつた。

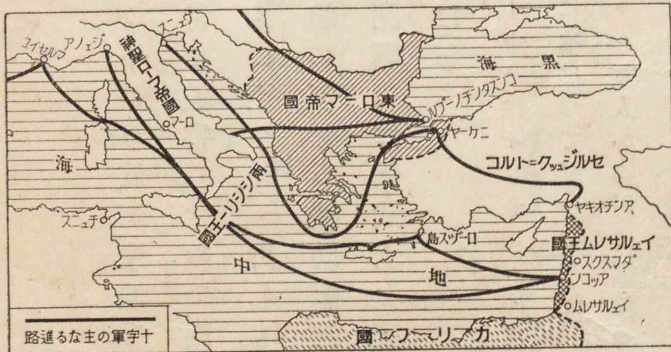
東方遠征

かくて一〇九六年大部分ドイツ・フランスの武士より成る四十餘萬の大軍は、各十字の布片をつけ、勇ましく聖地に進んだ。世にこれを十字軍といふ。さうしてその後約百七十年間に屢十字軍を起したが、多くは失敗に歸した。

十字軍の結果

十字軍は統一を缺いたた

め何等功を收め得なかつたが、その影響は極めて大きく、封建制度を破壊して中央集権の傾向を喚起し、交通の發展と都市の勃興とを促進し、且つ西ヨーロッパ人の見聞を廣めた。なほ法王の権力も十字軍の失敗によつて次第に衰へるやうになつた。

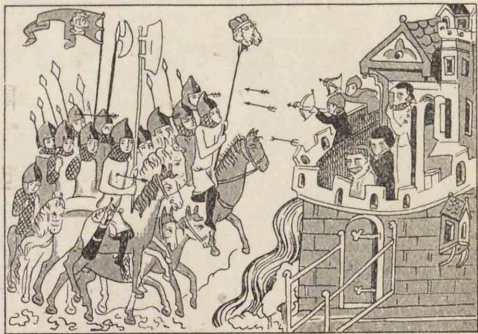


十字軍侵略略地圖

蒙古軍がドイツのリーグニッツ城攻圍の光景で城内の武士は弩で防禦してゐる。

東方民族の侵入

- A バツの侵入
- B オスマンのトルコ帝國建設
- C コンスタンチノープルの陥落

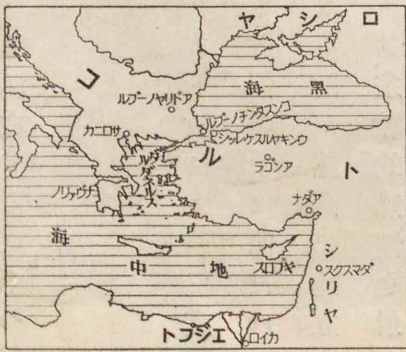


蒙古軍の進撃

東方民族の侵入

ヨーロッパは十字軍時代に、また蒙古人及びトルコ人の侵入に苦しめられた。さうして十三世紀の中頃チンギスカンの孫バツ等はロシヤ・ドイツ・ハンガリーに入つたが、まもなく軍をかへした。また十三世紀の交、オスマン・トルコの酋長オスマンは小アジアにトルコ帝國を建てた。その

後トルコはバルカン半島の大部分を取り、勢盛であつたが、チンギスカンの後裔チムールに破られ、その勢は一時全く地に墜ちた。しかしチムールの死後、トルコは再び勢振ひ、東ローマを侵略し、一四五三年コンスタンチノ



十五世紀中地中海東部地方

「ブルを陥れた。かくて東ローマ帝國はこゝに滅亡するに至つた。

第四章 中世の社會 封建制度

■ 宗教の勢力

中世のヨーロッパはすべてキリスト教によつて支配

され、その文明も全く僧侶の手に保たれてゐた。それで立派な寺院が諸國に建立され、十二三世紀頃からは、宗教的感情を最も明かに示すゴシック建築の大伽藍が所々に建てられるやうになつた。更に繪畫及び學問を始めとして何一つ宗教の影響を受けないものはなかつた。

■ 封建制度 西ヨーロッパは十世紀以來封建制度によつて秩序回復と維持に努めた。

■ 宗教の勢力 中世のヨーロッパはすべてキリスト教によつて支配され、その文明も全く僧侶の手に保たれてゐた。それで立派な寺院が諸國に建立され、十二三世紀頃からは、宗教的感情を最も明かに示すゴシック建築の大伽藍が所々に建てられるやうになつた。更に繪畫及び學問を始めとして何一つ宗教の影響を受けないものはなかつた。



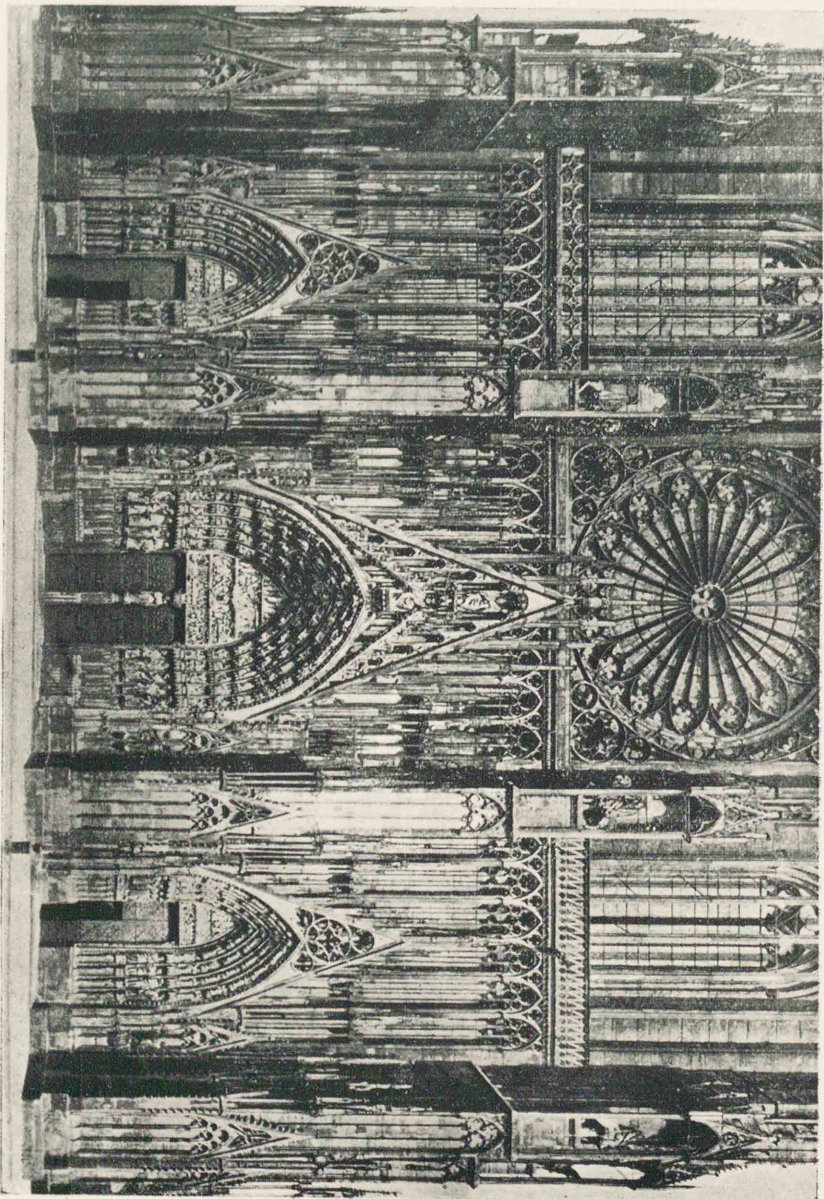
(工石) 人職の世中

宗教の勢力
A 僧の文明維持
B ゴシック寺院の建設
C 宗教の學問支配

十一世紀頃の石工を描いたもので、左の方には滑車を用ひて材料を捲きあげてゐる。人物と建築との比例のない中世の畫である。

封建制度

A 成立の原因
秩序の維持



(口人の院寺大ゲルマニア) 觀偉の築建クッシェ世中

中世ゴシック建築の偉観

ゴシック建築は中世文化の高潮期たる十三世紀に興つて、以後しばらくの間西ヨーロッパを風靡した建築であるが、特に寺院建築にその特色を發揮してゐる。ゴシック建築は好んで高い尖塔と天井とを用ひ、その高さ數百尺に及び、恰も天空を摩するの趣がある。地上に在つて高き神の國を慕ふ敬虔の信仰は、よくゴシックの建築様式に表現されてゐると思ふ。この圖はフランスのストラスブルグ市(大戦前はドイツ領)にある大寺院で、十三世紀の建築であり、ゴシック式寺院の代表的なものである。殊にその正面を埋め盡した石に刻まれた複雑多様を極めた彫刻裝飾は、正に目を眩ますやうな感がある。また正面入口の周圍は數多の聖像や、宗教的歴史の彫刻で飾られ、中央入口の柱には聖母マリヤがキリストを抱いてゐる像がある。この像は等身よりやゝ大きく刻まれてゐる。以て寺院の大きを知ることが出来る。

B 性質

①國王諸侯に

封地分典

②諸侯の武士

養成

C よく行はれた

①フランク王

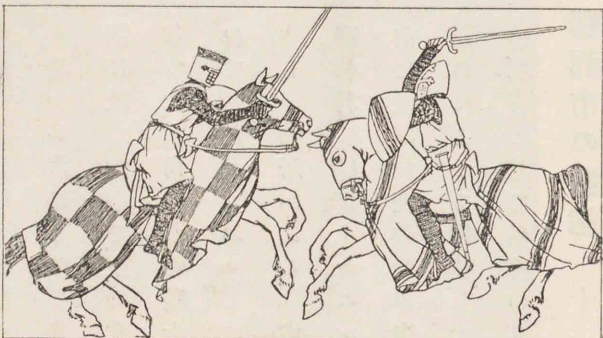
國

②ドイツ・イ

ギリス



武士も馬も武裝を固めて試合してゐる光景であるが、かやうに武裝が完成したのは中世の末期頃からである。



中世武士の試合

抑封建制度とは國王から諸侯に封地を與へて領内を治めさせ、諸侯は更に自分の領地を分與して多くの武士を養成し、事ある時は彼等を率ゐて國王のために出征する制度であつた。そこで諸侯は堅牢な城郭に住み、領内では絶對の權力を有し、土地・人民を私有し、またこれを世襲したので、國王たりとも領内のことには何等干渉することが出来なかつた。この封建制度は最初フランク國に行はれ、十二世紀の頃はイギリス・フランス・ドイツの三

國によく發達した。

中世には騎士に關する物語が數多くあるが、中でも有名なのはアーサー王の物語である。王は誰も容易に抜くことの出来なかつた劔を見事に引き抜いて

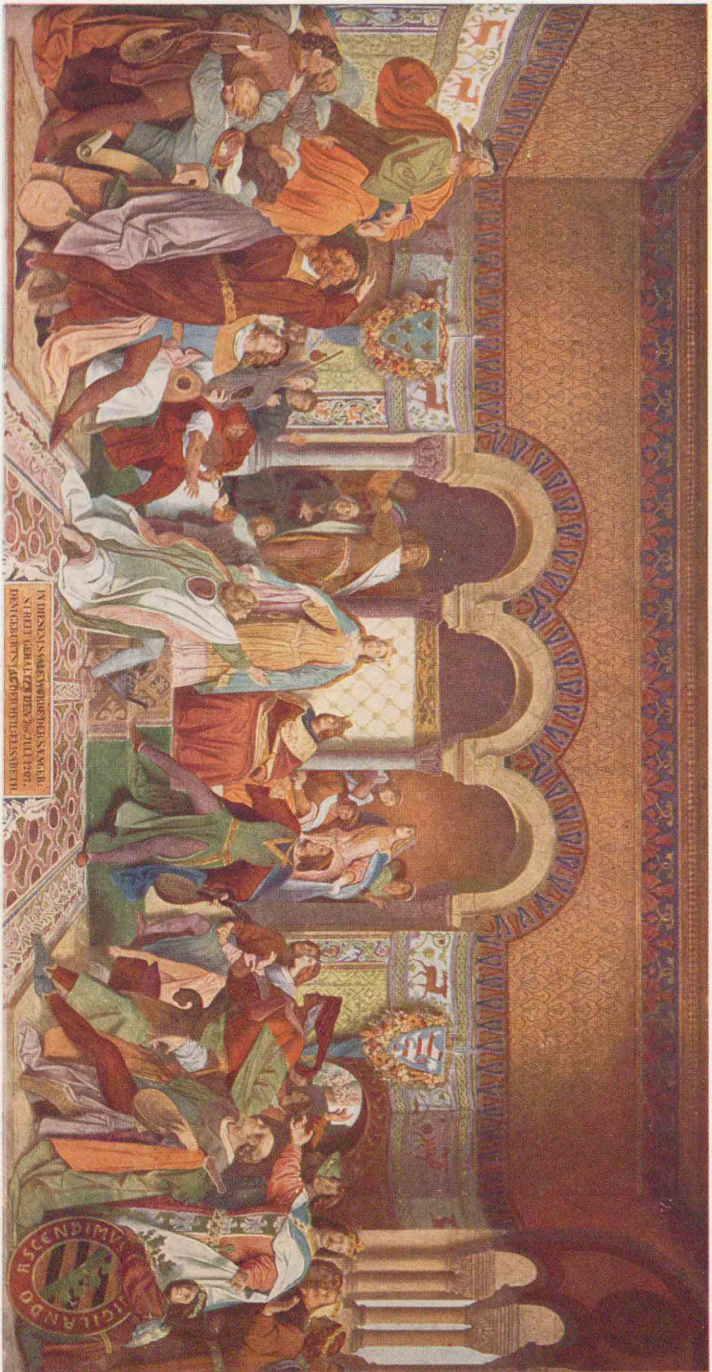
騎士木の枝に楯をか
け、馬を繋いだ
十五世紀頃の武
士が貴婦人から
美しい兜を受け
てゐる圖で、當
時の風俗がよく
窺はれる。

イギリスの王となつたといはれる英雄である。後王はギニーバーといふ美しい王妃を迎へたが、その王妃の父から贈られた圓卓は、王を始め二十八人の拔群の騎士が常にこれに着席して勇壯な物語に耽つたので、王の武勇と共に有名となつた。尙ほ王の騎士のうちで最も勝れてゐたランスロットには次のやうな勇ましい物語がある。或る時王の命令でウィンチェスターの大競技會が行はれ、その勝利者にはダイヤモンドが授けられる筈であつた。ところがランスロットは以前に受けた疵のため出場が出来ず、遺憾やる方なかつた。しかし王妃の切なる勧めによつて變装して出場し、重い傷を受けながらも華々しく戦ひ、遂に最後の勝利者として名譽のダイヤモンドを得た。

都市の發達 十一世紀頃から社會の状態も次第に平穩に歸し、交



中世武士と貴婦人



戦合歌のケルフトルワ

ワルトブルグの歌合戦

ワルトブルグはドイツ、チューリング地方の古城で、今日でもなほ中世封建時代の偉をよく傳へてゐる城郭である。中世の昔、そこはチューリング伯の居城であつて、武士道の盛であつた時代の物語が多く傳へられてゐる。一二〇七年、その城内の大廣間で、當時の有名な七人の歌謡師(武士で詩作をやつたもの)が、城主の前に出で互に自己の作詩を讀つて仕合を試みたことがあつた。ワルトブルグの歌合戦として後世に有名なのがそれである。その際ウォルフラムとハインリヒの二人が互に優勝を争つて議論が沸騰し、遂にハインリヒは魔術師を呼び寄せて味方とし、頻りに難問を發したが、遂にウォルフラムの捷利に歸したのである。圖中正面の椅子に坐せるが城主であり、城主の妃エリザベスは起つて論争を調停しようとしてゐる。封建時代の武士生活の一面、更に武士の城内生活の有様などが、この畫によつて窺はれるであらう。この畫の作者は十九世紀のドイツ畫家シュウィンデである。

都市

A 發達の理由
交通・商工業
の復興

B 有名な都市

① ハンザ同盟
都市

② 北イタリヤ
の都市

圖説

ヴェニスの大通りともいふべき大運河で、兩岸の家は大抵十五六世紀の建築である。中央圓蓋の建物は聖母寺。



スニエヴ都の水

通及び商工業が復興したので、各地に都市が起り、中にはその勢力が君侯を凌ぐものさへあつた。殊に北ドイツのハンザ同盟都市や、北イタリヤの都市が盛であつた。

イタリヤ都市のうちで最も有名なのはヴェニスである。ヴェニスは四方海に囲まれた小さい多くの島から成り立ち、水中から生れて水面に浮び出た町の觀があるので、水の都として世界に知られてゐる。町の人々は中世以來西ヨーロッパと東洋との貿易に従事し、十五六世紀頃はその黄金時代であつた。またヴェニスは美術の中心地で、十六世紀にはチチアン等の大家が出てゐる。ヴェニスは實業の町、美術の町、更に風光明媚の町といふことが出来る。

第五章 中世に於ける西ヨーロッパ諸國の狀勢

イギリス發達の經過

- A 大憲章發布
- B イギリス議會成立

イギリス發達の經過
 頃ノルマン朝が斷絶し、フランスのアンジュー伯が王となつてPlantagenet
 タジネット朝を開いた。かくてイギリス王は、イングランド以外にフランスの半ばを領して勢力があつた。ところがジョン王はフランス内の領土を失ひ、且つ内では重税を課して人民を苦しめたので、貴族僧侶は王に迫つて大憲章を承認せしめた(一二二五)。これがイギリス憲法の基礎である。その後貴族僧侶の外に市民及び地方の代表者が集つて國事を議するやうになつた。これ即ちイギリス議會の始めである(一二三五)。

フランス發達の原因

- A フィリップ二世の努力
- B フィリップ四世の努力



世女王の印章

西フランクから起つたフランスでは、十二世紀の末にフィリップ二世が出て諸侯を抑へ、次第に領土を廣め、王權を強固にした。その後フィリップ四世は貴族僧侶平

民の代表者を召集して三部會を開いた。これがフランス議會の起りである(一二三〇)。

百年戰役

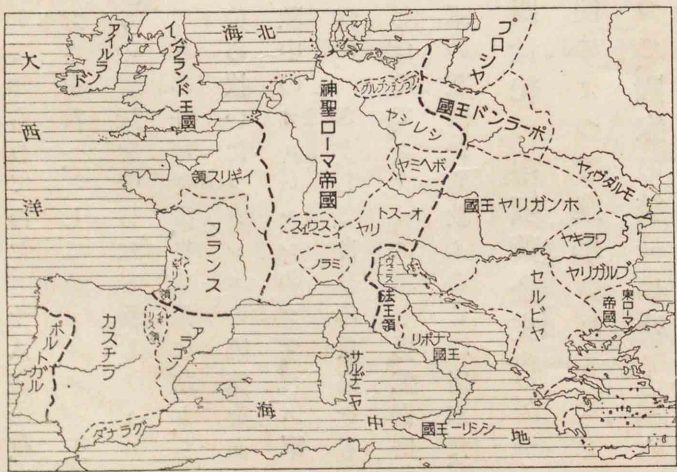
- A 原因
- B 經過
- C 結果

百年戰役
 ・足利尊氏の頃

百年戰役

十四世紀の頃ヴァロア家がフランスのカペー家に代つて立つや、イギリス王エドワード三世は王位繼承權を唱へてフランスに攻め入り、こゝに百年戰役が起つた(一三三九)。以後約一世紀に互つて兩國は戰を續け、戰況は多くフランスに不利であつたが、最後にフランス軍は勝利を得た。

百年戰役の時、フランスを累卵の危機から救つたジャンヌ・ダルクは、フランス東北部の片田舎ドムレミーの農家に生れ、内氣な信仰深



五十世紀のヨーロッパ地圖

ジャンヌダルクがオルレヤンの救助に赴く時、フィボア寺院より贈られた節刀を受くる圖。



クルダ=モンヤジ

い少女として知られてゐた。十八歳の時、行つてフランスを救へ、そしてチャールスを王位につけよとの神託を受けたと稱し、チャールスを説服してその許可を得、自ら馬に跨り、百合の紋章を染め抜いたフランスの國旗を高く掲げて苦戦中のオルレヤンのフランス軍の前に現はれた。さうして自分の負傷をもの

Orleans

ともせず、勇ましく陣頭に立つて志氣を鼓舞したので、フランス軍も勇氣百倍し、強敵を撃退して、遂にオルレヤンをイギリス軍の重圍から救ふことが出来た。

ドイツの特色
A 七大選舉侯選定
B 諸侯の權力強大

ドイツ及びスイス ドイツでは、十四世紀の中頃黄金文書がつくられて、皇帝は有力な僧俗の七大選舉侯によつて選舉されることとなつたから、列侯の權力は更に強くなつて、國家の統一は全く望めなかつた。またこの頃(世一四)ドイツのハプスブルグ家の領土であつた

Hapsburg

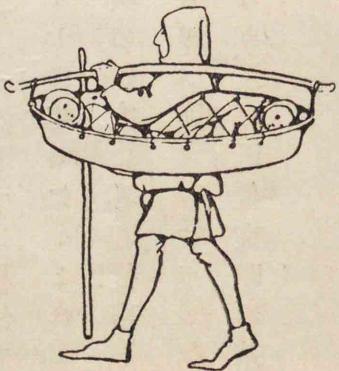
イスパニヤの成立
アラゴン・カスチラの結合

圖のやうな搖籠に赤子を入れて子守をする中世風俗の一斑である。

ポルトガルの成立
カスチラから獨立

四 イスパニヤ及びポルトガル イスパニヤではイスラム教國が減んで、數個のキリスト教國が出来たが、そのうちカスチラ・アラゴンの兩國は合同して、イスパニヤ王國を建てた。爾來その王權は伸張し、まもなく統一の業をなした。

Castile



子赤の世中

ポルトガルはもとカスチラの屬國に過ぎなかつたが、十一世紀末に獨立し、十三世紀にはその全土を統一した。

第三篇 近世(上)

第一章 文藝復興 地理上の發見

文藝復興

A原因

①自由研究の風が起つた

②東方學者の

住 イタリヤ移

B 中心地

イタリヤ

Cよく行はれた

國

①フランス

②ドイツ

③イギリス

文藝復興 中世時代は宗教がすべてのことを支配し、學問も宗教の束縛をうけて自由に研究することが出来なかつたが、十字軍の頃から東方サラセンの文明に接し、見聞が廣まるにつれて、漸く文藝が復興し、宗教を離れて自由に學問を研究する風が盛になつて來た。殊に東ローマ帝國滅亡後、その國の學者は多くイタリヤに移住するやうになつたので、古學の研究は先づイタリヤに起つた。これが所謂人文學派で、彼等はギリシヤ・ローマの古典の研究に専心従事した。その後この復興の氣運は、イタリヤからイギリス・ドイツ・フランスにまで及び、學問・文藝はヨーロッパ全體に盛となり、遂に近代文明の基を開くに至つた。

フロレンスの舊市廳の壁畫で、ダントの作と稱せられる。

圖説

イタリヤ、ミラノ市の聖母寺にある壁畫。紀元二九年四月、越の祭の夜、十二人の弟子と晚餐を共にしたキリストが「汝等の中に我を敵に賣るものがある」と告げた時一同が驚いてゐる有様である。

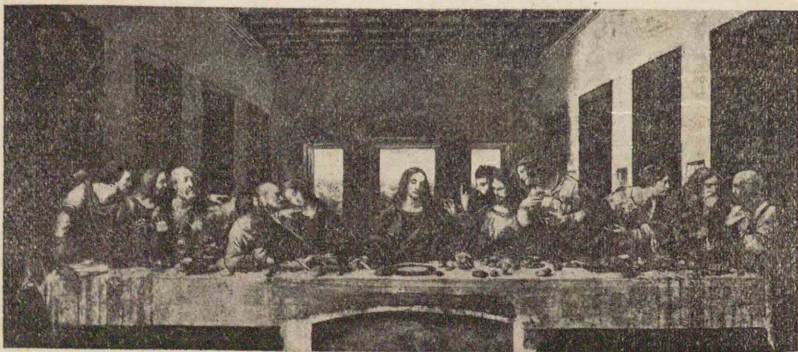


ダンテ

ダンテは文藝復興の先頭に立つ詩人であり、またイタリヤ文學の祖と仰がれてゐる。彼には神曲といふ傑作がある。これを讀むと彼が如何に古典の研究を重んじ、それに通じてゐたかを知ることが出来る。

文藝復興の氣運と共に美術もまた宗教を離れて、自由な發達を遂げるやうになつた。

繪畫には聖母像の畫家として名高いラファエル・レオナルド・ダ・ヴィンチがあり、彫刻及び繪畫にはミケランジェロ・ブランチーニ等が、建築にはブラマンテ等の大家が出て、古代ギリシヤを凌ぐ程であつた。レオナルド・ダ・ヴィンチは



レオナルドの最後晩餐

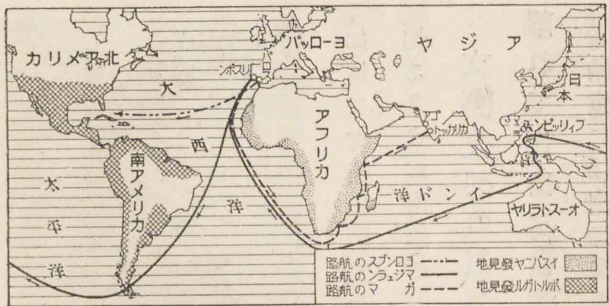
有名な最後の晩餐及び「モナリザ」の作者として知られ、なほ發明家としても有名で飛行機の發明に努力したともいはれてゐる。

■新發明 先づ十三世紀には磁針盤が發明されて航海の發達を助

け、十四世紀には火薬が發明されて戰術を一變せしめ、十五世紀には活版術が發明されて書籍の出版が盛になり、人智の開發、文化の發展に偉大な貢獻をなした。

■新航路の發見と世界一周 十字軍以後西ヨ

ロッパ人の東洋に來るもの日に多くなつたが、イタリヤ人マルコ・ポーロが十三世紀の末に東方見聞録を著して東方の富を説いてからは、西ヨーロッパ人の東方遠征の念は愈高まつた。さうして、これに最も大なる援助を與へたのはポ



發見時代の世界地圖

東城伝

三大發明

- A 磁針盤
- B 火薬
- C 活版術

敬兵戰

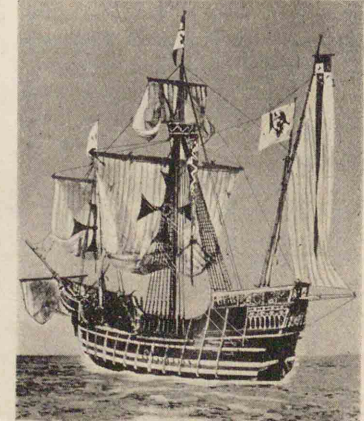
新航路發見の原因

- A 東方見聞録による刺戟
- B ヘンリー航海王の獎勵

コロンブスが大陸發見に用ひたサンタマリア號。

- A 喜望峯に至るもの
- B インド航路
- C アメリカ航路
- D 世界一周航路

ルトガルの王子ヘンリーであつた。やがてバルソロミー・ヂヤズは喜望峯に達し(二四六)、ヴァスコ・ダ・ガマはアフリカの南端を廻つてインドのカリカットに到着し(二四七)、イタリヤ人コロンブスはイスパニヤ王后イサベラの後援を得て西インド諸島を發見し(二四九)、ポルトガルの南端マジェランはイスパニヤ王の命により大西洋から南アメリカの南端マジェラン海峡を通過して太平洋に出



船のスブニコ



イサベラ

で、自身はフィリピンで横死したが、その船はインド洋を経て歸國し、世界一周に始めて成功した(二五三)。コロンブスが西インド諸島を發見したことは、勿論彼の苦心と努力との賜であるが、彼の偉大な

計畫をよく理解し、これを實行するために資金を與へる人がなかつたならば、彼は到底その目的を達することが出来なかつたであらう。さうしてコロンブスの保護者となつたのは有名なイスパニヤの王妃イサベラであつた。イサベラは賢明な婦人で、イスパニヤの海外植民は彼女に負ふことが極めて大きかつた。

第二章 宗教改革とその影響

宗教改革の原因

A 教會の墮落
B ルーテルの出
現

クラナツハがルーテル在世中に描いたもの。

宗教改革

A ルーテル・チャールズ五世に
反對



ルテール

宗教改革の發端 十六世紀の初めローマ法王レオ十世は、寺院建立の資金を得るため免罪符をドイツに賣らせた。その時ルーテルは強くこれに反對して立ち、教會の弊風を痛罵し(五七)、破門狀を焼いて法王と戦ふ意を示した。これが宗教改革の發端である。ドイツ皇帝チャールズ五世は、ルーテルに命じてその説を棄てさせやうとしたが、應

B ルーテルの聖書の獨譯完成

アントニョフ・ニウエルネル筆。一五二一年四月十七・十八の兩日に互つて宗論をする圖で、左方玉座にあるのがチャールズ五世、その下に紙片を手にしてゐるのが對論者のエック、その右に質素な服を着けてゐるのがルーテルである。

じなかつたので、遂に彼を法律保護の外に置いた。しかしルーテルはサクソニヤ公に保護せられて靜かに新約聖書のドイツ譯を完成することが出来た。

ルーテルがチャールズ五世に招かれてウォルムスの國會に出かけんとした時、友人等は皆これを危ぶんだがルーテルは「ウォルムスに集る惡魔の數が、たとへ屋上の瓦の如く多くとも、余は斷然行かねばならない」と叫んだといふことである。さうしてウォルムス國會では、彼は「余は斷じて余の説を取消すことは出来ない。余はバイブルによつてか



ルテールを於けるウォルムス

く説くのである。余には良心がある、良心に背いてまで自説を變更することは出来ない」と主張して遂にその説をまげなかつた。さうして彼は法王も宗教會議もすべて否定し、バイブルを自己の唯一の據り所として勇ましく戦ひ、遂に宗

教改革の偉業を成就することが出来たのである。

新教

A ルーテル派

(北ヨーロッパ)

B カルヴィン派

(スイス・フ

ランス・ネー

デルランド

等)

新教の弘通

Calvin

ルーテルについてカルヴィンがフランスに出て、新教を説き多くの信徒を得た。さうして新教は十六世紀の中頃からヨ

ロッパ各地に傳播し、ルーテル派は北ドイツからデンマルク・ノルウェー・スウェーデン等に、カルヴィン派はスイス・フランス・ネーデルランド・スコットランド等に行はれるやうになつた。

宗教改革の影響

A 教會の改正

B ジェスイット

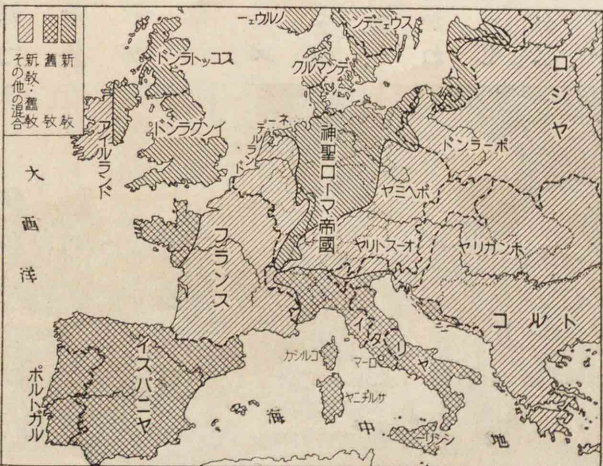
教團の成立

てから、舊教徒は多年の惰眠から醒め、教會内の積弊を改め、教義を正し、勢力の挽回に努めた。またイスパニヤ人

ロヨラは同志サヴィエル等と共にジェス

Loyola

Xavier



新舊兩教分佈圖



十六世紀民風俗(結婚儀式)の實像

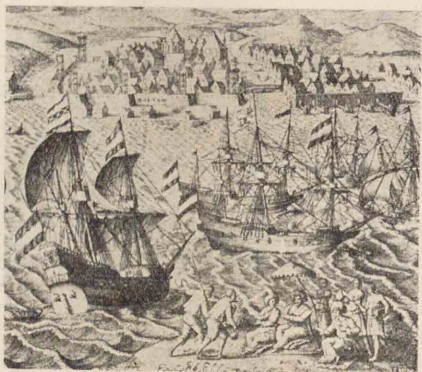
十六世紀農民の風俗

この畫は十六世紀のフランドル(後のベルギー地方)の畫家ブリューゲルの筆で、當時の農民の結婚祝宴を描いたものである。ブリューゲルは風俗畫家として優れ、殊に農村や下層社會の生活を好んで描いた。粗末な小屋の内に、粗造の木の机や椅子、その他簡略な食器類を用ひて開かれたこの饗宴には、亂雑ながらも素朴な農民生活がよく窺はれると思ふ。近代の初めから農民の社會的地位は漸次向上して來た。彼等の生活が繪畫の上にも現はれて來たのもまたその結果である。しかし近代の初めはなほ貴族の勢力が社會を風靡してゐた時であるが、その半面にはまた多數の農民等のあつたことを忘れてはならない。

イット教團(ヤソ會)を組織し(二四〇)、法王權の回復を計つた。またヤソ會 Society of Jesus の宣教師は盛に海外に活動し、その教は殊に東洋諸地に傳播した。東洋布教に最も盡力したのはフランシス・サヴィエルである。彼はインドを経て天文十八年鹿兒島に來り、始めて我が國にキリスト教を傳へた。

第三章 諸國の宗教戰爭

オランダの獨立
 A 獨立の原因
 ① 國人の新教信奉
 ② イスパニヤの壓迫
 B 獨立の經過
 ① 七州の獨立宣言
 ② 一六四八年公認さる



陸上アヴァジの船ダンラオ

一 オランダの獨立とその發展
 イスパニヤ領ネーデルランドは、早くから商業が發達して多くの都市が榮え、人民は新教を奉じてゐた。ところがイスパニヤ王フィリップ二世はその新教を嚴禁し、且つネーデルランド諸市の特權を奪つてしまつた。そこで北部七州は獨立を宣言し(二五二)、オレン

○オランダの獨立
織田信長の頃

ジ公ウイリヤムを擁して總督とした。これ即ち今のオランダである。その後オランダ人は東洋・北アメリカ等に活躍し、十七世紀の中頃にはその貿易は隆昌を極めて諸國を壓するに至つた。

イスパニヤの將レケーセンスは、オランダのライデン城が容易に陥落しないので、舊教に復歸せば大赦を行ふべしといつて誘つたが、市民は「法王に屈せんよりはトルコ人に屈せん、降服よりは溺死せん」と叫んでこれに應じなかつた。その時外援の望は全くなく、唯一の活路である海上までは六里も距たつてゐたが、防波堤を破壊し海上との連絡をつけ、籠城一年にして漸く敵軍を撃退することが出来た。籠城中その苦痛に耐えかねて、一部の市民が市長ウエルフを非難した時、彼は劔を彼等に渡し、これを以て我を刺せ、さうして我が肉を汝等の間に分配せよ、我が生ある間は決して敵に降参しないと叫んだといふ。

フランスの宗教戦役
A ユグノーの優勢
B セントバールソロミュー祭日の虐殺
C ナント勅令による解決

■フランスのユグノー戦役 フランスではカルヴァン派の新教徒ユグノー(聯盟の義 Huguenots)と、舊教徒の争は絶えることがなく、内亂が八年間も續いた(一五七〇)。その後母后カザリンは新教徒を撲滅せんとし、チャールス

虐殺の翌朝、新教徒の死屍累々たる間をカザリンが視察する光景である。

イギリスの宗教改革

A ローマ教會よりの分離
B イギリス教會の成立(エリザベス時代)

エリザベス女王が嚴肅なる表情にて侍臣等の前で、現はれた。この中には「心を得た」といふ文句を記してある。

九世に迫つて、セントバールソロミュー祭日(八月二十日)を期して、新教徒の大虐殺を行はしめた(一五七三)。これから國內は大いに亂れたが、ヘンリー四世が王位に即くに及び、ナント勅令を發して(一五九八)新教徒に信仰の自由を許したので、國內は始めて治つた。

■イギリスの宗教改革 十六世紀の初めにイギリス王ヘンリー八世は、ローマ教會から離れて、自らイギリス教會の首長となつた。その後宗教上の紛争絶えなかつたが、エリザベス女王(一五六八—一六〇三)は舊教を斥け、新教主義に基いたイギリス教會を確立して、これを國教とした。



女王スベザリエ



殺虐の日祭—ユミロソ—バトソセ

右はバリー近郊の農婦で、左の男女二人は當時の貴族の風俗圖である。

- 三十年戦役
- A原因
- ①ボヘミヤ人の反亂
 - ②諸國のボヘミヤ援助
- B結果
- ①新舊兩教徒同等となつたこと



三十年戦役頃の風俗

その後イギリスはイスパニヤの無敵艦隊を邀へ撃つて大捷を博し、植民地をつつて將來雄飛する基を開いた。また文藝も大いに榮え、學者・文人輩出して、所謂エリザベス時代を現出した。

イスパニヤの大艦隊が大敗したことは、舊教國にとつて大打撃であつた。以後イギリスの海外發展は目覺しく、これに反しイスパニヤの海上霸權は漸次衰へた。

三十年戦役 ドイツではその後新舊兩教徒の軋轢甚だしく、新教徒のボヘミヤ人は遂に兵を擧げ、デンマルク・オランダ・イギリスは相共に新教徒を援け、またスウ

- ③スウイス・オランダの獨立承認
- ③ドイツの衰微

- 第一革命
- A原因
- 國王の暴政
- B經過
- ①クロンウェルの出現
 - ②國王の死刑
 - ③航海條例發布

エーデン王グスタフ・アドルフは新教徒を救ふと稱してドイツに侵入して來た。しかしやがてウエストファリアの和議が成立して、新舊兩教徒は同等の權利を得、スウェーデンはポメラニアの西部を、フランスはアルサスの大部分とライン左岸の地とを得、スウイス・オランダの兩國は獨立を承認された。三十年戦役の結果ドイツの國土は荒廢し、諸侯は各、その領土に割據し、帝國の統一全く破れて國勢大いに衰へ、フランス・スウェーデン等は次第に榮えるやうになつた。

第四章 イギリス及びフランスの發展

第一革命 イギリスではエリザベス女王の歿後、ジェームス一世及びその子チャールス一世が、王權神授説を信じて暴政を行ひ、内亂が八年も續いた。この時議會黨の勇將クロンウェルは王軍を破つて國王を奔らせた。後國王は捕へられ、議會はこれを死刑に處した。

C 結果
失敗

その後クロンウェルは共和政を布き、自らその長となり、内は奢侈を禁じ、風俗を矯め、外は航海條例を發布して、オランダを脅かし、またイスパニヤの勢力を挫いて、大いに國威を輝かした。しかしその施政が峻厳に過ぎたため、彼の死後忽ち共和政は倒れて王權が復活した。

クロンウェルが鐵騎兵を率ゐて議會に乗り込み、大いに威を振つてゐる光景。左はクロンウェル像。

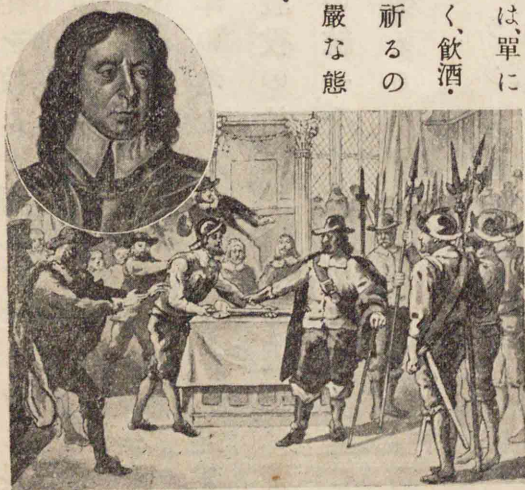
名譽革命

- A 原因 國王の暴政
- B 結果 ①ワイリヤム三世王となる
- ②權利の宣言發布

議會黨の首領クロンウェルに仕へた騎兵は、單に勇敢のみを尊ぶ軍人でなく、敬神の念に厚く、飲酒娛樂等は絶対に避け、戦の前には必ず神に祈るのを常とした。彼等は「鐵騎」といはれ、その謹嚴な態度は後世の人々の尊敬の的となつてゐる。

名譽革命

王權復活後、チャールス二世、ジェームス二世は相ついで立ち、憲法を無視して暴政を行ひ、また外交政策に失敗して國威を墜した。



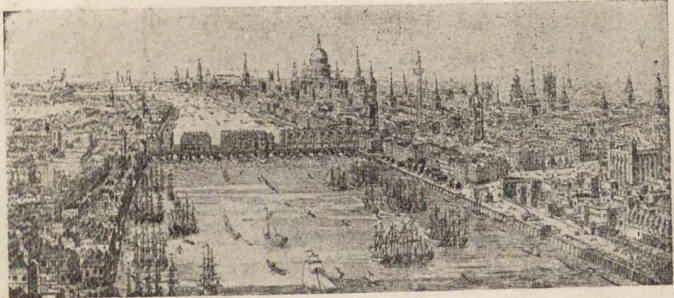
ルエウソク

そこで議會は、オランダ總督ウィリヤム三世をイギリス王として迎へたので、ジェームス二世はフランスに出奔した(二六六)。これを名譽革命

といふ。この時王は「權利の宣言」を發布して國民の權利を保護すべきことを誓つた。

チャールス二世の時代は、イギリスにとつて不幸の多かつた時代で「驚くべき時代」として後世に傳へられてゐる。一六六五年の夏には恐るべき疫病が流行して六箇月に十萬人を失ひ、六六年にはロンドンに古今未曾有の大火があつて家屋一萬三千、寺院九十を焼き、六七年にはオランダの軍艦がテムス河に侵入して市民を驚かした。

その後イギリスでは女王アンの時イングラントとスコットランドとが合併して大ブリテン王國と稱した。しかしまもなく女王が子なく



十七世紀のロンドン

。名譽革命
・徳川綱吉の頃

正面はテムス河。中央にロンドン橋が架せられ、橋上に家屋が建てられてゐる。橋の向ふにある大きな建物は聖ポール。

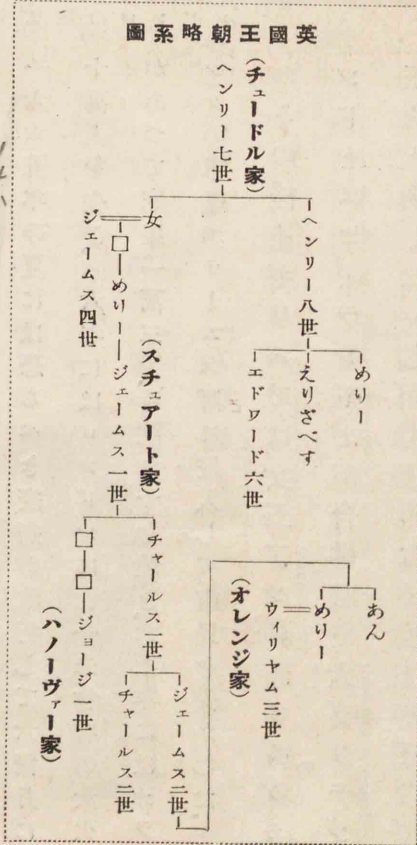
して死んだので、
ジョージ一世がド
イツから入つて
王位を継いだ。
これが今のイギ
リス王家の祖で
ある。

リシュリユー及びマザレン フランスでは十七世紀に賢相リシュリユー



ルイ十四世

及び「マザレン」が出て、諸侯の封建的権力を殺ぎ、王権を高めて専制政治の基礎を固めた。
四ルイ十四世 マザレンの死後、ルイ十四世は萬機を親裁し、コルベール等



リシュリユー及びマザレンの事業 中央集権の實をあげたこと

リゴアの畫で、パリ、ルーヴル博物館蔵。

ルイ十四世

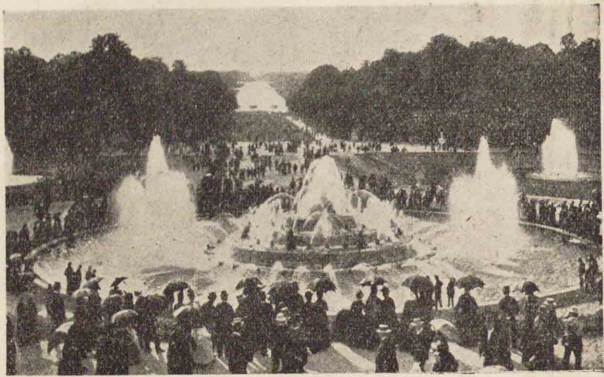
A 内治

- ① 萬機の親裁
- ② 富強を計る
- ③ 學問の保護

B 外征

- ① ネーデルラント侵入
- ② イスパニヤに侵入
- C その失政 ナント勅令の廢止

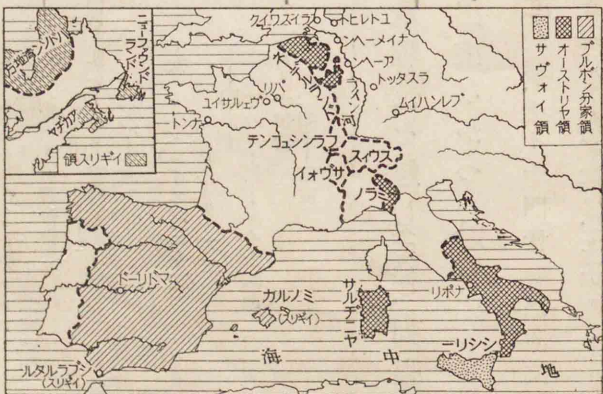
ルイ十四世が王者の尊嚴を誇示するために造營したヴェルサイユ宮苑の一部で、林泉の壯美を極めてある。遙か前方に見える白いところは運河。



苑宮ユイサルエヴ

の人材を用ひて財政を整へ、軍備の充實をはかり、産業を興し、航海を奨励してフランスの富強を計つた。また各所に大規模の

土木工業を起し、學問を保護したから、文運は俄かに起つてフランス文學の黄金時代を現出した。さうして王の宮廷は社交界の中心となり、列國はフランスの學問・趣味を模範とし、フランス語は上流社會に用ひらるゝに至つた。

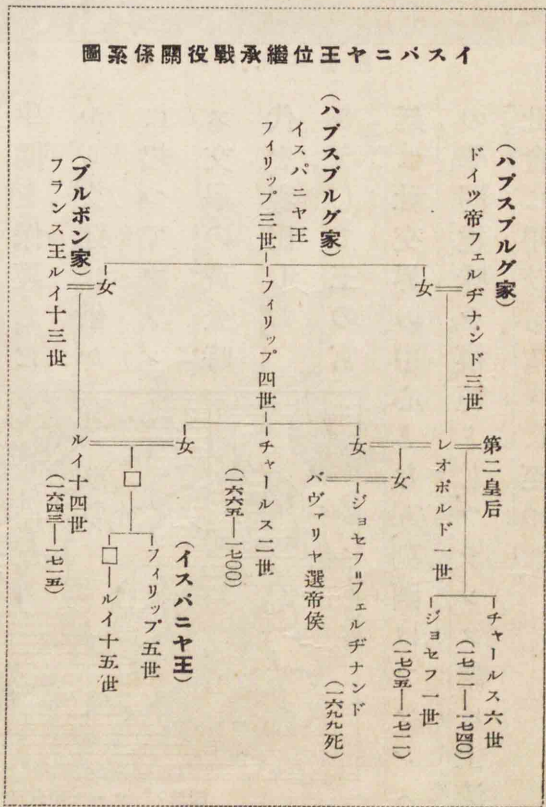


圖地パローヨの代時世四十四ル

○イスパニヤ王位繼承戦役
●徳川綱吉の頃

ルイ十四世はヨーロッパの覇者たらんとし、先づイスパニヤ領ネーデルラント・オランダ及びファルツに侵入したが、列國に妨げられて成功しなかつた。またイスパニヤに野心を伸ばさうとして、イスパニヤ王位繼承戦役を起し(二七〇)、列強を敵として戦かつたが、利益を収めることが出来なかつた。

一七〇〇年イスパニヤ王チャールス三世が死去した後、ルイ十四世の孫が位を継ぎ、フリッブ五世と稱した。しかしドイツ皇帝レオポルド一世は、王子チャールス



を推してイスパニヤ王としようとした。これがイスパニヤ繼承戦役の起因である。戦役の結果フリッブ五世の即位が承認された。ルイ十四世は度々外征を行つて財政を困難ならしめ、またナントの勅令を廢止し、新教を壓へて多數の勤勉な工業者を失ひ、大いに國力を衰へしめた。

第五章 ロシヤ及びプロシヤの興起

ペートル大帝 ロシヤは十七世紀の末に有名なペートル大帝が



帝大ルトーベ

出てから急に盛となつた。未開のロシヤを文明國にしようと思ひ、自らドイッ・オランダ・イギリス・オーストリア等を巡つて、親しく種々の學術を研究して歸國し、新政を布き、軍備の充實を計り、國民の風俗を改め

- ペートル大帝
- A 内治
- ① 大帝自ら外國視察
 - ② 新政の實施
 - ③ ベテルブルグ創設
- B 外征
- ① バルチック海沿岸地方の占領
 - ② シベリヤの領有

大帝が強制的に昔風の髯を切るに反したものは嚴罰に處せられた。



彼得大帝の改革

てロシアの面目を一新した。ペートル大帝は、デンマーク及びポーランドと共にスウェーデンと開戦して、北方戦役を起し(七〇)、遂にバルチック海沿岸の地を得た。また彼はスウェーデンと交戦中、都をペテルブルグに創

設した(七三)。これ現今のレニングラード

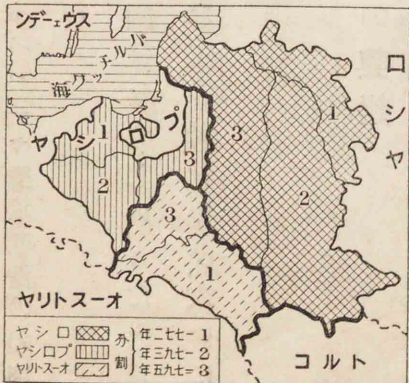
である。帝は更に東方シベリヤの侵略を

企て、清國とネルチンスク條約を結んで兩國の境界を定め、カムチャツカを征服して全

くシベリヤを収めた。

カザリン二世 その後ロシアでは十八

世紀の中頃に、女帝カザリン二世が出てペ



ボラドン分劃地圖

A. 大帝の強制的に昔風の髯を切るに反したものは嚴罰に處せられた。
B. 西歐文化の輸入。
C. 北方戦役 (1700-1721)
D. トルコとの戦い

カザリン二世

A 内治

ペートル大帝の遺志を繼ぐ

B 外征

①ポーランドの分割

②黒海北岸の地を領有

プロシヤの興起

A フレデリック一世の努力

B フレデリック一世の努力

ウイリヤム一世の努力

フレデリック大王

A 外征

①シレシヤ領有

②マリヤテレサと戦ふ

③七年戦役

B 内治
プロシヤの國威發揚

一七九三年シヤヤドウの作、ドイツのステツァンにある。



フレデリック大王

ートル大帝の志を繼ぎ、内治を勵み、外國經略を勉めてロシアの發展を計つた。即ち女帝はプロシヤ・オーストリアと共にポーランドを分割し(七五)、またトルコをも討つて黒海北岸の地を得た。

プロシヤの興起

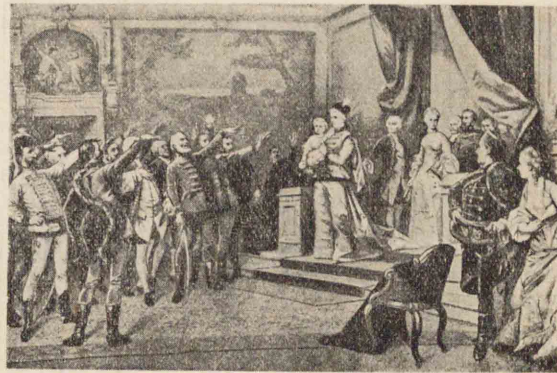
プロシヤはもとドイツの武士團の領土であつたが、十七世紀の初めにブランデンブルグ邊境伯が、これを併合してプロシヤ公といつた。その子フレデリック一世は始めてプロシヤ王と稱し、孫フレデリック・ウイリヤム一世は力を盡して勤儉尙武の風を起し、王國の基礎を固めた。

フレデリック大王

フレデリック二世(大王と呼ばれる)は、英邁で武略に長じ、國家の富強を利用して國力の發展に盡力した。時にオーストリアのチャールス六世死し、皇女マリヤテレサが繼いで、オーストリア繼

マリヤテレサがホンガリヤの議會に臨んだ圖である。

サクソニヤのロスバハの戦に臨んだ大王で、右側馬上の人が大王である。



マリヤテレサ

承戦役が起つた(七)のに先だち、王はオーストリアのシレシヤを奪つた。マリヤテレサは婦人であつたが、雄々しく戦つて聯合軍を退け、アーヘン條約を結んで自己の相續權を認めさせ、プロシヤにはシレシヤを譲つた。フレデリック大王がシ



戦場にてフレデリック大王

レシヤを占領した時、マリヤテレサはホンガリヤに赴き、身には喪服を着け、頭には王冠を頂き、腰には劔を帯び、左手に幼児を抱いて議會に臨み、自己の苦境を訴へて、熱心にその援助を求めた。女皇の目から涙の落ちるのを見て、ホンガリヤの貴族は思はず感激し、我等の女皇のために命を捧げんと誓つたといふ。

その後マリヤテレサはロシヤ・フランス・サクソニヤ等と同盟してプロシヤを滅ぼさんとし、七年戦役を起したが(七)結局オーストリアはプロシヤのシレシヤ領有を承認することとなつた。

かくてフレデリック大王は二度の戦役によつて大いにプロシヤの國威を輝かしたのみでなく、内治にも種意を用ひたので、プロシヤは一躍して當時のヨーロッパ大國に列するやうになつた。

第六章 イギリス・フランスの植民政策の衝突

アメリカ合衆國の獨立

イギリス・フランスの植民 イギリスではエリザベス女王の時代から植民に着手し、その後北アメリカ東岸の南部地方に相ついで植

イギリスの植民
A アメリカに於ける植民
(十三州の植民)
B インドに於ける植民

(マドラス・ボンベイ・カルカッタ等)

フランスの植民

A アメリカに於ける植民

(カナダ・ルイジヤナ)

B インドに於ける植民

(ボンチンシエリ・ジャンデルナゴル等)

またイギリスは東インド會社を起して

民し、十八世紀には發展して遂に十三州の植民地となつた。フランスは十七世紀の初め、カナダ東部に、十八世紀の初めルイジヤナに植民地を設けた。かくてアメリカに於けるイギリス・フランス兩國の植民地は互に境を接することとなつた。

またイギリスは東インド會社を起して

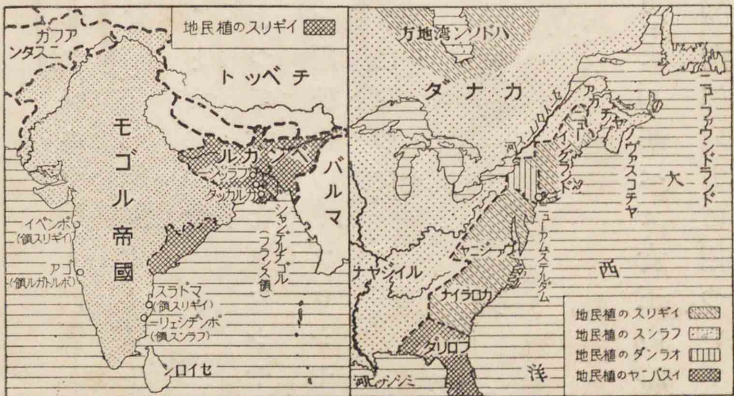
インド經營を企て、十七世紀末までにマド

ラス・ボンベイ・カルカッタ等を領有した。フ

ランスも東インド會社を起し、十七世紀の中頃

にボンヂンシエリ・ジャンデルナゴル等を取つた。そこでイギリス・フランス兩國の

植民地はインドに於ても互に對抗することとなつた。



イギリス・フランス植民地の衝突

A 原因

兩國の植民地が境を接してゐたこと

B 經過

① イギリスはフランスの

カナダを得

② インドのフランス植民地を挫く

ベルケル作の原畫に據る。



ヴァイラク

イギリス・フランスの植民地の衝突

その頃七年戦役がヨーロッパ

アメリカの植民史について忘れてならないことは、メーフラワー號のことである。一六二〇年、信仰の自由を求めてやまぬイギリスの清教徒達は、メーフラワー號に乗つて大西洋を渡り、アメリカ東海岸のニューイングランドに自己の信仰に従つた正しい清い生活を築き上げようとした。さうして彼等は見渡すかぎり殆ど家もない荒野の雪を拂ひ、土を除き、粗末な小屋をつくつて漸く住む所だけにつくり得た。しかし病氣のためには仆れるものも數多く、また土人の襲撃にも苦しめられ、その試練は餘りにも大であつたが、彼等はよくこれに耐え、終に今日のアメリカ合衆國の隆盛の基を築き上げることが出来たのである。

に起つて、フランスが専ら力を大陸に用ひて

ある間に、イギリスは盛にフランスの植民地

を侵略し、アメリカに於てはカナダを奪ひ、イ

ンドではイギリス東インド會社の元の書記

クライヴ等が活躍して、フランス植民地の勢

銅版畫に據る。
フェルデンゲ作

アメリカ合衆國

A 獨立の原因
イギリス本國
の植民地壓迫

B 獨立の經過

① 獨立宣言

② 諸國の援助

③ 獨立の承認

(ヴェルサイユ條約)

④ 憲法制定

(獨立完成)

○ワシントン
・徳川家治の頃

義勇兵は訓練不足のため、整然と戦列を作つて戦ふことは出来なかつたが、これによつて却つて散兵戦の利が世に知られ、戦術一變の端緒となつた。



ワシントン

を大いに挫いた。

三 アメリカ合衆國の獨立 北アメリカのイ

ギリス植民は、自主獨立の精神に富み、萬難を排して新地の開拓に努めたので、漸く隆盛に赴むいた。しかるに七年戦役後、イギリスは

本國の疲弊を救ふために植民地を壓迫し、且つこれに課税した。そ

こでアメリカ植民地十三州の人民は、フィラデルフィヤに會合して、ワシ

ントン^{Washington}を元帥に推戴し、アメリカ合衆國を建てて獨立宣言書を公に

した(二七七)。

獨立軍は最初兵器糧食に乏しく、ために屢敗れたが、フランスを始めヨーロッパ諸國の深い同情を得たことと、ワシントンの指揮が



兵勇義立獨カリメア

よかつたのとで、その勢は次第に振ひ、更にフランスと同盟して大いにイギリス軍を破つた。そこでイギリス政府も終に屈してヴェルサイユ^{Versailles}

イユ條約で十三州の獨立を承認した(二六三)。

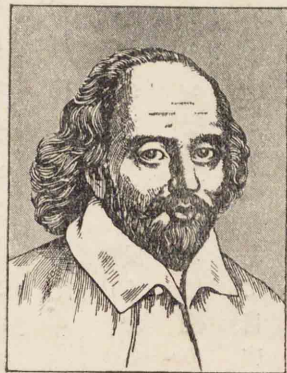
その後アメリカ合衆國は憲法を制定し、聯邦組織の共和政體を立て、任期四年の大統領を選擧して統治をなさしめることとした。さうしてワシントンを初代の大統領に選び、國都をワシントンに奠めて國の基を定めた。

ワシントンは夙くから父を失ひ、専ら母の教育の下に人となつた。母はワシントンを教育するに極めて嚴格で、獨立戦役時代は彼の留守宅を守り、後顧の憂なからしめ、彼をして自由に活動することを得しめた。獨立軍が勝利を得た後、ワシントンは意氣揚々として懐しい母の許に歸つて來た。母は彼を心よく迎へ、健康な彼を見ることこの喜びを述べ、種々昔物語などに耽つたが、ワシントンの榮達のことには少しも觸れなかつたといふことである。

第七章 近世の文明

有名なる文學者

- A ドイツ
 - ゲーテ・シルレル
- B イギリス
 - シエクスピヤ
 - ミルトン
- C フランス
 - ラシーヌ・コルネユ・モリエール



ヤビスクエシ

國民文學の發達 文藝復興以來ヨーロッパ

バ各國で各自の國語尊重の風が盛となり、従つて國民文學の發達は著しく、幾多の傑作を出すやうになつた。ドイツではゲー

テ・シルレル、イギリスではシエクスピヤ、ミルトン、フランスではラシーヌ・コルネユ・モリエール等が出た。

ゲーテ・シルレル・シエクスピヤは世界三大文豪と稱せられてゐる。ゲーテには不朽の傑作「ファウスト」以下多くの戯曲がある。またシルレルにはスウィスの獨立を謳歌した「ウィリヤムテル」やジャンヌ・ダルクを讚美した「オルレヤンの少女等の戯曲」がある。シエクスピヤには「ハムレット」「ヴェニス商人」「マクベス」「オセロ」等の傑作があり、戯曲の祖と仰がれてゐる。ミルトンには長編の劇詩「失樂園」がある。

哲學

A 哲學の二派

- ① 唯理論
 - デカルト
 - ② 經驗論
 - ベーコン
- B 近世哲學の基礎確立 (カントによる)

ドイツのライプツィヒ市にある。上圖はシルレル居宅の前景で目下博物館となつてゐる。下圖はゲーテ書齋の一部で共に昔のまま現存してゐる。

革新文學

- A 特色
 - 非理性的なもの
 - の排斥
- B 有名なる革新文學者

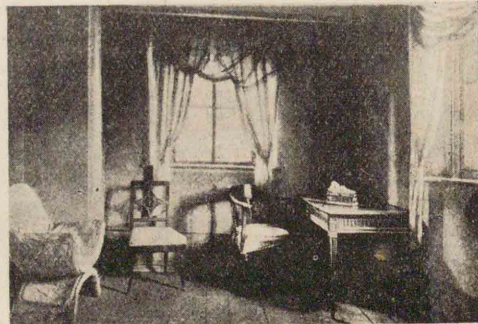
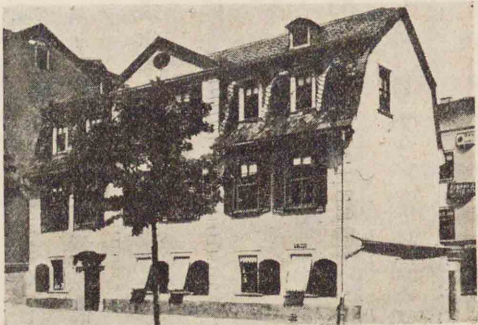
哲學 十七世紀の初め

フランスにデカルトが出て唯理論を唱へ、イギリスにベーコンが出て經驗論を説いて近代哲學の端緒を開いた。その後哲學の研究は益盛となり、多くの

大家が輩出したが、十八世紀にドイツに有名なカントが出て始めて哲學の體系を立て、近世哲學の基礎を定めた。

革新文學 十七世紀以來舊來の弊風を打破しようとする風が盛

となり、一切の非理性的なものを斥けんとする傾向が生じた。これを啓蒙思想といふ。革新文學は實にこの思想を最も明かに示すも



(下) 書齋のテーゲ (上) 家のルレル

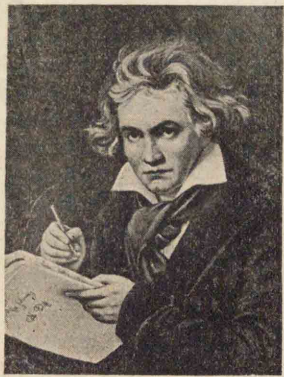
- ① ルソー
- ② モンテスキュー
- ③ ヴォルテール

ので、極めて平易な文章を用ひて、一般民衆の蒙を啓くことを志した。さうして舊文明迷信に充ちた社會を打破すべきことを絶叫し、すべからざる革新の必要を唱へて止まなかつた。ルソー・モンテスキュー・ヴォルテール等は、その代表者として有名である。

ルソーは「民約論」を著して自由平等を鼓吹し、また「自然に歸れ」と絶叫して文明を痛罵した。モンテスキューは「萬法精理」を著して、司法行政立法の三權分立の必要を説き、ヴォルテールは「イギリス人論」を著して貴族僧侶の墮落を攻撃した。

四 美術

文學・哲學と共に、美術もまた發達を遂げ、畫家にはオランダ



シェヴトーベ

にルーベンス・ヴァン・ダイク・レンブラント、イ
 Rubens Van Dyck Rembrandt
 スパニヤにヴェラスケス・ムリリョ等の巨匠が
 Velazquez Murillo
 出た。また音樂にはドイツにモツァルト・ベ
 Mozart
 ートーヴェン等の大家が現はれた。
 Beethoven
 ベートーヴェンは、今日に至るまでなほ樂聖とし

有名なる藝術家

- A 畫家
 ルーベンス・
 ヴァン・ダイ
 ク・レンブラ
 ント・ヴェラ
 ケス・ムリリ
 ヨ
- B 音樂家
 ベートーヴェ
 ン・モツァルト

圖表

一九六九年の特許型の圖。上は捲込みのローラ、下にはづみ繩があり、左下に全部を廻す車がついてゐる。

有名なる科學者

- A コペルニクス (地動説)
 B ケプレル (天體諸星の運行)
 C ニュートン (萬有引力説)
 有名なる發明家
 A ワット (蒸氣機)
 B アークライト (紡績機械)
 C ジェンナー (種痘法)
 D フランクリン (避雷針)

て世人の尊敬を一身に集めてゐるが、その一生は實に貧困と不幸とに充ちたものであつた。殊に晩年聾となつてからの彼は、不幸そのものといつてもよかつた。かつて自分の曲を演奏した時、聴くもの皆感激し、拍手の響きは暫く鳴り止まなかつたが、聾のベートーヴェンはそれを少しも知らなかつた。この痛ましい彼の姿を眺めて親友達は皆涙を流したといふことである。

五 科學

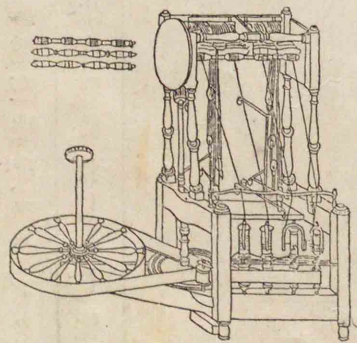
十六世紀にポーランド人コペルニクスは、地動説を唱へて

従來の地球中心説を破り、十七世紀にドイツ人ケプレルは天體諸星の運行に關する法則を發見し、またイギリス

人ニュートンは引力の法則を案出した。更に

十八世紀に入つては、各方面に大家が輩出し、自然科學の黄金時代を現出した。

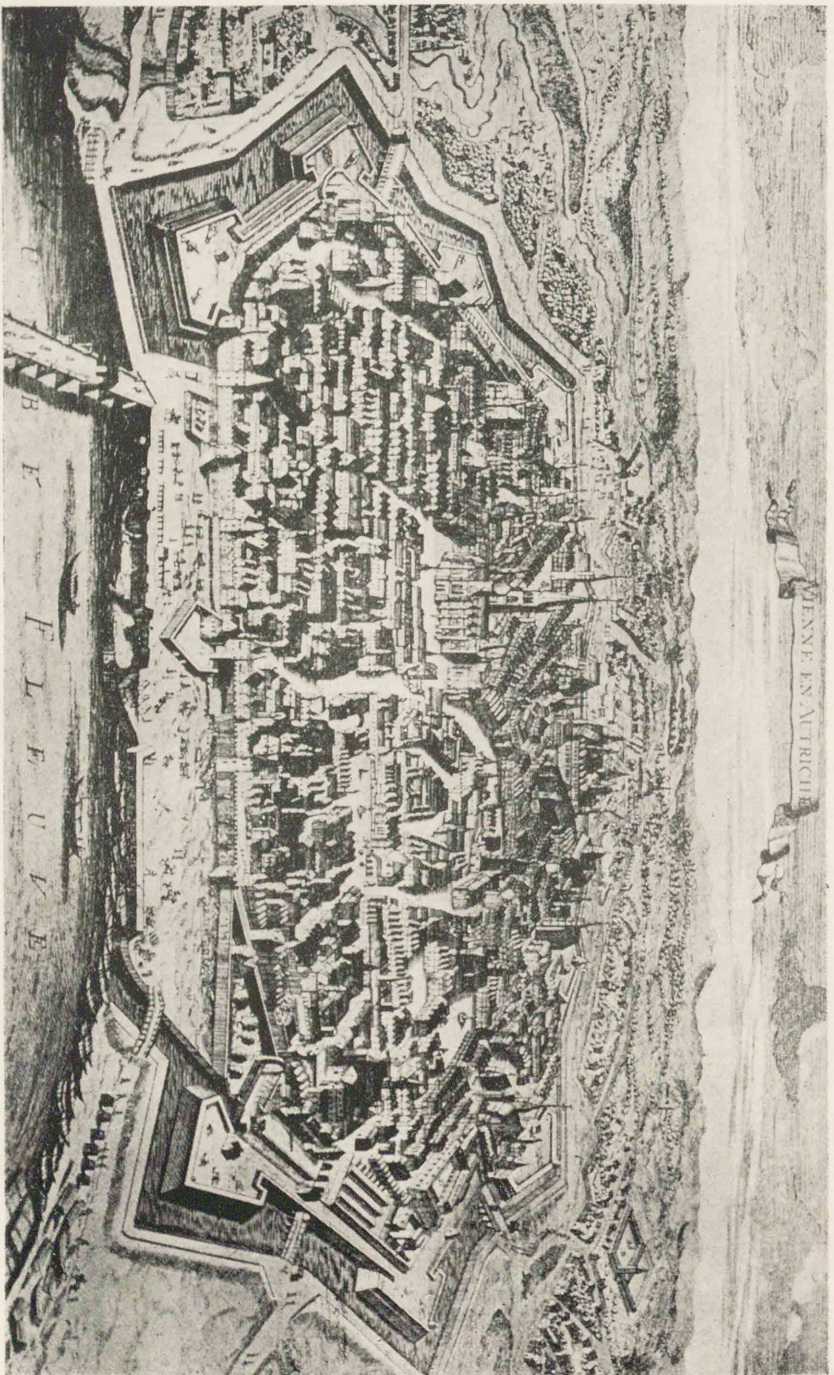
自然科學の發達と共にその應用も盛になり、種々の發明が行はれた。即ちワットは蒸氣



織機紡糸のトイフケーア

機關を、アークライトは紡績機械を、ジェンナーは種痘法を、フランクリンは避雷針を發明した。さうしてこれらは生産界に著しい變化を與へ、また人智の進歩に貢獻した。

六 産業の發展 學問の進歩、諸種の發明及び生産の發達に伴ひ、一般國民の生活上にも變化が起り、經濟生活は大規模となり、特に機械の使用が盛となり、産業上著しい變革を起した。



近世初期の都市(七十七)のウィーン

近世初期の都市

大都市の目覺しい發達は十九世紀後半のことであつて、その以前の都市は比較的小規模なものであつた。殊に近世初期の十六七世紀の頃は、都市は頗る古風な且つ地域も狭いものであつた。パリイやロンドンの如きは中世以降に於ける著名な大都市であるが、それでも十六七世紀には、現今の地域の中心たる極めて狭い部分に過ぎなかつた。しかるに十八世紀末以來の産業の勃興は、その都市に急激な發達を與へたのである。この圖はオーストリアの首府ウィーンの十八世紀の状態であるが、周圍には巨大な保壘を繞らして防備としてゐる。しかし内部の都市の狭小な有様はよく窺はれる。殊に一般住宅に比して寺院の壯大なことが注目されるであらう。當時は工場も發達せず、従つて近代都市の如く大煙突の聳えてゐる光景は全く認められない。前面の河はドナツ(ダニユブ)河である。

第四篇 近世(下)

第一章 フランス革命

革命の原因

A 宮廷の奢侈

B 財政の紊亂

C 貴族の特權所

D 啓蒙思想の影響

E アメリカ合衆國の獨立による刺戟

農民が負擔に苦しむ様を描いたもので、背後に官吏が鞭つてゐる。前方に悠々歩いてゐるのは貴族である。

革命の原因 フランスは既にルイ十四世の時から、連年の戦役と宮廷の奢侈とのために財政が紊れてゐた。ついでルイ十五世が王位に上つたが、宮廷の風儀は大いに亂れ、生活は益々奢侈に赴いて止まるところを知らず、また王は外交を誤つて無謀の外戦に失敗を重ねたので、王室の威信は地に墜ち、國家の財政は益々困難となるばかりであつた。しかも貴族は免税の特權を有して富貴を誇り、下民のみ負擔に苦しんで貧窮に泣いた。この時ルソーが出て自由平等論を唱へたからこれに従ふも



革命時代の諷刺畫

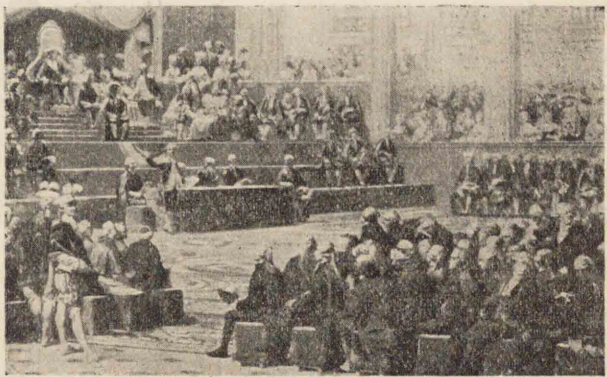
革命の發端

- A 三部會召集
- B 貴族・僧侶と平民との分離
- C バスチーユ牢獄の破壊

圖の左上の椅子によるのがルイ十六世、壇下の左方は貴族議員、中央は僧侶議員、右方が平民議員。

王政の顛覆

- A 王のバリ脱出
- B プロシヤ・オーストリア軍のフランス侵入



會部三ろけおにエイサレヴ

の發端である。

③ 王政の顛覆 まもなく貴族・僧侶は特權を放棄し、國民議會は、人權の宣言を發表して人間の平等なること、その他人民の權利を認め、ま

のが多くなり、またアメリカ合衆國の獨立に刺戟されて、自由民權の思想が大いに起り、遂に革命が勃發するやうになつた。

④ 革命の發端 ルイ十六世は弊政を改革しようとして三部會を召集したが(一七九〇年)、平民部は貴族・僧侶と分離して新たに國民議會を組織し、新憲法の制定を企てた。王は兵力を以てこれを抑へようとしたが及ばず、俄かにパリイに暴動が起つてバスチーユ牢獄を破壊した(一七八九年七月十四日)。これ實に革命

C 王の死刑

先頭馬に乗つて斬り行くのは暴民の指揮者。暴民の武器もその職業によつて種々である。中央に自由の帽子と公平を意味する秤の旗印をかかげて進撃してゐる。

た立憲君主制の新憲法をも制定した。ところが溫和派の首領ミラボーの死後、議會の空氣が益過激に進むのを見て、王はパリイを脱出しようとしたが、途中で捕へられて幽閉された。この時プロシヤ及びオーストリアは、禍の自國に及ばんことを恐れ、聯合してフランスに侵入した。そこでフランス人は王が敵國に通じたものと疑ひ、國民公會を組織して共和制を布き(一七九三年)王を國家の叛逆者として死刑に處した(一七九三年)。



暴民のエイサレヴの暴行

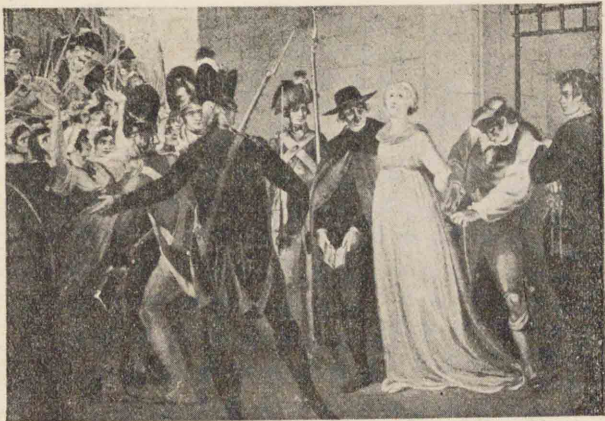
ミラボー、バスチーユの革命の首領

殊にミラボーは極めて穩健でイギリス風の立憲王政を欲した。貴族僧侶の横暴を壓へ、平民の權利の伸張を計つただけであつた。彼は革命の初期に死んだ。

恐嚇政治

A 諸外國に對抗する必要上行はれた
B 王后の死刑
C ロベスピエールの暗殺と共に終る

一七九三年十月十六日朝の光景である。



刑場に引かれるマリア・アントワネット

がもし長生したならば、革命はあれ程狂暴な経過をとらなかつたであらう。
四 恐嚇政治 國王死刑の報傳はるや、イギリス・オーストリア・プロシヤ等は第一回の大同盟をつくつて四面からフランスを壓迫した。

そこで過激なジャコベン黨は斷乎たる方針を取ることを決意し、前王后マリヤアントワネットを始め數千人を虐殺した。
Marie Antoinette
Reign of Terror
Robespierre
世にこれを恐嚇政治といふ。しかしまもなくその代表者ロベスピエールが殺され、恐嚇政治も一年餘で終りを告げた。
ジャコベン黨がその殘酷な行爲を續けてゐた時、シャロット・コルデーといふ若い婦人が現はれた。彼女は極めて眞面目な熱情的な婦人で、ジャコベン黨の狂暴に慄へ上つてゐる國民を救はんと

決心して單身バリに赴き、ジャコベン黨の大立者のマラーを殺してしまつた。即ち彼女はマラーの宅に現はれ、重要な事件につき報告したいと彼に面會を求めた。その時彼は恰度入浴中であつたので、浴場で彼女と會見した。彼女は手紙を渡しながら相手の油斷を窺ひ、隠し持った短劍で彼を刺し、その場に仆した。時に一七九三年七月十三日である。彼女は直ちに捕へられて死刑に處せられたが、彼女の勇敢な行爲を賞し、またその死刑に對して同情する人々が少くなかつた。

五 都督政治 國民公會は、一七九五年新憲法の制定を終ると同時に、自ら解散して新たに都督政治が成立した。しかるに王黨がこれに反對して亂を起したので、政府は砲兵士官ナポレオン・ボナパルトに命じてこれを鎮定せしめた。
Napoleon Bonaparte

第二章 ナポレオンの偉業

一 統領政治 ナポレオンは國內の亂を平げた後、更にイタリヤ・オー

都督政治

A 一七九五年成立
B 王黨の反亂
C ナポレオンの出現

統領政治

- A ナポレオンのエジプト征伐
- B 第二回對フランス同盟
- C 統領政治成立

- ナポレオンの内治
- A ナポレオン法典編纂
- B ナポレオン帝位に即く

- ナポレオン帝位につく
- 徳川家齊の頃

- フランス人バニエー筆

ストリヤを服し、ついでイギリスを苦しめんとしてエジプト遠征を企てたが、これは成功しなかつた。一方イギリスはオーストリヤ・ロシア・ポルトガル・トルコ等と第二回の大同盟を結び、フランスに迫つたので、ナポレオンはエジプトから急ぎ歸國し、政府を併し統領三人を置き、自らその第一統領となつて實權を握つた。

ナポレオン一世 ナポレオンはオーストリヤを破り、列國と和議を結んだ後、財政を整へ、教育を興し、有名なナポレオン法典を編纂し



ナポレオン

て大いに治績を挙げた。かくて彼は國民の信頼を一身に集め、遂にその賛成を得て、皇帝の位に上り、ナポレオン一世と稱した(一八〇四)。

ナポレオンの皇帝即位式は一八〇四年十二月二日パリーのノートルダム大寺院に於て

海戦

トラファルガル海戦の際ネルソン(中央)がかの有名な「イギリスは各員がその責任を盡さんとを期す」の信號を掲ぐる時の光景。

ナポレオンの失敗
トラファルガルの海戦

ナポレオンの極盛
ライオン同盟の盟主となる

舉行された。ローマ法王ピウス七世はわざ／＼ローマから来てこの式に列した。さうして法王がナポレオンに帝冠を戴かせようとする時、彼はそれを押し止めて、自ら頭上に帝冠を戴き、皇后ジョセフィンには彼自ら冠を加へたといふ。我々はこのことのうちにもナポレオンの性格を窺ふことが出来る。

ついでナポレオンは、第三回の對フランス大同盟をつくつたイギリスを討たんとしたが、トラファルガル沖でフランス・イスパニヤの聯合艦隊がネルソンに破られたので(一八〇五)、その志を達し得なかつた。

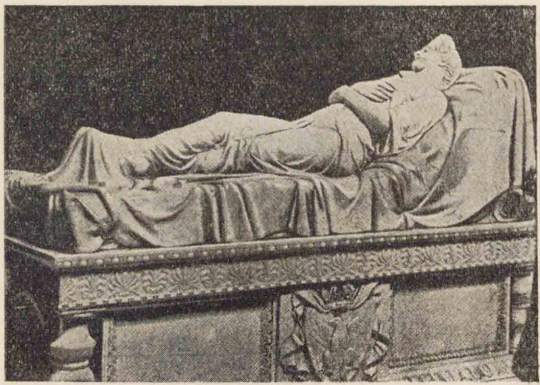
ナポレオンの極盛 そこでナポレオンは兵を東に進め、オーストリア・ロシアの聯合軍を破り、ライオン同盟を組織せしめて自らその保



トラファルガルの上艦

B 大陸封鎖令の實施

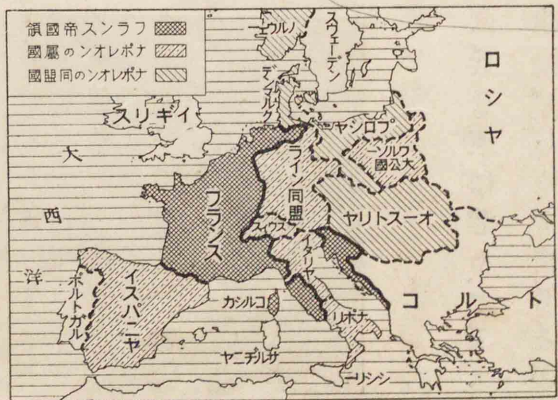
護者となつた。かくて十世紀以來續いてゐた神聖ローマ帝國は、こゝに名實共に滅亡した。その後ナポレオンはイギリスを經濟的に苦しめんとして大陸封鎖令を行



墓の后皇ゼイル

つた(二八〇)。爾來ロシア遠征に至るまでの三年間はその極盛時代であつた。

プロシヤ王フレデリックウィリアム三世の皇后ルイゼは、賢明の譽高い婦人であつた。初めイギリス等の對フランス大同盟に参加するやうに王に勧めたのも彼女であつた。後プロシヤがフラン



圖地パローの代時盛全ソレボナ

Handwritten notes in Japanese, including the name 'ハロー' and some illegible characters.

ナポレオンの没落

- A 大陸封鎖令の失敗
- B ロシヤ侵入の失敗
- C 對フランス第四次同盟の成功
- D ナポレオン再舉の失敗
- E セント=ヘレンに流竄

チンメルマン筆で、フィヒテが國民軍の服裝をした圖である。



テヒイフ

四 ナポレオンの没落

しかしまもなくロシアが大陸封鎖令を破つたので、ナポレオンはこれを責めてモスコーに進入したが、火災と飢寒とに苦しめられて退却した。この時プロシヤ、オーストリア、イギリス等は第四回の大同盟を結んでフランス軍を破り、ナポレオンをエルバ島に流し、ルイ十六世の弟ルイ十八世を立ててフランスの王とした(二八四)。

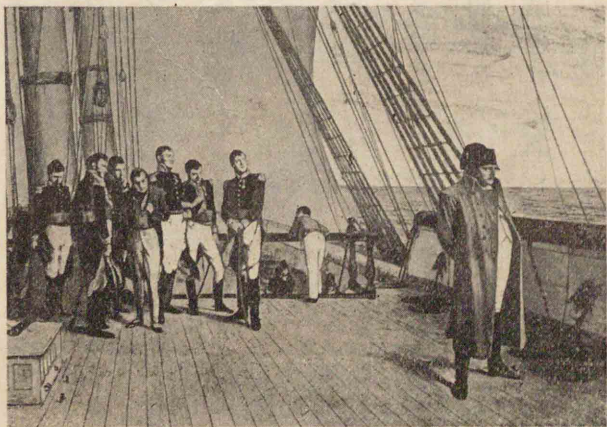
ナポレオンがプロシヤを壓迫した時、哲學者フィヒテは斷然これに反抗し、かの有名な「ドイツ國民に告ぐ」といふ一書を著して、愛國心の喚起と士氣の鼓舞に盡力して止まなかつた。なほフィヒテがカント・ヘー

スミ戦つて國の大半を失つた時にも殆ど一身を犠牲に供して、祖國の救済に努めた。また徳義會の設立を助け、人民の愛國心を大いに鼓舞した。

ゲルと共に、ドイツの偉大なる哲學者であることも忘れてはならない。

その後ナポレオンは、ウィーン列國會議が紛擾してゐるのに乗じて、パリに歸り再び王位に即いたが、ワートルローに大敗し(二八五)、遂に大西洋の一孤島セントヘレナに流された。さうしてルイ十八世が再び王位に登り、二十三年に互る大亂も漸く鎮まつた。

ナポレオンの母レチチャラモリノは才色兼備の賢婦人で、如何なる困難に出會つても決して屈しなかつた。彼女は夫の死後裕でないうちからよく八人の子女を教育し、またナポレオンの全盛時代といへども決して驕ることなく、節儉を守ることがを旨としたので、ナポレオンの没落



ナポレオンの上艦セントヘレナ

配流の身となつたナポレオンが艦上から故國フランスの空を眺めつゝある光景である。イギリス畫家オーチャードソン筆。

ウィーン列國會議

A 議事決定を急いだ理由
B 決定事項

フランス畫家ゼラール筆。



レチチャラモリノ

後も生活に苦しむやうなことはなかつたといふ。

五 ウィーン列國會議 これより先、ナポレオンのエルバ島脱出の報がウィーンに達するや、それまで容易に妥協しなかつた列國は、急にワートルローの戦に先立つて次

の如く議事を決定した(二八五)。

- (一) 舊君主はもとの領土を得ること、
- (二) ロシヤはワルソー大公國の一部を、プロシヤはサクソニヤの北半とワルソー大公國の大部を得ること、
- (三) オーストリアは北イタリアに地を得ること、
- (四) オランダはネーデルランドを併すこと、
- (五) イギリスは海外領土を増すこと、
- (六) スイスは永世中立國となり、
- (七) ドイツは新にドイツ聯邦を組織すること。

第三章 反動主義と自由主義

神聖同盟

A 成立の原因

ロシア・ドイツ・オーストリア三帝の提唱

B 性質

平和・博愛・正義の尊重

C 結果

メッテルニヒの利用

註

イギリス畫家ロレンス筆で、ウィンゾル宮殿蔵。



メッテルニヒ

神聖同盟 ウィーン列國會議後、ロシア帝アレクサンドル一世は、オーストリア帝及びプロシヤ王等と共に神聖同盟をつくり、互にキリスト教の教義に従つて、平和・博愛・正義を旨とし、兄弟同胞の如く相交はることを約した。當時ヨーロッパ諸國は革命の再發を恐れてゐたので、イギリス・トルコ及び法王領以外の諸國は、概ねこの同盟に参加して新思想を抑制した。

オーストリアの首相メッテルニヒは、神聖同盟を利用して自國のみならず諸國の自由運動を抑へ、且つオーストリアの國威を高めようとし、巧に列國を操縦したが、遂に成功しなかつた。

一八一六年の銅版畫で、ライプナヒ大學生風俗。

アメリカ諸國の獨立

A 原因

①本國の植民地壓迫
②ナポレオンの各本國壓迫

メッテルニヒ等の反動主義に對して、諸國に自由運動が盛に起つた。ドイツでは大學生を中心とする自由運動があり、イタリアではカルボナリ黨が起つて、北イタリアに於けるオーストリアの勢力の排斥と、イタリア統一を唱へた。またスイスのジュネーヴでは本國から追はれた志士が各青年イタリア青年ドイツ青年ポーランド等の結社を結び、互に連絡を圖つて青年ヨーロッパをつくり、世界的に大活動をしようとした。

アメリカ諸國の獨立

中央アメリカ及び南アメリカのイスパニヤ・ポルトガルの植民地は、本國がナポレオンに苦しめられてゐるのに乘じて各獨立を企て、十九世紀の初めにヴェネズエラ・コロンビヤ・ペルー・アルゼンチン・ボリヴィヤ・メキシコ・チリ・ブラジル等の諸國が相



ドイツ學生の風俗

B 獨立し得た理由
イギリス・アメリカ合衆國の援助

ついで興つた。メッテルニヒはこれをも抑へようとしたが、アメリカ合衆國大統領がモンロー主義を唱へて、イギリスと共に彼に反對したので、アメリカ諸國は獨立することが出來た。

Monroe Doctrine

モンロー主義は一八二三年十二月二日、アメリカ合衆國大統領モンローによつて始めて説かれたもので、ヨーロッパ諸國がアメリカ合衆國のことに干渉するを禁じ、その代りアメリカ合衆國もまたヨーロッパ諸國のことは何等干渉しないと主張した。爾來アメリカ合衆國は、このモンロー主義を利用してアメリカ大陸に於ける自國の發展を計つた。

アメリカ合衆國第五次大統領。



モンロー

ギリシヤの獨立
A 原因
トルコの壓迫
B 成功の理由
ロシア・フランス・イギリスの援助

三 ギリシヤの獨立

ギリシヤ人もまた獨立を唱へ、トルコに對して叛旗を翻したが、直ちに鎮定された。しかしロシアはその勢力を伸ばすため、イギリス・フランスと同盟してこれに干渉し、遂にトルコと戰を開き、大いにこれを破つた。その後ギリシヤ人は新たに國

王を迎へて獨立を完うした(二八三)。

ギリシヤの獨立戰爭に活躍したバイロンは、イギリスのロマンチック派の代表

Byron

的詩人である。彼は傲岸奔放熱烈にして革命的・反抗的な性格で、規則正しい學校生活を續けることが出來ず、一八〇九年には故國を去つてギリシヤに遊び、處



バイロン

女作「チャイルド・ハロルド」を著して一躍イギリス詩壇の寵兒となつた。その後その奔放な性格のため故國に容れられず、大陸を流浪しながら幾多の傑作を出した。やがて一八二一年ギリシヤ獨立戰役起るや、尊敬して止まざるギリシヤの故地の荒らさるるを坐視するに忍びず、自ら劍を採つて義勇軍に加はり、ギリシヤ軍のため種々盡力するところあつたが、偶然熱病に冒され、ミソロンギの野の露と消え去つた。

第四章 イギリス及びフランスの發展

イギリス畫家
フィリップスの
原畫に據る。

七月革命

A原因

チャールス十世の暴政

B結果

ルイフィリップの即位

圖説

フランス畫家デラクロア筆で、各階級の人々が自由の女神の指揮の下に蹴起した光景。ルーヴル博物館蔵。

七月革命 フランスではルイ十八世の次にチャールス十世が即位し、極端な専制政治を行ひ、恣に議會を解散したので遂にパリに暴動が起つた。その結果チャールス十世は廢せられ、王族ルイフィリップが國王に迎へられた。世にこれを七月革命といふ(二八三)。



命 革 月 七

七月革命の報傳はるや、ベルギーはオランダに叛旗を翻して獨立を宣言し(二八三)、ポーランドもまたロシアから獨立せんと企てたが不幸ロシア軍のために破られ、その屬國となつた(二八三)。その他イタリヤでは例のカルボナリ黨が活躍し、諸所に一揆も起つたがメッテルニヒのために鎮定され、ドイツではサクソニヤ、ハノーヴァー等に自由運動が起り、王に迫つて自由主義に基く憲法を制定せしめた。七月革命の影響は更に海を越えてイギリスにも及び、選舉改正案となつて現れた。

二月革命

A原因

ルイフィリップの失政

B結果

①共和政成立
②ルイフィリップの即位

レオンの大統領就任

圖説

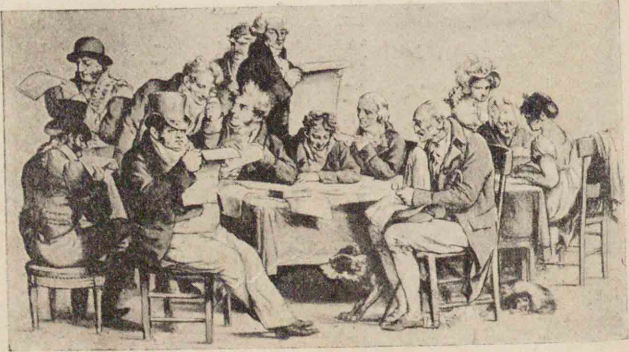
當時の新聞業者は重税を課せられた上に政府に不利な記事は容赦なく削り取られた。そこで、新聞の値段が勢ひ高くなり、讀者は多く新聞閱覽所で讀んだ。

二月革命

しかしフランス王ルイフィリップもやがて資本家と結んで反動主義に傾き、且つ東方問題にも失敗して威信を失つたので、遂にパリに官民の衝突が起つた。そこで國民は王權を廢して共和政を布いた。世にこれを二月革命といふ(二八四)。ついで新憲法が成り、ルイナポレオンが大統領に選ばれた。

February Revolution
Louis Napoleon

二月革命によつて刺戟されたウィーンの市民は、暴動を起してメッテルニヒをイギリスに走らしたが、やがて鎮定され、ホヘミヤのチエック人はスラヴ族の統一を唱へたが成功しなかつた。ホンガリヤではコッ



聞 新 の め 初 紀 世 九 十

ストトが出てオーストリヤから獨立を企てたが失敗し、プロシヤではベルリンに暴動が起り、イタリヤでは青年イタリヤ黨が自由と統一を叫ぶなど、二月革命後のヨーロッパは極めて多事であつた。なほスウイスの統一(二八四)が成つたのも

二月革命の影響によるものである。

ナポレオン三世

A 内政

① 人心の收攬を圖る

② 帝政の復活

③ ナポレオン三世の即位 ナポレオン一世の甥ルイ・ナポレオンは、二月革命の後フランス大統領となつたが、フランス人が伯父ナポレオン一世の功業を追慕せるに乘じ、先づ腹心の部下を文武の要職に擧げ、屢國內を遊説して民心を收めることに勉め、巧に自家の勢力を養つた。一八五一年彼は遂にクーデターを執行して反對者を抑へ、新憲法



ナポレオン三世

Coup d'Etat

を定めて、大統領の任期を十年とし、翌年國民投票によつて帝位に登り、ナポレオン三世と稱した。こゝに於てフランスは第二の帝政となつた。

B 外征

① ロシヤに對抗してクリミア戦役を

④ クリミア戦役

かくてナポレオン三世が人望を得ようとして、聖地イェルサレムの管理權をローマに移した時、ロシヤはトルコ領内の

ヤンニン筆、大統領當時の像。

起す
② パリー條約

イボン筆、一八五五年九月八日マラコフ砲臺占領の光景である。ウエルサイユ宮殿蔵。

ギリシヤ教徒保護權を要求した。トルコがこれを拒絶するや、ロシヤはトルコに宣戦し、クリミア戦役が起つた(一八五四)。ナポレオン三世はイギリス・サルヂニヤ・トルコと共にロシヤに當り、クリミア半島のセバストポール要塞を陥れた(一八五五)。翌年パリー條約によつて、列國はトルコの獨立と領土の保全とを尊重することとした。かくてナポレオン三世の威名はこれから急に揚ることとなつた。



クリミア戦役

クリミア戦役の頃は、未だ衛生の設備も十分でなかつたので、この戦役の負傷兵の慘狀は目も當てられない程であつた。これを知つたイギリスの婦人ナイ



ルーゲンチイナ

チンゲールは同情の念禁する能はず、終に同志を募り、政府の許可を得てクリミア半島に赴き、負傷兵を手厚く看護した。後の赤十字社は實にこれから起つたのである。

五 イギリスの發展

二九年舊教徒自由法案が議會を通過して、舊教徒は新教徒と同等の權利を得、また革命後選舉法改正案が議會を通過して(二八三)、新しく興つた都市は多くの議員を議會に送ることが出来るやうになつた。翌年には奴隸廢止問題が解決されて、奴隸は自由の天地を得た。なほコブデン Bright 等の努力によつて穀物法廢止法案も



俗風人婦の紀世九十

イギリスの發展

- A 舊教徒自由法案の成立
- B 選舉法改正案の成立
- C 奴隸廢止の決議
- D 穀物法廢止法案の成立

一八四五年の風俗圖で、左は室内、右は外出の服装である。

可決され(二八六)、ついで保護關稅も殆ど全廢されて自由貿易主義が確立し、イギリスは益發展することとなつた。

イギリスとフランスの國民性

イギリス人は一般に獨立心に富み、自由の自覺が強く、且つ極めて着實である。彼等が商業に成功したのも、海外に於て大なる植民地をつくり得たのも、議會政治をよく發達せしめて他國に範を示したのも皆この賜である。しかし一面保守的などころ、老獪な點があるのは事實である。

フランス人は敏捷、輕快且つ感情的である。頭腦は明敏で天才的な國民とまで呼ばれ、學藝外交には最も秀でてゐる。しかし商工業植民事業はイギリス人に壓せられてゐる。

第五章 アメリカ合衆國の發展と南北戰爭

一 アメリカ合衆國の發展 獨立當時のアメリカ合衆國は、東部の十三州のみであつたが、その後ルイジアナ Louisiana フロリダ Florida 等を

フランスは情熱的

アメリカ合衆國の發展

- A 東部十三州
- B ルイジアナ、フロリダより太平洋東岸まで

南北戦争

A原因

- ①南北の経済的差違
- ②奴隷使役の賛否
- ③リンカーンの大統領就任

図説

解放された奴隷がリンカーンの膝下に跪いてゐる銅像で、その下に「解放」と銘してある。

B経過

- ①最初は南軍優勢
- ②最後は北軍の勝利

C結果
南北両部の合併

○南北戦争
●徳川幕府の長州再征の頃

の領土を西方に擴め、十九世紀の中頃には太平洋岸に達した。

■南北戦争 かく領土が擴大すると、地味・氣候も處によつて異なるから、その經濟状態も同一でなかつた。けれどし北部は鑛産に富み、工業が盛で保護貿易を欲し、南部は奴隷を使役して農業を營み、自由貿易を望んでゐた。さうしてこの奴隷使役問題に關して北部

南部は各、その意見を異にし、奴隷廢止論者リンカーンが大統領に選ばれるや、南部は遂に北部から分離することとなり(一八六〇)、こゝに南北戦争が起つた。



リンカーン

初め南軍が優勢であつたが、グラント將軍が北軍を指揮するに及んで形勢逆轉し、北軍は遂に最後の勝利を占めた(一八六五)。その後まもなくリンカーンは南部出身の暴漢に暗殺されたが、南北両部は遂に合併してアメリカ合衆國の國運は再び隆盛に赴いた。

文筆の力が如何に大なるものであるかを、我々はビーチャーレストウ女史の例で

知ることが出来る。彼女はアメリカ南部に於ける残酷な奴隷使役を深く憤り、奴隷の悲惨な境遇を流暢な筆で詳細に描き、一八五二年これを小冊子として發表し、世の同情に訴へた。人々は争つてこれを讀み、感激しないものはなかつたといふ。これが有名な「アンクルトムの小家」である。この

書物が奴隷廢止に貢献したことは、グラント將軍の十萬の兵士よりも優るとさへいはれてゐる。



史女ウトス

これが有名な「アンクルトムの小家」である。この

書物が奴隷廢止に貢献したことは、グラント將軍の十萬の兵士よりも優るとさへいはれてゐる。

メキシコの亂

メキシコの亂

メキシコ共和國は獨立後内亂が絶えず、その勢が振はなかつた。そこで功名心に燃ゆるナポレオン三世は、武力を以てメキシコを自己の保護の下に置き、オーストリア皇帝の弟マキシミリアンをその皇帝とした。ところがその後國內の不穩ど、アメリカ合衆國の反對のため、彼は遂にメキシコ

から撤兵せざるを得なかつた。さうしてマキシミリアンは殺され、メキシコは再び共和國となつた。かくて一時ヨーロッパを風靡したナポレオン三世の威名も急に失墜した。

第六章 イタリア及びドイツの統一

イタリアの統一運動

- A サルヂニヤの統一運動
- B サルヂニヤ王及びカヴールの努力
- C ナポレオン三世との握手



ルーヴカ

の充實をはかり、外はクリミア戦役に参加して國威を揚げ、更にナポレオン三世と結んで、オーストリア軍を破り、北イタリアを割かしめた(一八五九)。

イタリア統一運動

イタリアは中世以來久しく分裂してゐたが、七月革命後サルヂニヤを中心とするイタリア統一運動が起つた。サルヂニヤ王ヴィクトル・エマヌエル二世は、賢相カヴールを用ひて内は國力

イタリアの統一

- A 中部イタリアの併合
- B 法王領の大部分併合
- C ナポリ・シシリー併合
- D サルヂニヤ王とイタリア王となり、統一完成

ローマ市にあるイタリア統一記念大建築で、中央にエマヌエルの騎馬像があり、その周囲に廻廊をめぐらしてある。

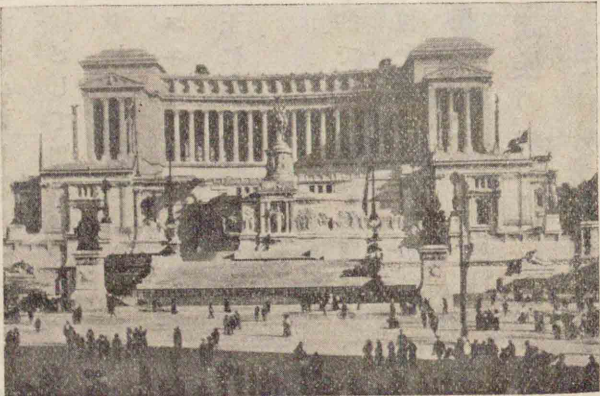
當時の銅版彫刻に據る。

イタリアの統一

その後サルヂニヤ王はカヴールと共力し、フランスの承認を得て中部イタリア諸邦を併せ、更に南下して法王領の大部分を収め、なほガリバルヂの盡力によつてナポリ領及びシシリー島をも略することが出来た。かくてヴェネチヤと法王領の一部の外は、皆サルヂニヤ王の支配を受けることとなつたので、王はイタリア王の位に即



デルバリガ



塔念記一統ヤリタイ

き(一八六二)都をフロレンスに奠めた(一八六五)。かくてイタリア統一の業は殆ど實現され、やがて一八七一年完成された(一八七〇)。

同日同年、明治四年、九月七日、ドイツも同じ

熱血兒ガリバルヂは北イタリアのニースに生れ、早くから海上に流浪の生活を續けてゐたが、性來義侠心に富み、且つ自由の精神に燃えてゐた。さればこそ後専らイタリア統一運動に活躍し、投獄されること數度に及んだが少しも屈しなかつた。彼は一八六〇年一千の義勇兵を率ゐてシシリー島に上陸し、忽ちこれを平定し、ナポリ王國に向つた。しかし赤シャツ隊として知られてゐるその勇敢な軍隊の前には、敵は反抗する勇氣もなく、戦はずして降服したといふ。やがて彼は南下して來たサルヂニヤ王ヴィクトル・エマヌエル二世とカヤネルロ附近で會見し、征服したシシリー島及びナポリ王國を王に獻じ、自らはカブレラの住居に退いてしまつた。

イタリアの國民性

イタリア人は情熱的・空想的で、着實勤勉の風は少ない。だから藝術・學問等の精神文化の上には重要な地位を占めてゐるが、統一國家としてはその勢イギリス・フランス等に比して餘り振はない。

三 ドイツ統一の趨勢　ドイツは中世以來諸侯の勢力が強かつたので、永く統一國家をつくることが出来なかつたが、ウィーン會議後、プロ

ハカカン王國
(ルーマニア王の堡)

ドイツ統一の順序
A 關稅同盟成立

B プロシヤ・オーストリア戰役
C 北ドイツ同盟

普現戰役 1866
七通戰役
プロシヤト
オーストリア戰役

ビスマルクの努力

シヤはドイツ内の諸國と關稅同盟を結び、經濟的方面から統一を計らうとした。

四 プロシヤ・オーストリア戰役

Bismarck

プロシヤの宰相ビスマルクは、かねてオーストリアを除外してドイツ統一を行はうと考へてゐた。偶、シレスウイ・ホルスタインの處分問題でオーストリアと衝突したので、これを好機としてオーストリアと開戦し、大いにこれを破つた(二六)矣。その後プロシヤは北ドイツ諸國と共に北ドイツ同盟をつくり、

自らその盟主となつて、益國威を揚げた。



ビスマルク

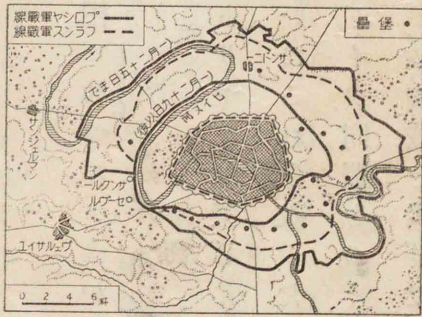
ビスマルクは鐵血宰相として世に知られてゐる。彼の理想はプロシヤをしてドイツの覇者たらしめ、さうしてドイツ統一を行ふにあつた。しかしこれを實現するには充實した軍隊を必要とするので、彼は反對を物ともせず軍備擴張を斷行した。さうして、時局の重大事

は言論や多数決によつて決せられず、たゞ血と鐵とあるのみ」と叫び、以後鐵血宰相の名を以て呼ばれるやうになつた。

D ドイツ・フランス戦役
E ヴェルサイユ条約

【五】ドイツ・フランス戦役

プロシヤの隆盛を嫉んでゐたナポレオン三世は、イスパニヤ王位繼承問題を好機としてプロシヤに開戦した(二六七)。そこでプロシヤは直ちに動員令を下し、フランスに侵入して連戦連勝した。これに反してフランスは開戦はしたが、戦備が不充分であつた上に、ドイツ諸邦がフランスの豫想を裏切つてプロシヤに味方したので、フランス軍は甚だ振はなかつた。さうしてナポレオン三世はセダンに圍まれ、遂に大軍と共に降服したので、ドイツ軍はパリに殺到してこれを圍んだ。パリ市民は大いに驚いて假政府を組織し、共和政を布き、市民一致して籠城すること



セダン圍攻地圖



セダン圍城

パリーの籠城

一八七〇年秋、ドイツ・フランス兩國の間に戦端が開かれて、フランス軍は連戦連敗し、ナポレオン三世も遂にセダンに圍まれて降服してしまつた。そこでパリー市民は共和黨の名士ガンベッタ等に率ゐられて、パリー市を自己の手に收め、共和政を宣言し(九月四日)、且つ全市民の賛同を得て、ドイツ軍を引受けて籠城することに決した。かくてパリー市民はドイツ軍の攻圍を受け、數月の久しきに亘つてよく防禦に努めたが、遂に食盡きて降服するの已むなきに至つた(一八七一年二月)。フランス國民が祖國の榮譽のために、またパリー市の名聲のために、不完全な防備に據つてよく健闘したことは、永く後世に傳へらるべき美談である。その際パリー市の防禦線は周圍約八里半のパリー市の城壁より更に前方の地域に及び、七萬二千の海陸兵、十一萬五千の召募兵、十三萬の義勇兵を以てそれを守つた。これに對しドイツ軍の攻圍線は周圍約二十里に亘り、その兵數は最初十三萬であつたが、後には二十四萬に及んだのである。この畫はフランス畫家メーソニエの筆で、中央の婦人はパリー市を意味する比喩像である。

明治四年十一月五日
の初めて、立石とフ
屋年、ドイツ、イ
ナリとてある

フランス畫家ビ
ユーラン筆(フ
ランスの富)と
題する。フラン
ス國民が祖國の
ために進んで國
債に應募する光
景である。



タッペンガ

五月に及んだが、一八七一年一月、力屈して遂に開城した。やがてヴェルサイユ條約が結ばれ、フランスはドイツにエルサス・ロートリンゲンを割くこととなつた。

ドイツ軍がパリーを圍んだ時、最も活躍したものは共和主義の政治家として有名な熱血兒ガンベッタであつた。彼は假政府を組織し、帝政を廢して共和政を布いたのみでなく、自ら輕氣球に乗じて重圍中のパリーを逃れ出で、地方に赴いて義勇兵を募つた。しかし彼が辛苦の後に組織した義勇軍もまた勢振はず、遂にパリーは陥落してしまつた。

六 ドイツの統一完成

プロシヤ・フランス



圖の募應債國民國スナラフ

Fプロシヤ王の
ドイツ皇帝即
位

。ドイツ統一の
完成
・明治六年

戦役の間にドイツ統一の氣運は大いに熟し、やがて國民大多數の希望によつて、プロシヤ王はパリーのヴェルサイユ宮殿でドイツ皇帝の位に即いた。ついで新たに憲法を定め、爾來プロシヤ國王はドイツ皇帝の位を世襲することとし、ドイツ統一はこゝに漸く完成された(二八七)。モルトケ、ビスマルクの功績

ドイツの國民性 　ドイツ人は勤勉着實な國民で、學問の研究に長じ、知識の實際的應用にも優れてゐるので、工業の發達してゐることは世界第一である。政治外交も、フランスの如く華々しい活動よりも確實な活動を望んでゐる。

第七章　ロシアの發展とロシア・トルコ戦役

ロシア・トルコ戦役
A原因
①全斯拉ヴ主義運動

一　ロシア・トルコ戦役　クリミヤ戦役の後、ロシアに全斯拉ヴ主義の運動が起り、各地の斯拉ヴ民族の綜合を志した。さうして先づトルコを侵略しようとして、絶えずその機會を窺つてゐた。ところがト

②トルコのキリスト教徒
壓迫
B戦況
ロシア軍ブレヅナ要塞占領
C結果
サンステファノ條約

ルコは、クリミヤ戦役後もなほ依然として領内のキリスト教徒を迫害したので、自由主義の感化を受けたバルカン諸民族は遂にトルコに叛旗を翻した。さうしてイギリス・ロシア・オーストリア・ドイツ等はトルコに内政改革を迫つたが拒絶された。そこでロシアはこれを好機としてトルコに宣戦し(二八七)、プレヅナ要塞を陥れてコンスタンチノーブルに迫つたのでトルコは遂に屈し、ロシアとサンステファノ條約を結んだ(二八七)。



ヤシバンマスオ

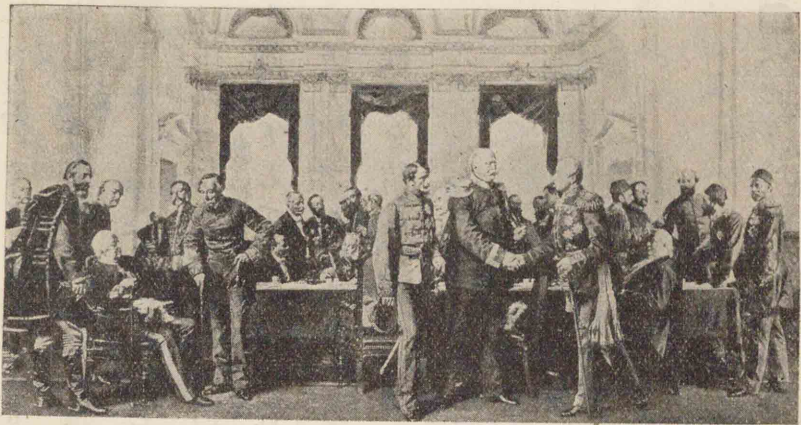
オスマン軍はブレヅナの孤城を守ること三ヶ月、ロシア軍を散々に悩ましたトルコの名将であつた。彼は單にトルコのみでなく、實に近世史上稀に見る名将として讃へられてゐる。彼は後トルコの陸軍大臣となつたが一九〇〇年病歿した。

ベルリン會議

サンステファノ條約は、ロシアに非常に有利であつ

A 成立の原因
サンリステファ
ノ條約の改正
B ビスマルクの
努力により成
立

ドイツ畫家アン
トニウエルナー
筆。前列右より
スワロフ(ロシ
ヤ)・ビスマルク
(ドイツ)・アンド
ラシー(オース
トリア)・ヂスレ
ーリ(イギリス)・
ゴルチャコフ(ロ
シヤ)。



議 會 國 列 ン リ ル ベ

たので、イギリス・オーストリア兩國はこ
れに反対した。そこでビスマルクはそ
の仲裁者となり、諸國の全權をベルリン
に招き、次の如き條約を締結せしめた。
世にこれをベルリン條約といふ(二七六)。

- (一) トルコはモンテネグロ・セルビヤ・ルーマニヤ等の獨立を認めること。
- (二) ブルガリヤはその領土を縮小して獨立國となり、南部に東ルメリヤの自治州を置くこと。
- (三) トルコはギリシヤにテッサリヤの一部とエピルスとを與へること。
- (四) ロシヤは單にカルス・パツーム等のみを得ること。
- (五) トルコ及びその他の獨立國は國內に於て信

仰の自由を與へること。

(六) トルコはボスニヤ・ヘルツェゴヴィナの統治をオーストリアに委任すること。

ロシヤの國民性　ロシヤ人は西ヨーロッパ人に比し、鈍重質朴であるが、一面狂
暴性と神秘的な宗教心に富み、その將來は注目されてゐる。

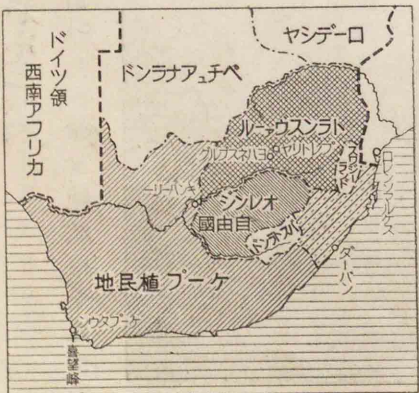
第八章 列強のアフリカ・アジア及び太平洋經營

イギリスのアフリカ經營

イギリスのアフリ
カ經營の順序
A リヴィングス
トン・スタン
リーの探検
B エジプトを保
護國とする

トリスバル、オレン
同イギリスの
と、これより

リヴィングス ^{Livingstone} トン及びスタンリーのアフリ
カ探検以來(十九世紀の頃)、イギリス人のアフリカに
來るものは次第に多くなつた。偶、トルコ
から獨立したエジプトの勢力が微弱であ
つたので、イギリスはフランスと共にその
内政に干渉して勢力を扶植し、後これを自



圖地邦聯カリファ南



スブッセル

己の保護の下に置いた(二八三)。

エジプトの領土であつたスエズ地峽は、十九世紀の中頃フランス人レセプスによつて水路が開かれた(二八六)。即ち有名なスエズ運河

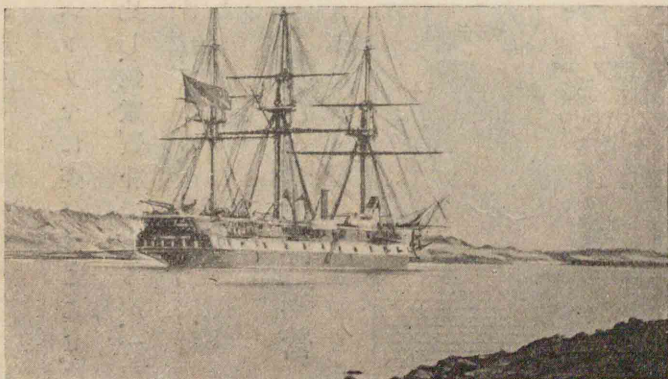
スエズ運河をイギリス商船の通航する。運河の幅約一〇〇〇米、長さ約一六〇〇軒。

C 南アフリカ聯邦成立
D 南北縦貫鐵道の經營
(セシルローツ)

である。イギリスはエジプトの財政困難を極めてみた時、この株券を全部買収してエジプト經營の基礎を固めたのである。

南アフリカでもイギリスはケープ植民地オレンジ自由國・トランスヴァール共和國を併せて南アフリカ聯邦を組織した(一九〇)。これより先イギリス人セシルローツは、南アフリカの經營に着手し、南北の連絡を企

Cecil Rhodes



河運ズエズ

てた。かくてイギリスは南北縦貫鐵道の敷設に従事してゐたが、世界大戰後ドイツ領東アフリカを得て目的を實現することが出來た。



セシルローツ

セシルローツは一八五三年イギリスのハーフォードシヤの貧しい牧師の家に生れたが、不幸にも若い頃不治の病と稱せられる肺患に罹つた。しかし少しも悲觀せず、その上冒險心に富んでゐたので、轉地療養を兼ねて、南アフリカのナタールに赴き、兄の家に寄寓し、大自然の懷に抱かれて愉快に農業に従事してゐた。自ら努力して倦まざるものの上に運命はほゞえむものである。幸運にも彼はキンバリー地方で金剛石脈を發見し、一躍大成金となつた。かくするうち、強固な意志の力と、撓まざる活動によつて病も全治したので、一旦歸國して、オックスフォード大學に學ぶこと五年、再び南アフリカに渡り、南アフリカ特許會社の社長として大活動を始めた。やがてその手腕が認められて、ケープ植民地の首相となり、イギリスの南アフリカ經營に盡力し、またローデシヤを開拓し、

アフリカのスタン地方に於ける村落學校。

フランスの經營
A アルジェリヤ
チュニス・コン
ゴ地方占領
B マダガスカル
島占領
C ファシヨダ事
件

ドイツの經營
西南アフリカ
東アフリカ等

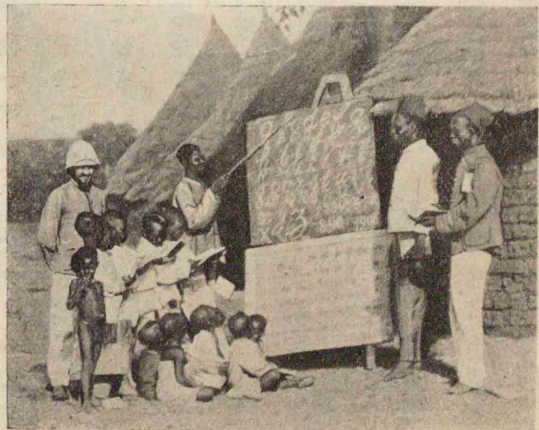
イタリヤの經營
エリトレヤ・ソ
マリランド占領
ベルギーの經營
コンゴ地方

イギリスのアジヤ經營
A 東インド會社
成立
B インド占領
C ベルチスタン
を保護國とす
る
D シンガポ
ル・香港占領

圖説
一八三七年一月
二十日即位の式
を挙げ、侍臣よ
り即位の請願を
うける圖。

一九二〇年靜かにこの世を去つた。思ふにイギリスが南アフリカに於て廣大な植民地をつくり得たのは彼に負ふところ極めて大であつたといふべきである。

フランス・ドイツ・イタリヤ・ベルギー諸國のアフリカ經營 フランスはアルジェリヤ・チュニス・コンゴ地方を取り、更にマダガスカル島をも領土とした(二八六)。かくてフランスはイギリスに對抗してアフリカ横斷策を立てたが、**ファシヨダ事件**によつてこの計畫は失敗に歸した。



育教地民植スラフ

を得た。

フランス人マルジャン大佐は本國政府の命を受けてサハラ沙漠を横ぎり、幾多の艱難をなめて、ナイル河上流の**ファシヨダ**に達し、そこにフランスの國旗を立てた(二八六)。ところがまもなくイギリス人キッチナー大佐もこゝに到着し、この地を要求してフランス國旗の撤回を求めた。さうして兩國間に將に争が起らうとしたがフランスが讓歩して幸に事なきを得た。



位即の王女ヤリトクイヴ

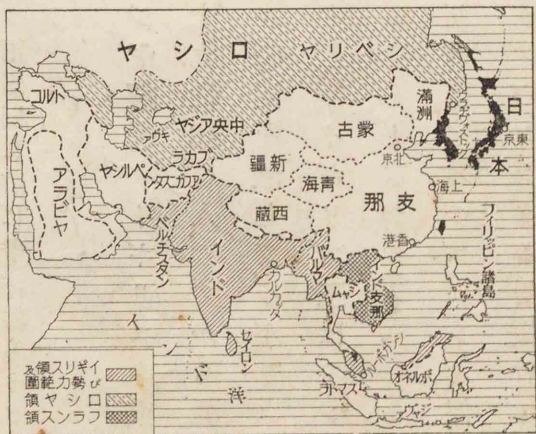
三列國のアジヤ經營 イギリスの東インド會社は、十九世紀に入つてから益々活躍し、モゴール帝國を滅して、イギリス政府の直轄地とし、後イギリス王はインド皇帝を兼ねることとなつた(二七七)。これより先イギリスはベルチスタンを保護國とし(二八七)、アフガニスタンを援けて口

シヤに當り、更にバルマを併せた(二八六)。またシンガポール・マラッカを收め(二八四)、香港をも領有するに至つた(二八〇)。

ロシアの經營
A ウラヂウオス
トツクの建設
B 中央アジア經營
C イリ條約成立

フランスの經營
インド支那方面
に活躍

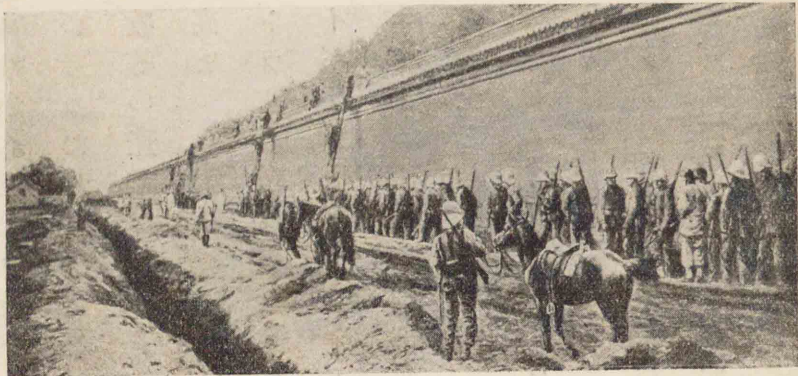
ロシアは東方に向つてはシベリヤから南下して清國の領土を侵しウラヂウオス(Verkhne-Vladivostok)ストックを建て(二八六)、カムチャツカ樺太をも占領した。南に向つてはコーカシヤ方面からペルシヤに進み、中央アジアのキヱ・ブカラ・コーカンドを取り、またイリ條約で清國と境を協定した(二八二)。インド方面ではアフガニスタンでイギリスと衝突したが、やがて境界を定めて和を講じた(二八九)。フランスは、先づサイゴンを取り(二八五)、東京を收め(二八五)、メコン河以東の地を得(二八三)、カンボヂヤ・安南を保護國とした。



アジア地圖

列國の支那經營
A 三國干涉
B 北清事變勃發

聯合軍が北京の城壁を乗り越越す圖である。



北清事變

ついで列國は支那に着眼し、日清戦役後ロシアは旅順口及び大連を、ドイツは膠州灣を、イギリスは威海衛を、フランスは廣州灣を各租借した。かく列國が清國を壓迫したので、清國には十九世紀末に拳匪の亂が起り、外人排斥を企てた。しかし日本・イギリス・アメリカ合衆國・ロシア・フランス・ドイツ等は、聯合軍を組織し直ちにこの亂を鎮めた(二九〇)。世にこれを北清事變といふ。

日本は一八五八年(安政五年)先づアメリカ合衆國と通商條約を結び、ついでオランダ・ロシア・イギリス・フランスの諸國とも同様な條約を結んだ。

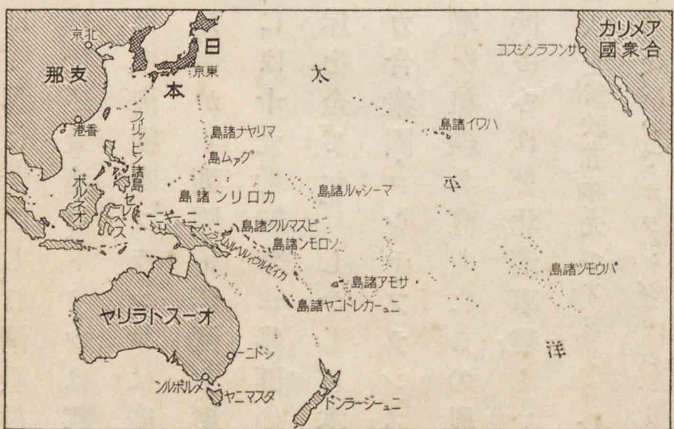
四 イギリス・ドイツの太平洋經營 イギリス

イギリスの太平洋經營

- A オーストラリア聯邦組織
- B ニューギニア
- インド・北部ボルネオ等占領

スは十八世紀の後半から罪人をオーストラリアに送つて、その拓殖に努めたが、餘り重要視してはゐなかつた。後植民俄かに増加し、農牧等の産業も起つて、その勢力は大いに高まつた。そこで十九世紀の末オーストラリア聯邦を組織し、自治制を布いた。イギリスは更にニュージーランド・フィジー・New Zealand ニューギニアの東南部、北部ボルネオ等をも領土とした。

イギリスの太平洋經營と共に、何時までも人々に語り傳へられるものは、探検家ジェームス・クックの名であらう。イギリスの宰相ピットが、オーストラリアに罪人を送つてその地を拓殖せしめたのも、クックの太平洋探検報告に



大 洋 洲 地 圖

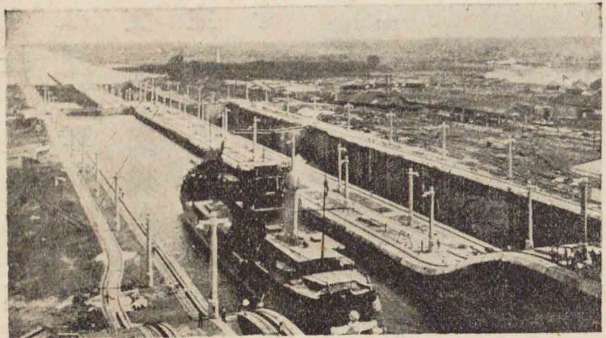
ドイツの太平洋經營

- A ニューギニア分割
- B ビスマルク島・カロリン諸島等占領
- C サモア諸島分割

アメリカ合衆國の帝國主義

- A フィリピン、グワム等占領
- B パナマ運河の開通
- C 太平洋に關する日本・アメリカ合衆國の協定

開門式の運河で長さ八〇軒、廣さ三〇五米から九一米の間。



パ ナ マ 運 河

基くのであつた。なほニュージーランドがクックに発見されてイギリス領となつたこと、及び最近同地が自治權を得たことも忘れてはならない。

ドイツは一八八四年以來イギリス・オランダ兩國と共に、ニューギニア島を分割し、ビスマルク諸島・ソロモン諸島・マーシャル諸島を収め、またイスパニヤからカロリン諸島・マリヤナ諸島・パラオ諸島を得、なほアメリカ合衆國とサモア諸島を分割した。

五 アメリカ合衆國の帝國主義 アメリカ合衆國は十九世紀の末にモンロー主義をすて、その勢力を世界に伸ばさうとするやうになつた。さうして先づキューバを援けてイスパニヤと戦ひ、フィリピン諸島及びポルトリコ、グワム等を取つた(二八九)。その後パナマ共和國

を援けてパナマ運河を開き、ハワイのパール灣、フィリピン諸島のマニラ港に軍港を設けて防備を嚴にした。また一九〇八年日本と外交文書を交換し、太平洋方面に於ける現状維持、清國に於ける機會均等主義を唱へるに至つた。かくて今やアメリカ合衆國はその全注意を太平洋及び支那に向けつゝある。

アメリカ合衆國の國民性
アメリカ合衆國人は進取の氣象に富み、活動的な國民であるから、現實的な方面には大いに成功してゐる。殊に豊富な資源と廣大な領土とを有するため、その將來は世界の注目の的となつてゐる。

第九章 近世の文明

日英同盟 明治三十五年

- 十九世紀文明の二大特色
- A 自由主義の發達
- B 物質文明の進歩

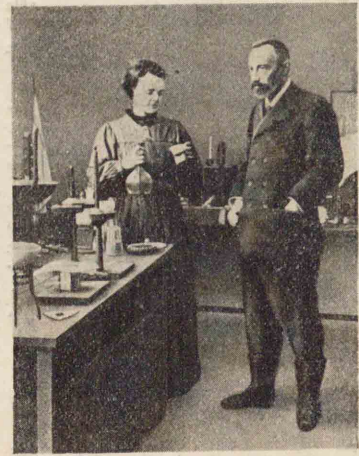
■十九世紀文明の特色 十九世紀文明の二大特色は、フランス革命以後ヨーロッパの各地に廣まつた自由主義と、物質文明の顯著な進歩とであらう。さうしてこれに伴つて科學が大いに發達したことは

いふまでもない。

科學とその應用

科學は十九世紀に入つて長足の進歩をなし、種

- 科學上の新説
- A ダーウインの進化論
- B マイエル・ヘルムホルツの勢力不滅説
- C ファラデーの電磁氣論
- D ウィルヒョーの病理學



妻夫ーリュキるけにに空驗實

種の發見が行はれ、新説が唱へられた。イギリス人ダーウインは生物進化論を、ドイツ人マイエル・ヘルムホルツは勢力不滅説を、イギリス人ファラデーは電氣論を創め、ドイツ人レントゲンはX光線を、フランス人キュリー夫妻はラヂウムを發見した。またウィルヒョーは病理學を立て、コッホはコレラ菌を、ロフレルはチフテリヤ菌を發見した。更に地理學も大いに進歩して極地探検を促したので二十世紀に入つてアメリカ人合衆國ピーリーは北極に、ノルウェー人アムンゼンは南極に達した。

この外北極探検家として有名なもの、ナンセン・アムンゼン・ノビレ等で、南極

- 科學上の新發見
- A X光線
- B ラヂウム
- C コレラ菌
- D チフテリヤ菌

- 極地探検家
- A ピーリー
- B アムンゼン

科學上の應用

- A フルトンの汽船
- B スチヴンソンの汽車
- C モーリスの電信機
- D ベルの電話機
- E エヂソンの蓄音機及び電燈
- F マルコニの無線電信
- G 郵便制度の發達
- H 飛行機、飛行船、潜水艇の發明

探検家としてはシャクルトン・スコット・バード等が知られてゐる。科學上の新発見は實地に應用されて、驚くべき物質文明の進歩を來した。十九世紀の初めに、アメリカ合衆國人フルトンは汽船を、イギリス人スチヴンソンは汽車を發明した。モーリスは電氣力を應用して電信機を、アメリカ合衆國人ベルは電話機を、同じくエヂソンは蓄音機及び電燈を、イタリヤ人マルコニは無線電信を發明した。交通機關と共に郵便制度が發達したことは勿論であるが、なほ醫術の進歩、兵器の改良にも見るべきものが少なくなかつた。また二十世紀に飛行機がドイツ人リリエンタール、アメリカ人ライト兄弟により、飛行船がドイツ人ツェッペリンにより、潜水艇がアメリカ合衆國人ホランドによつてそれぞれ案出され、交通上、軍事上に極めて大なる利益を與へた。

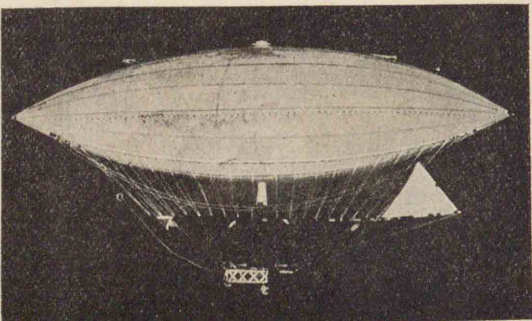
汽車はイギリス人スチヴンソンによつて發明され、一八三〇年始めて運轉さ

一八五二年にギッファードが計畫した誘導航空船。

一八〇四年トレヴシツクの設計した最初の機關車。

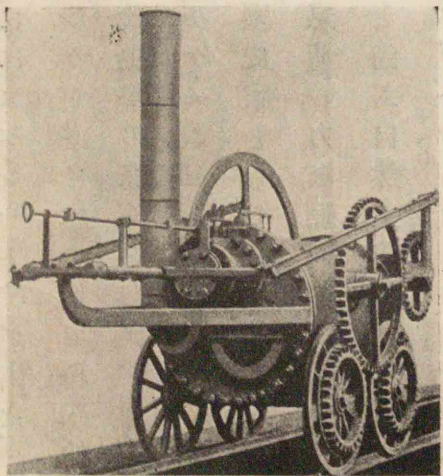
有名な哲學者

- A フイヒテ
- B ヘーゲル
- C ショーペンハウエル
- D コント
- E スペンサー



十九世紀中頃の飛行船

れたが、その最高速度は初めのうち一時間十五哩前後に過ぎなかつた。これを現今の一時間一六〇(一〇哩)以上の速力と比較するならば、何人もその發展の速かなのに驚くであらう。汽船は一八〇七年フルトンが、ハドソン河にクライモント號を浮べた時に始まるが、一八一九年には既にニューヨーク・リヴァプール間の航海が行はれるまでになつた。



初期の機關車

三 哲學及び文藝 哲學はドイツが最も盛で、カントの後にフイヒテ・ヘーゲル・ショーペンハウエル等の大家が出て多大の影響を與へた。フランスにはコ

- 有名な歴史家
- A ランケ
 - B トライチケ
 - C モムゼン
 - D ギゾー
 - E テーヌ



ント、イギリスにはスペンサー等が出た。
 Conte Spencer
 史學にはランケがドイツに出て科學的研
 Ranke
 究法を遂げ、近代史學の泰斗と仰がれた。ド
 イツ人トライチケ・モムゼン、フランス人ギゾ
 Freiliche Mommsen Guizot
 ー・テーヌ等も歴史家として有名である。
 Taine

有名な文學者

- A ハイネ
- B バイロン
- C スコット
- D カーライル
- E ユーゴー
- F ズラ
- G トルストイ
- H イブセン

文學の方面では十九世紀前半には感情の力を強調したロマンチック風潮が行はれ、後半には描寫の精緻を尙ぶ自然主義が勃興した。ドイツ人ハイネ、イギリス人バイロン・スコット・カーライル、フランス人ユーゴー等は前者が生んだ世界的人物である。後者はゾラその他のフランス文學者によつて代表される。なほ十九世紀の後半以來現實の社會を取扱つた文學が大いに起つたが、その代表者としてはロシヤ人トルストイ、ノルウェー人イブセン等が有名である。
 Tolstoi Ibsen
 また彫刻にはロダン、繪畫にはミレー・ターナー、音樂にはワグネル
 Rodin Millet Turner Wagner

有名な藝術家

- A ロダン
- B ミレー
- C ターナー
- D ログネル



イトスルト

等の大家が出た。

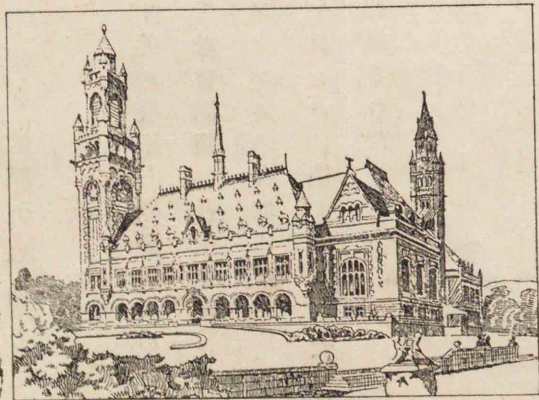
ユーゴーには「噫無情」、トルストイには「戦争と平和」、イブセンには「人形の家」等がある。共に近代文學の傑作として傳へらるべき

ものであらう。

四 國際的運動

- 國際的運動
- A 萬國平和會議
 - B 萬國仲裁裁判
 - C 萬國赤十字社

十九世紀に入つてからは列國の競争反目は愈激しくなつたが、一面國際運動が起り、共同の精神が盛となつたこともまた事實である。オランダのハーグに開かれた萬國平和會議を始めとし、萬國仲裁裁判その他の國際的協議の會合が屢行はれた。また萬國赤十字社、萬國博覽



宮和平のグーハ

この平和宮はア
 ンドルー・カー
 ネギーの寄贈し
 たものである。

會萬國郵便電信聯合等がつくられ、人類の幸福と世界の平和とに貢献しつゝある。

社會問題

産業革命の結果、大工場が起り、資本主義が發達し、勞働階級が生じ、大都市が出現した。かゝる經濟上の變革はやがて社會問題の發生を促した。さうして勞働運動は先づイギリスに起り、ドイツ・フランスの各地に及んだ。またこれに伴つて社會主義運動が起り、七月革命頃フランスに盛であつたが、更にドイツに入り、カール・マルクスによつて學問的に組織された。

Karl Marx

第五篇 最近世

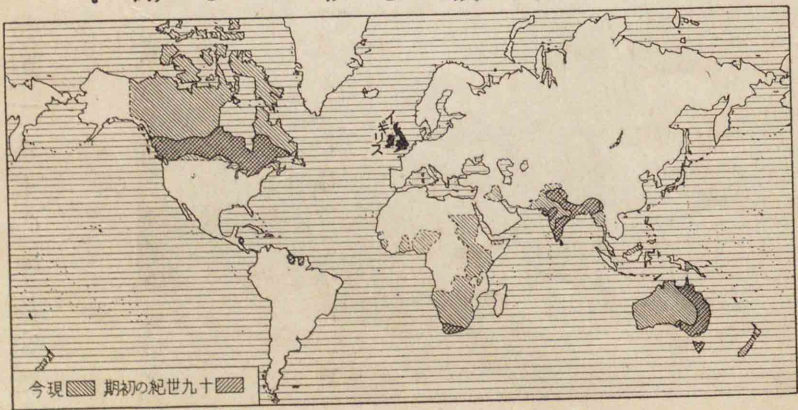
第一章 ベルリン會議後の

列強の形勢と關係

■各國の形勢

イギリスはヨーロッパ列國が大陸のことに熱中して海外のことを顧みないのに乗じて、頻りに海外に活躍し、多くの植民地を得た。さうしてこれ等の植民地に對しては自由の發達を遂げしめてゐたが、本國から離れんとするものも生じたので、十九世紀末以來屢、植民地會議を開いて本國との結合をはかるやうになつた。これより先、イギリス本國ではアイルラン

イギリスの形勢
A 植民地獲得
B 植民地會議によつて植民地と本國との連絡をはかる
C アイルランド問題發生



イギリス植民地地圖

ド問題が起り、多年議會の紛争となつてゐたが、一八七〇年以來次第に解決の氣運に向つた。

ドイツの形勢

- A ドイツ諸國採縦策をとる
- B ウィリヤム二世即位、ビスマルク退去
- C 世界政策に着手



世二ムヤリウ

ドイツはフランスに勝つてからは、ビスマルクの政策に従つて諸國

ドイツ近衛兵の進軍。

を操縦して、大いに自國の地位を高めた。ついでウィリヤム二世が即位し(一八八八)、ビスマルクを退けて萬機を親裁し、國家の富強をはかつたので、商工業は著しく發達し、學問教育は大いに進歩した。帝はまた海軍の擴張、アフリカの經營に意を用



ドイツ國軍

フランスの形勢

- A ナチエール等の國力回復の努力
- B イギリスに接近

一九一四年七月、ボアンカレーがロシア訪問の際、ロシア皇帝と共にロシアの軍隊を閲兵する。

モロッコ事件

ひ、バグダード鐵道敷設權をトルコから獲得して、その世界政策の實現に努めたので、ドイツはイギリスその他ヨーロッパ諸國にとつて大なる脅威となつた。



商協スラフ・ヤシロ

フランスはドイツに破れて一時その勢力が振はなかつたが、チエールを始め歴代の大統領は國民と力を合せて國力の回復に努力したので、次第に富強となつた。さうしてモロッコ事件以後は益々ドイツを恨んでイギリスに接近し、ドイツに對する復讐の機會を待つてゐた。

モロッコ問題

ドイツ帝ウィリヤム二世は、ロシアが東方に全力を注いでゐる虚に乗じて、急にアフリカの北西を占めるモロッコに赴き、そこに勢力を扶殖しようとした。しかしフランスと衝突し、却つてモロッコに對するフランスの優越權が

諸國に承認される結果となり、ドイツは僅かの利権を得たに過ぎなかつた(一九〇五)。その後ドイツはモロッコの紛擾に乗じて再びこれに干渉したが、フランスに味方したイギリスの態度が極めて強硬であつたので、遂にドイツはモロッコのフランス保護國なることを認めると共にフランスよりコンゴの一部を譲り受けた(一九一〇)。このモロッコ問題によつてイギリスとフランスは愈々接近してドイツに當ることとなつた。

ロシヤ

- A 農奴解放
- B アレクサンドル二世の暗殺
- C 日露戦役に敗北

土地が廣汎なるだけロシヤ人の生活様式は様々であるが、これは典型ともいふべきロシヤ農婦である。



婦農のヤシロ

ロシヤではクリミヤ戦役後、アレクサンドル二世が農奴を解放して国力の充實をはかつた。しかしポーランド人の反亂の後、帝は極端な専制主義を奉ずるに至つたので、遂に虚無黨員のために暗殺されてしまつた(一八八二)。その後ニコラス二世が立

ち、極東の發展を志して日露戦役を起したが、敗れてポーツマス條約

Portsmouth

を結んだ(一九〇五)。

國際關係

- A 三帝會盟
- ドイツ・オーストリア・ロシヤ
- B 三國同盟の成立
- ドイツ・オーストリア・イタリヤ
- C 三國協商の成立
- イギリス・フランス・ロシヤ
- D 日英同盟の成立

三帝會盟

ドイツ・フランス戦役の後、フランスの復讐熱は極めて強かつたので、ビスマルクはこれに備へるためロシヤ・オーストリアを誘つて所謂三帝會盟を結んだ(一八七三)。ところがベルリン會議の時

Alliance of Three Emperors

ドイツはイギリスと共にロシヤに不利な條件を強ひ、三帝會盟を破綻せしめた。そこでビスマルクはオーストリア・イタリヤと共に三

國同盟を結び(一八八三)、フランス・ロシヤに備へた。一方フランスはロシヤに接近してロシヤ・フランス同盟を結び(一八九五)、ドイツに備へることとなつた。

イギリスは年來ヨーロッパ大陸の外に超然として立ち、光榮ある孤立を誇つてゐたが、アジアに於けるロシヤの南下に備へるため、遂に日本と日英同盟を結んだ(一九〇三)、ドイツの外交上の活動が目覺しく

Clorious Isolation

一九〇三年五月
イギリス皇帝エ
ドワード七世が
パリに訪問し
た際に、大統領
の歓迎を受けて
ある圖である。

○三國協商成立
●明治四十年



親睦協商

なつたので不安を感じ、更にフランスと親睦協商を結んだ(二九四)。 ついでロシア・フランス協約が成立し(二九七)、かくてイギリス・フランス・ロシアの三國間に所謂三國協商が成立し、ドイツの三國同盟に對抗するに至つた。

東方の形勢
Aトルコの内亂

Bイタリヤ・トルコ戦役
Cバルカン戦役
Dブカレスト條約の成立

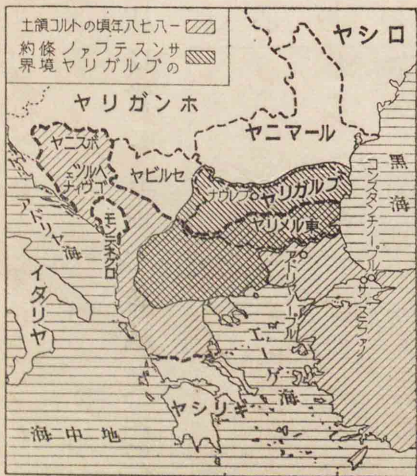
東方の形勢 トルコでは一九〇八年に革命が起つて、青年トルコ黨が實権を握ることとなつた。この内亂に乗じてブルガリヤは獨立を宣言し、オーストリアはボスニヤ・ヘルツェゴヴィナを奪つたが、トルコは微力であつたからこれを承認せざるを得なかつた。
イタリヤはかねて對岸のトリポリを望んでゐたが、モロッコ問題が起つた時、急にこれを収めたので、こゝにイタリヤ・トルコ戦役が起つた。その結果トルコは遂に屈して、イタリヤのトリポリ領有を承認

ヘルツェゴヴィナ農村の風俗



バルカン風俗

亂は漸く収り、諸邦は各トルコの一部を得、またアルバニヤを建設してこれを永世中立國とした(二九三)。



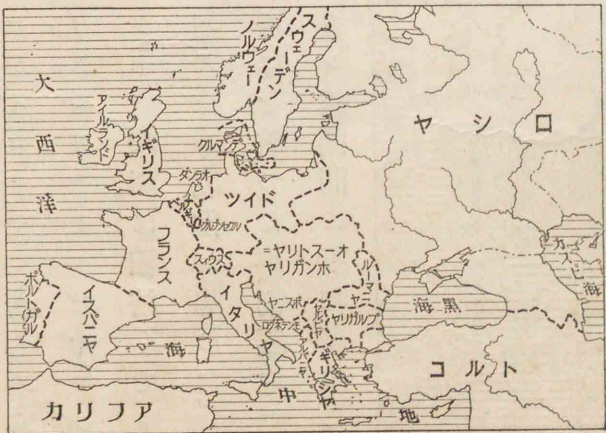
バルカン戦役要地圖

第二章 世界大戦

世界大戦の原因

- A 遠因
 - ① スラヴ主義と
 - ② ゲンマン主義との衝突
- B 近因
 - ③ オーストリア皇太子夫妻の暗殺
 - ④ オーストリアの對セルビアの宣戦
 - ⑤ ロシアの對オーストリアの宣戦

■大戦役の破裂 バルカンのスラヴ族は常にロシヤに頼り、従つて全スラヴ主義はバルカンに於て次第にその勢力を高めた。一方ドイツを中心とする全ゲルマン主義もまたオーストリアを先驅としてバルカン方面にその勢を廣めようとした。かくてバルカンに於けるロシヤ・ドイツ・オーストリアの衝突は避け難い形勢となつた。偶一九一四年オーストリア皇太子夫妻がボスニヤで暗殺されるや、オーストリアは直ちにセルビアに宣戦した。



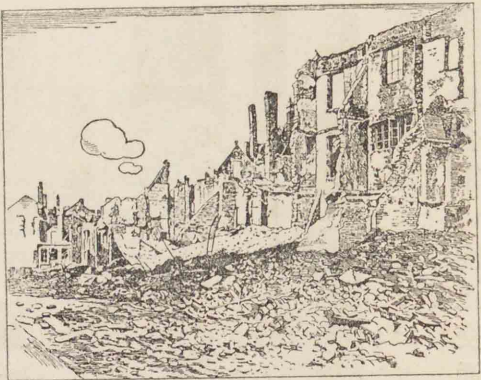
世界大戦當時のヨーロッパ要地圖

ドイツ軍のために破壊されたベルギーのルーヴアン市大通りの惨状。

大戦當時泥濘の道で歩兵砲を牽引する聯合軍歩兵の辛苦。

。世界大戦の起り
・大正三年

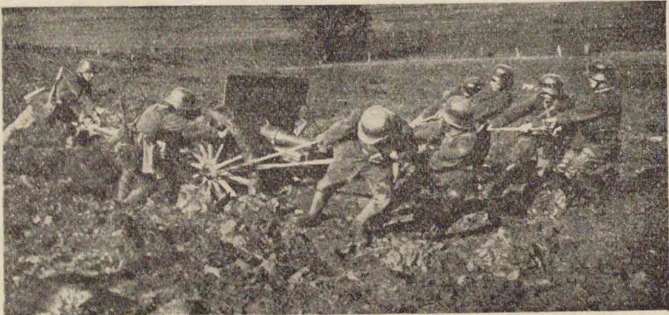
大戦の経過
A ドイツ軍パリに肉薄
B ドイツ軍東方に活躍



戦後のルーヴアン市

ここに世界大戦が起つた(一九一四)

■大戦の経過 ドイツは先づルクセンブルグ、ベルギーの中立地帯を通過してフランスに攻め入り、將にパリに迫らうとしたが(一九一四年九月)、マルヌ河に敗れて退き、陣地を固めてイギリス及



戦場にて歩兵の活躍

C ドイツ軍のヴェルダン攻撃
D ドイツ軍ガリチヤより撤退
E オーストリア軍、イタリヤ軍のために敗北
失敗

ドイツの工廠に於て婦人が榴弾の製造に従事してゐる光景である。

F イギリスの活躍
G ドイツの潜水艇戦開始



戦時婦人の活動

さを示した。そこでドイツは潜水艇を使つて地中海及び北海に活動し、聯合軍の海上交通を威嚇せんとした。

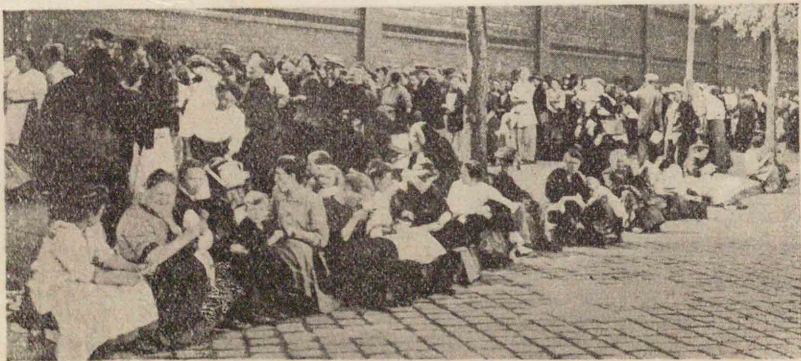
1310
ビフランス軍と相對した。東方でもドイツ軍はロシア軍・セルビヤ軍を破つて士氣大いに揚つた(一九一五年冬)。しかし一九一六年に入つて、西部ではドイツ軍のヴェルダン攻撃が失敗に歸し、東部ではガリチヤがロシア軍に占領され、南部ではオーストリア軍がイタリヤ軍に敗れ、ドイツ側は餘り振はなかつた。なほルーマニヤが聯合側に參加したのもこの時であつた。

一方イギリスはドイツの海軍を、ユトランド沖(一九一六年六月)その他で破つて傳統的の強

ヨーロッパ以外では、イギリスはアフリカのドイツ植民地を、日本は膠州灣及び南洋のドイツ植民地を奪つた。

ドイツ軍をマルヌ河で破り、フランスを危地より救ひ得たのは一にフランス軍の指揮官ジョッフル將軍の力であつた。彼は先づフランス軍に總退却を行はしめ、さうしてドイツ軍を十分有利な地位まで誘ひ寄せて置いて、機を見て一齊に攻撃に轉じ、敵の大軍を撃破し得たのである。マルヌ河の戦は實に西部戦線のドイツ軍に致命傷を與へたものといつてよからう。

戦局の發展 ドイツは長期の戦争のため日常生活が苦しくなり、なほ社會黨の活躍も盛となつたので、遂に講和を提議するに至つ



戦時ドイツの食料給與

戦局の發展
A ドイツの疲勞
B ドイツ無制限潜水艇戦開始

戦時ドイツ國內の食料が缺乏したため、政府は國民に一定の限度によつて食料を給した。圖はその給與を待ちつゝ列んだ婦女子の群集である。

C アメリカ合衆國の参戦

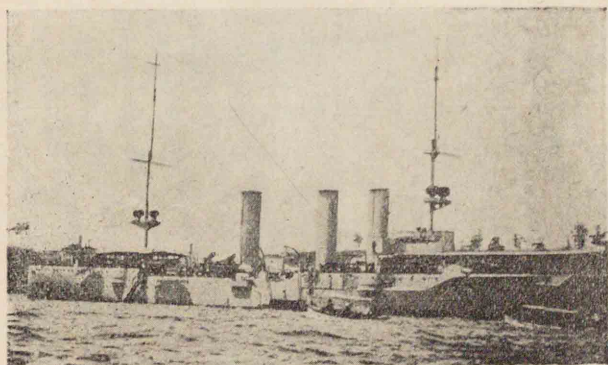
た(一九一八)。しかしそれが拒絶されるや、無制限潜水艇戦を宣言して(一九一七)新生面を開かうとしたが、反つてアメリカ合衆國をして聯合側に参加せしめるに至つた。

D ロシヤ革命
E ドイツとロシヤ・ルーマニヤとの和約

しかるにロシヤでは革命が起り、レニン・トロツキー等の過激派政府が成立したので(一九一七年)ドイツはロシヤ・ルーマニヤと和約を結び、東方の警戒を解くことが出来た。

ドイツの輕巡洋艦エムデン號は、大戦當時ベングアル海・マドラス・ピナン等を荒し廻り、聯合側の船十五隻を撃沈し、インド洋・南太平洋上に於て脅威を逞しうした。

大戦中ドイツ潜水艇の活動は目覺しいもので、彼等は軍艦よりも運送船を撃沈して、敵の食料軍需品の輸送を脅した。さうして潜水艇戦の區域を宣言して、この区域内では中立國の船舶でもその安全を保證しなかつた。なほ後には無制限潜水艇戦を宣言し、潜水艇戦の區域を擴大して中立國の船舶でも撃沈して憚らなかつた。日本艦隊が地中海に出動



エムデン號

F フォッシュ將軍
ドイツ軍を撃破
G オーストリア軍イタリヤ軍に敗北
H 休戦條約の成立

したのは、これらの潜水艇と戦ひ、航海の安全を圖らんとしたためであつた。



フォッシュ

その後ドイツ軍は、ルーデンドルフの畫策によつて大軍を西部戦線に集中して、一時聯合軍を壓したが、フォッシュ將軍に破られて遂に總退却の止むなきに至つた。この頃オーストリア軍もまたイタリヤ軍のために撃退された。そこでブルガリヤ・トルコが先づ降り(一九一八年)ついでオーストリアも聯合軍に休戦を申し出た。間もなくドイツもまた聯合國側の提出した休戦條約を承認し、ウィリヤム二世は退位するととなつた(一九一八年十一月)。

パリ講和條約
A 對ドイツ講和條約
B ドイツ以外の同盟國との講和條約

四 パリ講和條約 やがて諸國はパリに會議を開き、ヴェルサイユ宮殿でドイツをして對ドイツ講和條約に調印せしめた(一九一九年六月)ついでオーストリア・ブルガリヤ・トルコに對する條約も調印され、さすが

総会
理事會
常任理事口

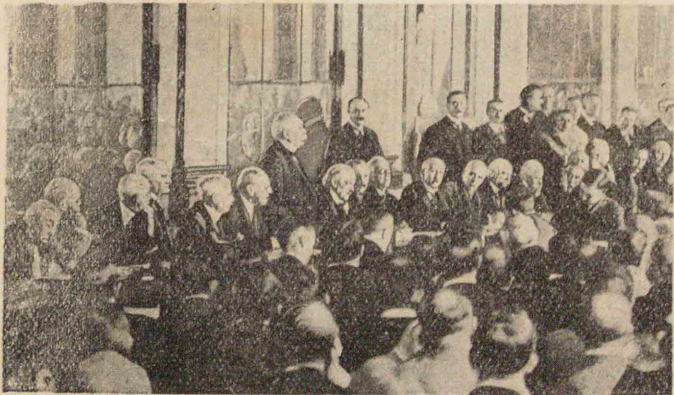
一九一九年六月
ワエルサイエ宮
殿「鏡の間」に於
ける調印式の光
景。向側の左六
人目よりワイル
ソン(アメリカ
合衆國)・クラ
ンソフ(フラン
ス)・ロイドジョ
ージ(イギリス)
等。

第五篇 最近世

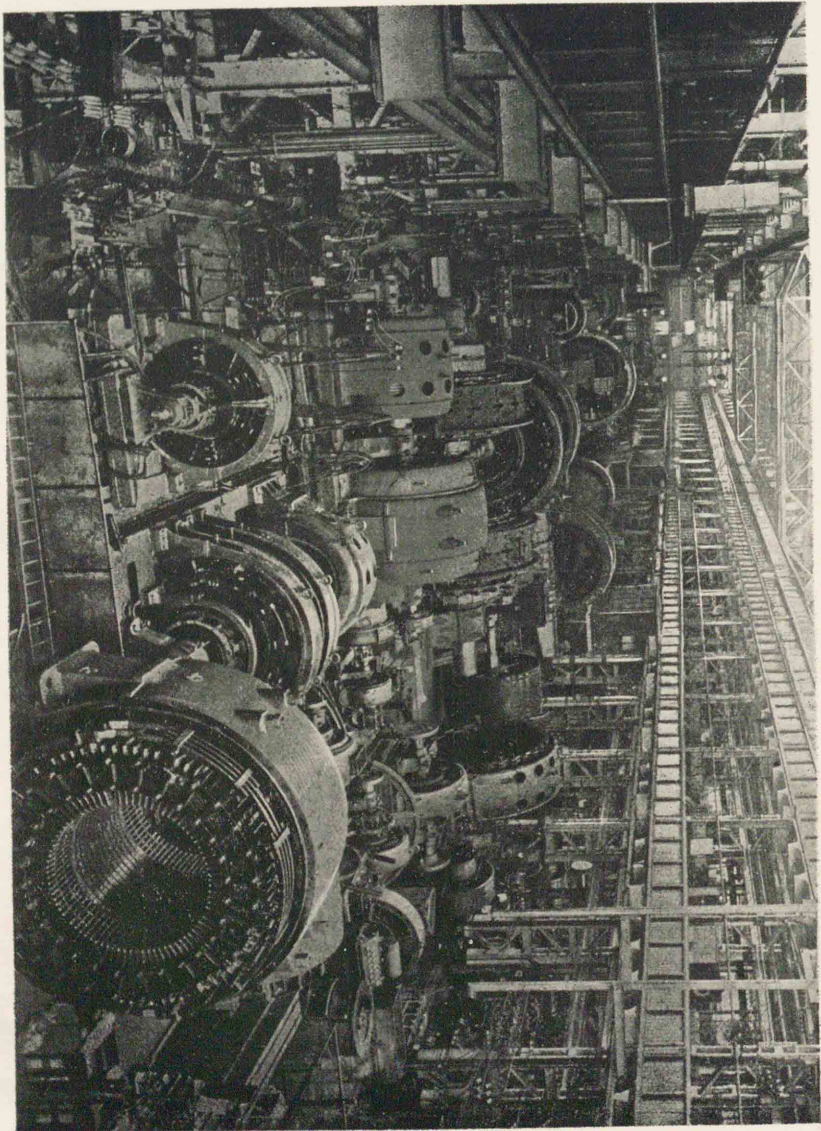
の大戦も漸くこゝに終りを告げた(一九一九)。

パリ講和會議の決議は大體次の如くである。

- (一) ドイツはエルザス・ロートリンゲンをフランスに與へ、
- (二) ザール地方の炭田を十五年間フランスに委任し、
- (三) モレネー等の三地方をベルギーに割き、
- (四) ポーゼン及び西プロシヤを新獨立國ポーランドに譲り、
- (五) ダンチヒを自由市とし、
- (六) すべての植民地を讓渡し、
- (七) オーストリア・ハンガリヤはオーストリア・ハンガリヤ及びチェコスロヴァキヤの三國に解體し、
- (八) ポーランド・ルーマニア・ユーゴスラヴィヤ・イタリヤにそれぞれ土地を割讓し、
- (九) トルコはヨーロッパの領土を殆ど喪失し、
- (十) シリヤはフランスに、
- (十一) メソポタミヤはイギリスにそれぞれ委任統治させることとなつた。



印調約條ーリパ



場工大の代現

現代の大工場

この圖はドイツ、ベルリン市のシーメンズシュタット會社の電動機工場の内部である。會社は十九世紀末の設立で、最初は僅か職工十名を使用してゐたに過ぎないが、一九一四年世界大戰の起つた當時には、その使傭人は八萬二千人に及んだといはれた。この電動機工場は會社の一部に過ぎないが、その長さは二一九米である。以てその全般の規模を察することが出来やう。現代の文明は機械によつて左右されることが多い。巨大にして精巧な機械と、尪大な工場とは實に現代の象徴に外ならない。しかしその機械がすべて人間の頭腦から生み出されたものであることを考へれば、人間知識の發達もまた驚嘆すべきものである。

第三章 大戰後の世界の形勢

■ 國際聯盟

大戰後アメリカ合衆國大統領ウィルソンの主唱によつ



ウィルソン

て、諸國間の紛争を解決するために國際聯盟が組織され、世界列國の大部分はこれに加入した。その目的は國際間の協力によつて戰禍を避け、世界の平和を維持するにあつた。しかし、徴兵廢止、軍備制限、海洋の

國際聯盟

A 主唱者ウィルソン

B 目的

① 戰禍の回避

② 平和の維持

C 弱點

① アメリカ合衆國の不參加

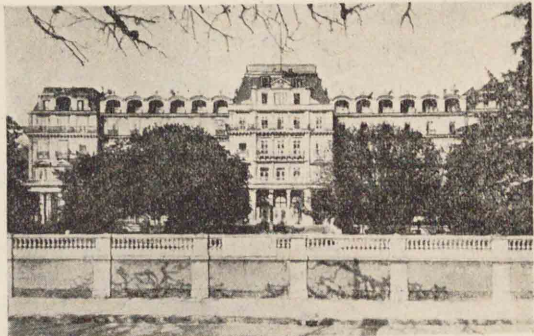
② 重要問題の拋棄

自由・人種平等等の諸問題は列國の國家的利害と一致しないため遂に議決されなかつた。更にアメリカ合衆國が國際聯盟に参加してゐないので、その効力は薄弱ではあるが、加入諸國は出来る限り國際聯盟の精神を遵奉して世界の平和に貢献しつゝある。ともかく國際聯盟は大戰の一大收獲であるといつてよい。

ジュネーヴに在る国際聯盟本部の前景。

軍備縮小會議

- A 第一回軍備縮小會議(ワシントン會議)
- ① 主力艦制限
- ② 四國協約の成立
- ③ 九國條約の成立



景外場議會盟聯際國

ウイルソンは國際聯盟を提唱したばかりでなく、民族自決主義をも強調し、ポーランド・チェコスロヴァキヤ・ユーゴスラヴィヤ・フィンランド・エストニア・ラトヴィヤ・リトワニヤ等の小國家を多く成立せしめ、ヨーロッパ再建のために盡すところ極めて大であつたが、彼は却て本國に容れられず淋しい晩年を送つた。

軍備縮小と不戰條約 戰後アメリカ合衆

國大統領ハーディングは、イギリス・日本・フランス・イタリアの四國を誘つて、一九二一年十一月

ワシントンに軍備制限會議を開き、海軍の主力艦を制限することとし、各國の比率を決定した。更に日本・アメリカ合衆國・イギリス・フランスは太平洋の平和を目的とする四國協約を結び、また同時にイタリア・ベルギー・オランダ・ポルトガル・支那の五國を加へて支那の領

土保全に關する九國條約を結んだ。以上の結果日英同盟は自然消滅することとなつた(一九二二)。

ついでアメリカ合衆國大統領クーリッジ

は、第二回軍備縮小會議をジュネーヴに開いたが(一九二五)、フランス・イタリアが参加しない

Geneve

ばかりでなく、イギリス・アメリカ合衆國の意見も一致を見ないで遂に失敗に終つた。

その後アメリカ合衆國は、フランスの提案による不戰條約問題について先づ兩國間

に協定を遂げ、更に日本・イギリス・ドイツ・イタリア等多くの諸國を參加せしめて不戰條約(戰爭放棄に關する條約)を成立せしめた(一九二八年八月)。

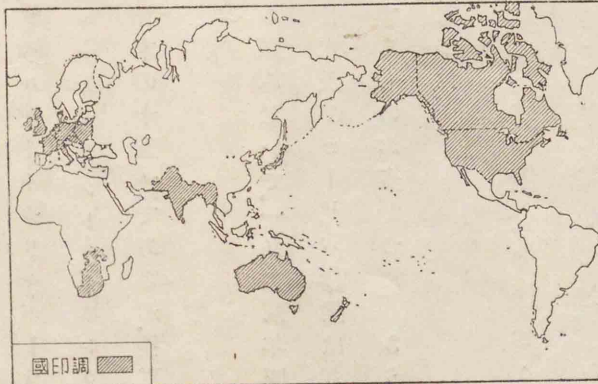
その後フーヴァーが大統領となるや、更に第三回軍備縮小會議をロン

Hoover

Hoover

- 不戰條約の成立
- A フランスとアメリカ合衆國との協定
- B 十五ヶ國參加(以後増加)

B 第二回軍備縮小會議(ジュネーヴ)



國盟加約條戰不の初最

C 第三回軍備縮小會議(ロンドン會議)日本・アメリカ合衆國・イギリスの巡洋艦の比率協定



ワウーフ

ヤ・インド・カナダ南アフリカ聯邦・ニュージーランド・日本の十五ヶ國であるが、後更に多くの國が加入した。

排日移民法

アメリカ合衆國は日本の抗議をも顧みないで、一九二四年四月に排日移民法案を可決した。この法案に對して日本及びヨーロッパ諸國はもとよりアメリカ合衆國內でも人道的立場から非難するものが多かつた。さうして近時その改正を唱へるものも現はれるやうになつた。

ドイツ賠償問題

大戰の結果ドイツは莫大な賠償金を課せられたが、支拂不可能を主張してその責務を果さうとしなかつた。そこ

ドンに開き、日本・イギリス・アメリカ合衆國の巡洋艦の比率等の問題を協定した(一九三〇)。

不戰條約加盟國

最初はアメリカ合衆國・イギリス・フランス・ドイツ・ベルギー・イタリア・ポーランド・チッコスロヴァキヤ・アイルランド・オーストラリ

ルール地方を占領したフランス軍がドイツの列車を抑留してゐる圖。

ドイツ賠償問題

- A ドイツの賠償不履行とフランスのルール地方占領
- B ドーズ案成立
- C ヤング案成立(トーズ案改正)
- D フーヴァーの一年支拂延期提議

でフランスは大いに怒り、ルール地方を占領して(一九一九年六月)、債務の履行を要求した。しかしルール地方の占領は却つて事態を悪化させ、賠償問題は行詰つてしまつた。やがてフランスのポアンカレに代つて社會黨内閣が出現したので、フランスの對ドイツ關係は緩和され、ドイツの對フランス方針も穏和となつた。かくてドイツ・フランス・イギリス・アメリカ合衆國を始め、列國の間にコンドン協定が結ばれ、ドーズ案が採用されることとなつて、ドイツ賠償問題も大いに進捗した。しかし、その實行は容易でなく、一九二八年以來屢、ドーズ案の改正が議せられたが、遂



領占方地ルールの軍スラフ



ズード

以來屢、ドーズ案の改正が議せられたが、遂

に一九二九年八月にヤング案に基づく賠償會議が決定され、賠償金額も著しく減ぜられ、紛議を極めた問題もこゝに一段落を告げた。さうしてライン地方に駐屯したフランス軍も撤回するやうになつた。しかしその後ドイツの財政困窮は益甚だしく、一九三一年アメリカ合衆國大統領フーヴァーは、遂に一年支拂延期を提議して諸國の承認を得たが、翌年ドイツは支拂不能を宣言して、フランスとの間に今なほ紛擾を續けてゐる。

四 諸國の形勢

ロシヤは革命後反過激派の運動、農民一揆等が起つて紛亂絶えなかつたが、遂に勞農社會主義



シリーダス

聯邦の下に統一されることとなつた(一九二〇年)。その後ロシヤは「五年計畫」「十五年計畫」を立て、着々内政の改革を斷行し、殊に産業の開発に全力を盡し、また外に向つて

ロシヤの形勢

A 勞農社會主義聯邦成立
B 五ヶ年計畫實施中

現時のロシヤ政界に權勢を振ひつゝあるヨシフ・スターリン。

イタリヤの形勢

A ムッソリーニの獨裁政治
B 海軍の擴張と地中海に於ける活躍



ニーリソム

は共產主義の宣傳と國權の擴張とに努めつゝある。イタリヤは戦後社會主義者の勢力が盛であつたが、やがてファシスト黨の首領ムッソリーニが出て、これを壓へ、國王を奉じて獨裁政治を行ひ、國政全般に互つて大改革を試み、また海軍を盛にして地中海に活躍を試みてゐる。

トルコの形勢

トルコは大戰によつてヨーロッパ洲における領土の大部分を失つたが、ケマル



ヤシパルマケ

パシヤの下に奮起し、ギリシヤを破つてその一部を回復し(一九二二)、更に共和政を布いた(一九二三)。イスパニヤは最初イタリヤを模倣してゐたが、最近王政が倒れて共和政が布かれ(一九三二)、今やその建設の途中にある。

イスパニヤの形勢

イギリスでは一九二九年に、マクドナルドの下に労働党内閣が成立したが、世界的不況の影響を受けて未曾有の困窮に陥り、一九三一年舉國一致内閣が成立した。また既に一九二二年にアイルランド自由國が起り、エジプトも半獨立



ーヂンガ

國となつた(五三)。更にインドも獨立を企て、ガンヂーの下に活潑な運動を續けてゐたが、一九三一年末ロンドンでイギリスインド圓卓會議を開き、妥協點を見出さうと努めた。しかしこの試みも結局失敗に歸し、インドの獨立運動はその後一層激しくなつたので、政府は、ガンヂー等を捕へて、インド鎮壓に全力を注いでゐる有様である。

極東の形勢

- A 支那の排日運動
- B 滿洲事變
- C 上海事變

五 極東の事變 中華民國は最近國民黨の下に統一された觀があつたが、頻りに利權の回收に努め、殊に日本に對して極端な排日的態度を發揮し、遂に日本の權益を蹂躪し、干戈を動かすに至つた。そこで日本は既得權擁護のため、支那に出兵して軍事行動を起した。



近代工藝品の變遷

近代工藝品の變遷

近代の文化は目覺しい變遷を遂げつゝある。殊にそれは最近五十年の經過に於て著しく認められる。上圖は十九世紀末期の工藝品の一例であり、下圖は現代のそれである。この兩圖を比較しても、以前の工藝品が實用を第二として、第一に外容の美と裝飾とを重じたことが分る。これに反して現代は實用を主とし、さうしてそれに相應した程度的美觀を添へるに止めてゐる。織細の技巧を重じた舊時代と端的な實用的價値を主とする現代との差は、よくこの兩圖の比較によつて窺はれる。我等はそこに時代の流れを認め、その大勢を活用することに努めねばならない。

D アメリカ合衆國及び國際聯盟の干渉

現代文明の特色
A 工業時代・機械時代

B 現實的・民衆的氣風の旺盛

C 航空時代

滿洲事變(一九三一年九月以降)及び上海事變(一九三二年一月以降)はそれである。さうして國際聯盟及びアメリカ合衆國は、これに對し時局の平和的解決に努めつゝあるが、極東の事情に明かでないため、未だ十分の解決に到達するに至らない。

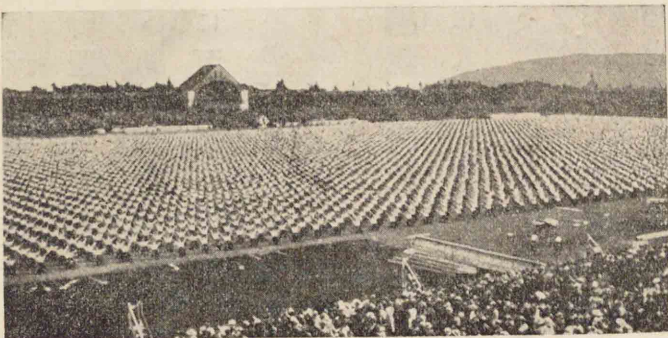
第四章 現代文化の傾向と我が國の地位

■現代文化の傾向 十九世紀の特色であつた物質文明は、二十世紀に入つて更に大なる發達を遂げた。さうして精巧な機械の製造とその應用とは大工業を生み、所謂工業時代・機械時代を現出しつゝある。かくて實用的なもの、堅實なもの、巨大なものが舊來の優雅なものに代るに至つた。また一般民衆の勢力が高まり、貴族的趣味は衰へて現實的・民衆的氣風が世界に廣まるやうになつた。

二十世紀に入つて航空機の進歩は實に著しく、ために多くの航空

D 種々の世界的運動

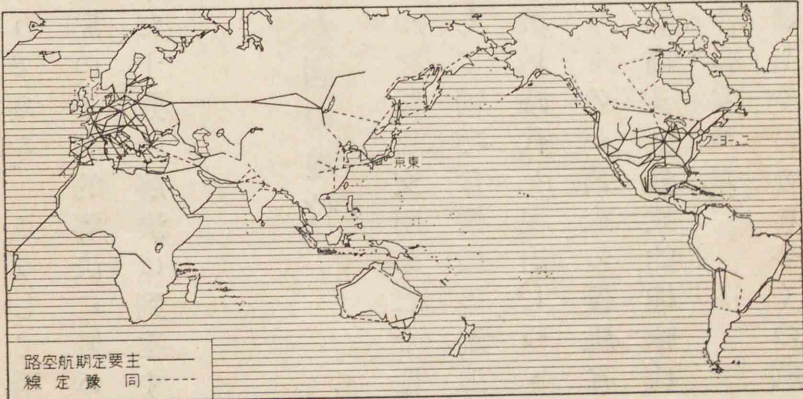
一九二〇年アラ
ーグに於けるソ
コル體育會の光
景で、二萬七千
の女子が集つた
壯觀である。



女子體育

路が開拓され、各國の交通は驚くべき發達を遂げた。かくの如き交通の發達は、人間の生活を益、大規模ならしめ、團結と組織とを愈、必要ならしめた。それで内

にあつては國民の團結が一層鞏固となり、外にあつては世界的平和運動、勞働運動を始め、その他種々の文化運動が盛に起るやうになつた。



世界航空路圖

E 東洋文明への憧憬

一九三一年九月十九日第六十五回聯盟理事會の光景で、この日始めて滿洲問題が上程された。椅子席右側より五人目が芳澤日本代表、左端が施中華代表。

世界に於ける日本の地位
A 世界を舞臺とする日本となつたこと
B 實力養成の必要



聯盟理事會の光景

なつた。

現代の文化は以上の如く元氣と活力とに充ちてゐるが、反面浮薄と奢侈との風も次第に廣まりつゝある。また世界全體に互つて生活難が著しくなつて來たので、物質文明を非難するもの、西洋の物質文明を棄て、東洋の精神文明に還れと叫ぶものも現はれて來た。

世界に於ける日本の地位 永い間ヨーロッパを中心とした西洋史も十八世紀の末からその範圍を次第に廣め、アメリカ、アジアに及び、更に太平洋にまで達した。インドの覺醒、支那の新興、アメリカ合衆國の飛

中世						
世紀	四	五	六	七	八	九
西紀	三三三	四六一	五七〇	六三二	六八二	七三二
西洋史	フン族の侵入	カタラウヌムの戦	西ローマ帝國滅亡 フランク建國	ユスチニアヌス帝即位 ローマ法の編纂 マホメット生る	イスラム教國の紀元元年 ササン朝ペルシヤの滅亡	偶像破壊の令 ツールの戦 東西カリフの分立
國史・東洋史	四〇〇 支那南北朝の對立 四七〇 雄略天皇の即位 四七〇 豐受大神を伊勢に移す	五九〇 隋の一統 五三三 推古天皇即位	六八八 唐の建國	七二〇 平城奠都 七四四 聖武天皇即位 七四四 平安奠都	八〇五 最澄唐より歸朝 八三〇 空海死す 八六八 藤原良房攝政となる 八七〇 藤原基經關白となる	一四八六 喜望峯發見 一四九一 コロンブスのアメリカ發見 一四九八 インド航路發見
世紀	十一	十二	十三	十四	十五	十六
西紀	一〇六六	一〇七二	一〇九一	一一〇〇	一一〇一	一一〇二
西洋史	ノルマンの征服 カノッサ事件 第一回十字軍出征	フレデリック一世即位 第二回十字軍	大憲章發布 二九一 法王インノセント三世 リグニツの戦	オスマントルコ起る 一三〇一 法王のアヴィニョン幽囚 百年戰役起る クレシーの戦	黄金文書の發布 スウイスの獨立 オルレヤン城救はる 百年戰役終る	東ローマ帝國滅亡
國史・東洋史	一〇三三 義家の功を賞す 一〇四四 叡山の僧園城寺を焚く 一〇四四 蘇軾貶せらる	一二三三 鎌倉幕府創立	一二〇六 成吉思汗の即位 一二三三 僧道元宋に往く 一二六〇 元の世祖の即位	一二三四 建武中興 一二三六 楠木正成戦死 一三三八 新田義貞戦死 一三六八 元の滅亡 一三三〇 後龜山天皇神器を後小松天皇に傳へらる	一四〇一 義満明と修好 一四〇五 チムール死す	一六〇〇 關ヶ原の戦 一六三三 家康將軍となる 一六〇九 イスパニヤ人通商開始 一六二六 マルハチ皇帝を稱す 一六三四 イスパニヤ人臺灣に據る 一六四四 明の滅亡 一六四八 中江藤樹死す 一六五一 將軍家光死す 一六五九 明人朱舜水來朝 一六六一 鄭成功臺灣に據る 一六八〇 綱吉將軍となる 一六八三 臺灣清領となる 一六八九 ネルチンスク條約

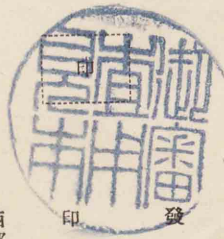
近世 (上)		
世紀	十五	十六
西紀	一四八六	一四九一
西洋史	喜望峯發見 コロンブスのアメリカ發見 インド航路發見	ルイテル宗教改革を唱ふ ウオルムスの國會 世界周航(マジエラン) ヤソ會の創立 ポルトガル人日本に來る サウイエル日本に來る アウグスブルグ宗教和議 一五八〇 エリザベス女王時代
國史・東洋史	一四七六 應仁の亂起る 一四九一 北條早雲伊豆に起る	一五三六 ムガル帝國起る 一五五五 義輝將軍となる 一五五五 川中島の戦 一五五七 ポルトガル人澳門を取る 一五六八 京都に南禪寺建立
世紀	十七	十八
西紀	一六〇〇	一六〇一
西洋史	イギリス東インド會社設立 オランダ東インド會社設立 フランス東インド會社設立 三十年戰役起る リュツェンの戦 ウエストファリアの和議	北方戰役起る イスパニヤ繼承戰役起る ユトレヒト和約 ラスタット和約 オーストリア繼承戰役起る
國史・東洋史	一六〇〇 關ヶ原の戦 一六三三 家康將軍となる 一六〇九 イスパニヤ人通商開始 一六二六 マルハチ皇帝を稱す 一六三四 イスパニヤ人臺灣に據る 一六四四 明の滅亡 一六四八 中江藤樹死す 一六五一 將軍家光死す 一六五九 明人朱舜水來朝 一六六一 鄭成功臺灣に據る 一六八〇 綱吉將軍となる 一六八三 臺灣清領となる 一六八九 ネルチンスク條約	一七〇〇 徳川光圀死す 一七〇三 赤穂義士の復讐 一七六六 吉宗將軍となる 一七三三 清天主教を禁す 一七五五 吉宗隠退

近世(上)		近世(下)	
世紀	十八	世紀	十九
西紀	一七五六 一七五七 一七五三 一七五二	西紀	一八〇四 一八〇三 一八〇二 一八〇一 一八〇〇 一七九九 一七八九 一七八八 一七八七 一七八六 一七八五 一七八四 一七八三 一七八二 一七八一 一七八〇 一七八九 一七八八 一七八七 一七八六 一七八五 一七八四 一七八三 一七八二 一七八一 一七八〇 一七八九 一七八八 一七八七 一七八六 一七八五 一七八四 一七八三 一七八二 一七八一 一七八〇
西洋史	七年戦役起る ブラッシーの戦 パリイ和約 ポーランド第一分割	西洋史	ナポレオンの即位 対フランス第三回同盟 トラファルガル及びアウステルリッツの戦 大陸封鎖令 ナポレオンのロシア遠征 対フランス第四回同盟 ワテローの戦、神聖同盟の成立 ギリシャの獨立戦争起る
國史・東洋史	一七六八 山縣大貳の死刑 一七七二 田沼意次老中となる 一七九八 安南清に入貢 一七九三 林子平の禁錮 一七九三 高山彦九郎自殺 一七八八 近藤重藏擄捉島に渡る	國史・東洋史	一八〇四 レザノフ來る 一八〇七 ロシヤ人蝦夷に寇す 一八〇八 イギリス船長崎に侵入 一八四四 伊能忠敬の沿海實測全圖成る 一八二五 清阿片輸入を嚴禁す
世紀	十八	世紀	十九
西紀	一七六六 一七六五 一七六四 一七六三	西紀	一八〇六 一八〇五 一八〇四 一八〇三 一八〇二 一八〇一 一八〇〇 一七九九 一七八九 一七八八 一七八七 一七八六 一七八五 一七八四 一七八三 一七八二 一七八一 一七八〇 一七八九 一七八八 一七八七 一七八六 一七八五 一七八四 一七八三 一七八二 一七八一 一七八〇
西洋史	アメリカ合衆國の獨立宣言 ヴェルサイユ和約 ポーランド第二分割 ポーランド第三分割 モンローの宣言 七月革命、ベルギーの獨立 ドイツの關稅同盟成る 二月革命 ナポレオン三世の即位 クリミア戦役起る イタリヤ統一の役起る アメリカ合衆國の南北戦争起る プロシヤ・オーストリア戦役 ドイツ・フランス戦役 イタリヤの統一完成 ドイツの統一完成 ロシヤ・トルコ戦役起る ベルリン列國會議	西洋史	米西戦争起る 南アフリカ戦争起る 世界大戦終る パリイ講和會議 ワシントン會議 ロンドン協定成る ロカルノ會議 ジュネーヴ軍縮會議 不戰條約調印 ロンドン軍縮會議 ブーヴァーのモラトリアム提唱 ジュネーヴ軍縮會議
國史・東洋史	一八一 大槻玄澤の蘭學階梯出づ 一七八六 シヤム清に入貢	國史・東洋史	一八八一 イリ問題解決 一八四四 日清戦役起る 一八九八 シベリヤ出兵 一九〇九 排日運動起る 一九一三 關東大震災 一九一四 日米紳士條約 一九一六 大正天皇崩御 一九一八 今上天皇即位 一九一八 國民政府成立 一九一三 滿洲事變 一九一三 上海事變、滿洲國成立

近世(下)		最近世	
世紀	十九	世紀	二十
西紀	一八八二 一八八三 一八八四 一八八五 一八八六 一八八七 一八八八 一八八九 一八九〇 一八九一 一八九二 一八九三 一八九四 一八九五 一八九六 一八九七 一八九八 一八九九 一九〇〇 一九〇一 一九〇二 一九〇三 一九〇四 一九〇五 一九〇六 一九〇七 一九〇八 一九〇九 一九一〇 一九一一 一九一二 一九一三 一九一四 一九一五 一九一六 一九一七	西紀	一九一七 一九一六 一九一五 一九一四 一九一三 一九一二 一九一三 一九一四 一九一五 一九一六 一九一七 一九一八 一九一九 一九二〇 一九二一 一九二二 一九二三 一九二四 一九二五 一九二六 一九二七 一九二八 一九二九 一九三〇 一九三一 一九三二 一九三三 一九三四 一九三五 一九三六 一九三七 一九三八 一九三九 一九四〇 一九四一 一九四二 一九四三 一九四四 一九四五 一九四六 一九四七 一九四八 一九四九 一九五〇 一九五一 一九五二 一九五三 一九五四 一九五五 一九五六 一九五七 一九五八 一九五九 一九六〇 一九六一 一九六二 一九六三 一九六四 一九六五 一九六六 一九六七 一九六八 一九六九 一九七〇 一九七一 一九七二 一九七三 一九七四 一九七五 一九七六 一九七七 一九七八 一九七九 一九八〇 一九八一 一九八二 一九八三 一九八四 一九八五 一九八六 一九八七 一九八八 一九八九 一九九〇 一九九一 一九九二 一九九三 一九九四 一九九五 一九九六 一九九七 一九九八 一九九九 二〇〇〇
西洋史	イギリスエジプトの實權を握る 三國同盟成立 二國同盟成立 日英同盟成立 日露戦役起る モロッコ問題起る イタリヤ・トルコ戦役 第一次バルカン戦役 第二次バルカン戦役 世界大戦起る ヴェルダン攻撃 ロシヤの革命、アメリカ合衆國の參戰	西洋史	一九一七 北清事變起る 一九二〇 清と列國和議成立 一九〇七 日佛・日露協約成 一九一〇 韓國併合 一九一三 大正天皇踐祚 一九二二 支那共和國の承認 一九二四 日本ドイツに宣戦 一九二六 袁世凱死す
國史・東洋史	一八八九 憲法發布 一八九〇 第一回議會召集	國史・東洋史	一九一八 米西戦争起る 一九一四 日清戦役起る

史洋西新子女

錢貳拾八金價定



著者

大

類

伸

發行者

株式會社

東京

開

成

館

印刷者

內

海

岩

吉

西部販賣所

三

木

佐

助

東部販賣所

株式會社

林

平

書

店

昭和七年六月三十日印刷
昭和七年七月四日發行

昭和七年十二月一日訂正再版印刷
昭和七年十二月五日訂正再版發行

發行所

東京市小石川區小日向水道町八十四番地
振替貯金口座 東京五參貳貳番

株式會社 東京開成館

4A
橋下貞子

一六四四

